山梨県韮崎市

北後田遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1990

韮崎市教育委員会
峡北土地改良事務所

山梨県韮崎市

北後田遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1990

韮崎市教育委員会
峡北土地改良事務所

序　　文

韮崎市は、国指定史跡新府城跡を有し、また、全国的にも有名な坂井遺跡をはじめ文化財の宝庫として、一般の方々・研究諸氏の注目を集め県内外に広く知られております。近年は県営圃場整備事業等の大規模開発にともない、数多くの遺跡が発掘調査され、貴重な文化財の発見が相次いでいます。

この度発刊された本報告書は、そのような大切な発見が相次ぐ大規模開発の一端として平成元年度県営圃場事業に伴い発掘調査された、北後田遺跡の報告であります。

北後田遺跡は昭和63年度に調査された後田遺跡と、平成元年～２年に調査された宮ノ前遺跡との間に位置し、遺跡の立地から両遺跡をつなぐものとして古代の集落等の様相を知るうえで重要な遺跡と言えます。発見された遺構は縄文時代の竪穴住居址・土坑、奈良・平安時代の竪穴住居址などで、出土した遺物は当時の生活用品である土器が主体となっており、貴重な資料が得られました。これらの資料が、先人の生活ならびに社会解明の一助となればと願うと同時に、永く後世に伝えることを責務と痛感致します。

最後に、北後田遺跡の調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を頂いた関係の諸機関及び皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成２年３月31日

韮崎市教育委員会

教育長　功刀幸丸

例　　言

1　本書は、県営圃場整備事業に伴う北後田遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、峡北土地改良事務所負担金、文化庁・山梨県の補助金を受け、韮崎市教育委員会が実施した。

3　本報告書の作成は、韮崎市教育委員会社会教育課が行い、山下孝司が担当した。

4　遺物・図面整理及び報告書作成にかかわる業務の参加・協力者（敬称略）

深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・根岸小春・功刀まゆみ・佐野靖子・矢房静江・竜沢みち子・平井由佳・シン航空写真KK

5　凡　　例

①　挿図中の穴等の数字は床面及び確認面からの深さをあらわす。

②　挿図中のドットは焼土をあらわす。

③　挿図断面図の　は石をあらわす。

④　縮尺は各挿図ごとに示した。

⑤　歴史時代土器断面、白ぬきは土師器、黒は須恵器、網点は陶器をあらわす。

⑥　写真図版中の遺物番号は挿図中の遺物番号に対応する。

6　発掘調査及び報告書作成にあたり、次の方々から御指導・御協力をいただいた。厚く御礼を申し上げる次第である。（敬称略）

坂本美夫・米田明訓・古谷健一郎（山梨県教育庁文化課）、田代孝・末木健・新津健・八巻与志夫（山梨県埋蔵文化財センター）、萩原三雄・宮沢公雄・平野修・櫛原功一（帝京大学山梨文化財研究所）、山路恭之助（須玉町教育委員会）、桜井真貴（長坂町教育委員会）、畑大介（甲斐丘陵考古学研究会）、原正人（山梨郷土研究会）、志村富三（韮崎市文化財審議会委員）

7　発掘調査・整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調　査　組　織

1　調査主体　　韮崎市教育委員会

2　調査担当　　山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）

3　調査参加者

岡本嘉一・小田切絹枝・鈴木きく江・小沢高恵・小沢千代子・小沢春代・岡本保枝・長島昌子・小沢久江・志村冴子・小沢みやの・小沢栄子・五味ゆき子・坂本恒子・深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・根岸小春・功刀まゆみ・小林一・貝瀬洋志・伊東千代美・水上幸枝・金丸よし子・大柴恒子・中沢有子・小川けさじ・小林銀子・神取ツギ子・仲田鈴子・大柴みや子・仲田竹子・名取房子・小野安子・保坂かつよ・大柴和子・清水久二雄・篠原哲也・河内秀樹・佐野正幸

4　事 務 局　　韮崎市教育委員会社会教育課

教育長　功刀幸丸、課長　成島主計、課長補佐　真壁静夫、係長　雨宮勝己・野沢可祝

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
挿図目次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯と概要 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 1

1　遺跡の立地 …… 1
2　周辺の遺跡 …… 1

Ⅲ　遺跡の地相概観 …… 4

Ⅳ　調査の方法 …… 4

Ⅴ　遺　　構 …… 8

1　縄文時代
2　奈良・平安時代

Ⅵ　遺　　物 …… 38

1　縄文時代
2　奈良・平安時代

Ⅶ　ま　と　め …… 77

お　わ　り　に …… 77

写真図版

挿　図　目　次

第１図　北後田遺跡①と周辺遺跡 …… 2
第２図　北後田遺跡位置図 …… 3
第３図　北後田遺跡全体図 …… 5
第４図　北後田遺跡Ａ区 …… 6
第５図　北後田遺跡Ｂ区 …… 7
第６図　縄文時代遺構（Ａ区３・４・５・６号住居址） …… 11
第７図　縄文時代遺構（Ａ区８・９・10号住居址） …… 12
第８図　縄文時代遺構（Ａ区11・12・13・14号住居址） …… 13
第９図　縄文時代遺構（Ａ区15・19・20・21号住居址、Ｂ区１号土坑） …… 14
第10図　奈良・平安時代遺構（Ａ区１・２・７号住居址） …… 23
第11図　奈良・平安時代遺構（Ａ区16・17・18号住居址） …… 24
第12図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区１・２・３・４号住居址） …… 25
第13図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区５・６・７号住居址） …… 26
第14図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区８・９・10・11号住居址） …… 27
第15図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区12・13・14号住居址） …… 28
第16図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区15・16・17・18号住居址） …… 29
第17図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区19・20・21・33号住居址） …… 30
第18図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区22・23・24・25号住居址） …… 31
第19図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区26・27・28・29号住居址） …… 32
第20図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区30・31・32号住居址、Ｂ区２号土坑） …… 33
第21図　奈良・平安時代遺構（Ｂ区34・35号住居址） …… 34
第22図　奈良・平安時代遺構（Ａ区１・２・４号掘立柱建物址） …… 35
第23図　奈良・平安時代遺構（Ａ区３号掘立柱建物址、Ａ区ピット群Ⅰ・Ⅱ） …… 36
第24図　Ａ区井戸跡 …… 37
第25図　縄文時代遺物（Ａ区３・５号住居址出土遺物） …… 38
第26図　縄文時代遺物（Ａ区６・８号住居址出土遺物） …… 39
第27図　縄文時代遺物（Ａ区８・９・10号住居址出土遺物） …… 40
第28図　縄文時代遺物（Ａ区13・14号住居址出土遺物） …… 40
第29図　縄文時代遺物（Ａ区15・19号住居址出土遺物） …… 41
第30図　縄文時代遺物（Ａ区20号住居址出土遺物） …… 42
第31図　縄文時代遺物（Ａ区21号住居址・Ｂ区１号土坑・Ａ区遺構外出土遺物） …… 43
第32図　奈良・平安時代遺物（Ａ区２・７・16号住居址出土遺物） …… 51
第33図　奈良・平安時代遺物（Ａ区18号住居址出土遺物） …… 52
第34図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区１・２号住居址出土遺物） …… 53
第35図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区３・４・５号住居址出土遺物） …… 53
第36図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区６・８号住居址出土遺物） …… 54
第37図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区８・９号住居址出土遺物） …… 55
第38図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区10・11・12号住居址出土遺物） …… 56
第39図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区14・15・16・17号住居址出土遺物） …… 57
第40図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区18・20・21号住居址出土遺物） …… 58
第41図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区21・22・23・25号住居址出土遺物） …… 59
第42図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区26・27・28号住居址出土遺物） …… 60
第43図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区29・30・34号住居址出土遺物） …… 61
第44図　奈良・平安時代遺物（Ｂ区35号住居址、Ａ区井戸跡内出土遺物、
Ｂ区竪穴住居址出土石器類） …… 63

写 真 図 版 目 次

図版１　Ａ区３・４・５・６号住居址、５・８号住居址遺物出土状態、５号住居址炉、８号住居址出土状態

図版２　Ａ区９・10・13・14・15・19・20・21号住居址

図版３　Ｂ区１号土坑、Ａ区１・２・７・16・17・18号住居址、Ａ区調査風景

図版４　Ａ区１・２・３・４号掘立柱建物址、Ｂ区１・２・４・６号住居址

図版５　Ｂ区７・８・９・11・12・13・14・15号住居址

図版６　Ｂ区16・17・18・21・33・22・24・25・26号住居址

図版７　Ｂ区27・28・29・30・35・31・32号住居址、Ｂ区調査風景、遺跡近景

図版８　Ａ区井戸跡断面図・内部・完掘、Ａ区３・５号住居址出土遺物

図版９　Ａ区６・８号住居址出土遺物

図版10　Ａ区９・10・13・14・15号住居址出土遺物

図版11　Ａ区19・20・21号住居址、Ｂ区１号土坑、Ａ区遺構外出土遺物

図版12　Ａ区16・18号住居址出土遺物、Ｂ区２号住居址出土遺物

図版13　Ｂ区４・６・８・９・11・12・14・15・17・18・20・21号住居址出土遺物

図版14　Ｂ区22・28・29・34号住居址、Ａ区井戸跡出土遺物、北後田遺跡調査途中空中写真

Ⅰ　調査に至る経緯と概要

平成元年度県営圃場整備事業実施にともない、本市教育委員会では韮崎市圃場整備室から依頼を受け、事業予定地区を昭和63年度に踏査を行い、遺跡の存在を確認した。その結果をもとに、峡北土地改良事務所・山梨県教育庁文化課・市教育委員会で協議を行い、遺跡名を北後田遺跡とし、圃場整備事業に先立って延面積約5000㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

発掘調査は、平成元年6月末より開始し、約5カ月間行った。引き続き、遺物等の整理作業を行い、報告書作成までの作業が完了したのは、平成2年3月であった。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

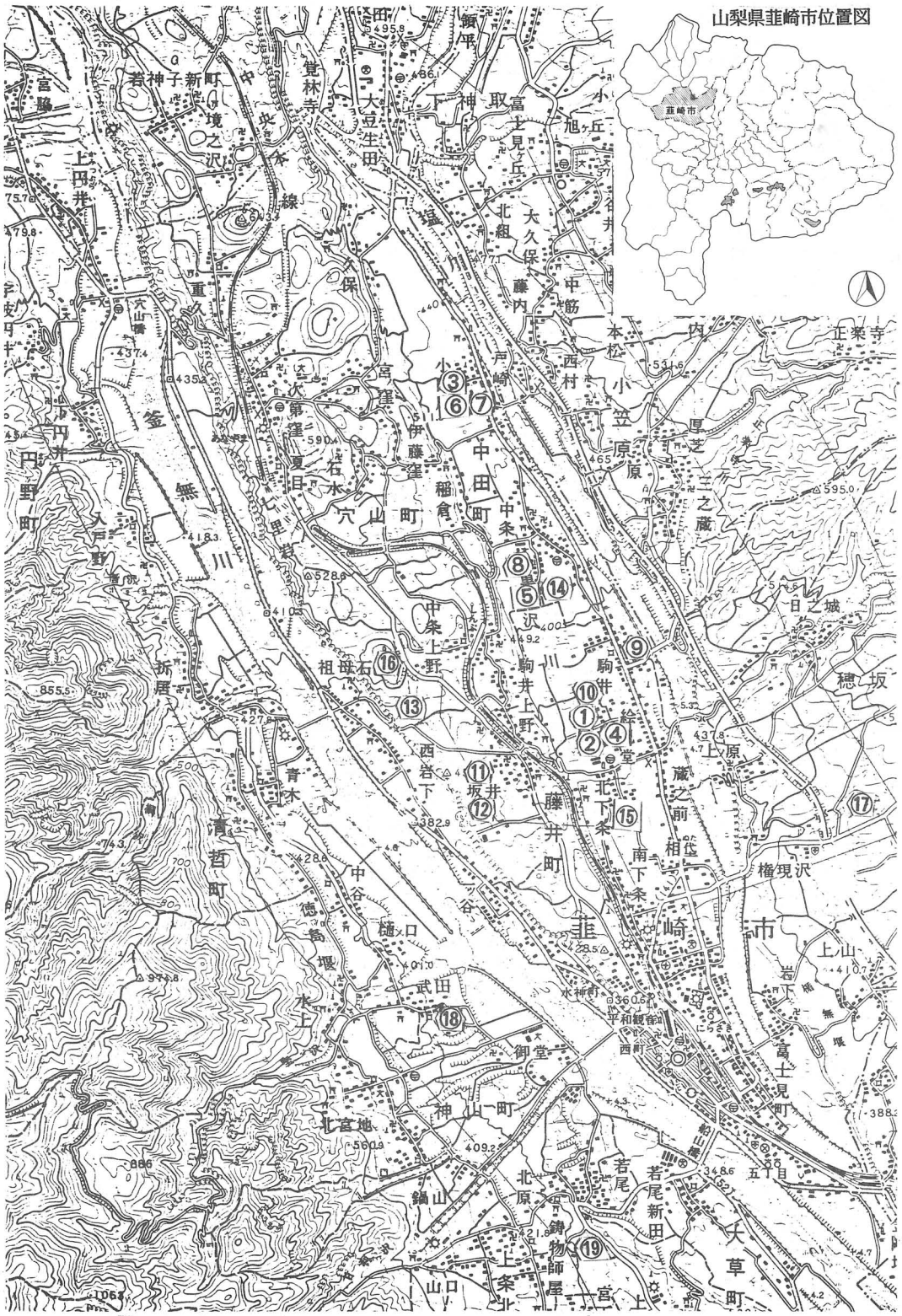
1　遺跡の立地

北後田遺跡は、山梨県韮崎市藤井町坂井字後田地内に所在した。昭和63年度に調査された後田遺跡と関連し、その北側に遺跡が立地することにより北後田を遺跡名とした。

韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。塩川右岸の氾濫原は、塩川の侵食によって造られた茅ケ岳山麓の断崖と、七里岩台地東側の片山とに挟まれた低地性の平地となっている。この平地は通称藤井平と呼ばれ、地内を貫流する黒沢川・藤井堰により水利がよく、肥沃で豊かな水田地帯が広がっている。また、『甲斐国志』には「穴山ヨリ南小田川、駒井、坂井、中條、下條、韮崎等ノ数村ヲ里人藤井ノ庄五千石ト云」と記載があり、古くから穀倉地帯であったことが窺える。当該地帯は一見平坦地の様相を呈してはいるが、地形を観察してみると、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地が所々に発達していることがわかる。藤井平は、このような微高上に遺跡が点在しており、北後田遺跡は標高約386ｍの水田下に発見された。

2　周辺の遺跡

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
①	北後田遺跡	縄文・奈良・平安	平成元年度 韮崎市教育委員会調査
②	後　田　遺　跡	縄文・古墳・奈良・平安	昭和63年度 韮崎市教育委員会調査
③	中本田遺跡	縄文	昭和61年度 韮崎市教育委員会調査
④	堂の前遺跡	弥生・奈良・平安	昭和61年度 韮崎市教育委員会調査



第１図　北後田遺跡①と周辺遺跡　（1：50,000）

第２図　北後田遺跡位置図　（1：3,000）

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
⑤	金　山　遺　跡	中世～近世	昭和60年度 韮崎市教育委員会調査
⑥	中　道　遺　跡	縄文晩期・平安	昭和60年度 韮崎市教育委員会調査
⑦	下 木 戸 遺 跡	平安	
⑧	中田小学校遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	昭和59年度 韮崎市教育委員会調査
⑨	駒　井　遺　跡	平安	昭和59年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
⑩	宮 ノ 前 遺 跡	縄文・平安	
⑪	坂　井　遺　跡	縄文前期～晩期	志村滝蔵『坂井』地方書院 昭和40年
⑫	坂 井 南 遺 跡	古墳前期・平安	昭和60年度 韮崎市教育委員会第３次調査
⑬	天 神 前 遺 跡	縄文	
⑭	前　田　遺　跡	平安	昭和62年度 韮崎市教育委員会調査
⑮	北 下 条 遺 跡	弥生・平安	昭和57年度 韮崎市教育委員会調査
⑯	新　府　城　跡	中世城郭	国指定史跡
⑰	女 夫 石 遺 跡	縄文	
⑱	武田信義館跡	中世	
⑲	久保屋敷遺跡	古墳前期	昭和58年度 山梨県埋蔵文化財センター調査

Ⅲ　遺跡の地相概観

北後田遺跡は、藤井小学校から250～300ｍ程北側の、日当りの良い微高地で、北東側に集落が形成されている。遺跡の南側は、昭和63年度に発掘調査された後田遺跡があったところで、現在は圃場整備された水田となっている。西側は緩やかに傾斜し低地となっている。調査区域Ａ区において土層を観察すると、上位から下位に耕作土・水田床土・暗褐色土～黒褐色土・暗黄褐色土の順に堆積がみられる。遺構は暗褐色土層ないし暗黄褐色土層中に掘り込まれていた。

Ⅳ　調査の方法

昭和63年度調査の後田遺跡と、平成元年度調査の宮ノ前遺跡とのかかわりを考慮して、調査区域を、便宜上Ａ区・Ｂ区に分けて調査を行った。表土を排除した後、国土座標に合わせ、Ａ区は

第３図　北後田遺跡全体図　（1／1,000）

第４図　北後田遺跡Ａ区　（1／500）

第5図　北後田遺跡B区　(1／500)

5m四方の方眼B区は10m四方の方眼を設定。A区は南から北へA〜N、西から東へ0〜11と番号をつけ、B区は省略した。鋤簾等により精査を行い、遺構確認の後、掘り下げを行った。遺物は出るが遺構の確認困難な箇所はグリットの掘り下げを行い調査を実施した。

V 遺　　構

調査の結果発見された遺構は、縄文時代中期の竪穴住居址15軒・前期の土坑1基、奈良・平安時代の竪穴住居址66軒、掘立柱建物址4棟・井戸跡1基・土坑2基、その他溝・ピット群などとなっている。以下、時代を追って遺構についてみていこう。なお、紙幅の都合により、B区の竪穴住居址は35軒のみの報告で、溝状遺構も取り上げていない。

1　縄文時代

＜A区3号住居址＞　（第6図）

調査区域西部C－3域に位置する。グリッド掘り下げに際して床面及び炉石を検出した住居址と確認する。平面形はほぼ円形を呈する。規模は直径約4.3mを測る。壁高は高いところで15cm前後を測る。壁はやや外傾し立ち上がる。薯蕷耕作のトレンチャーによる攪乱が著しい。床面はほぼ平坦。柱穴は確認されなかった。炉は住居址中心部から北西によったところにあり、規模は約70cm四方と思われる。内部に深鉢の破片を敷く石囲い炉であるが、北及び南の炉石が抜かれており、東から西に潰されているようである。

＜A区4号住居址＞　（第6図）

調査区域西部B－2・3域に位置する。グリッド掘り下げに際して炉石を発見、薯蕷耕作のトレンチャーによる攪乱が著しいが、さらに床面を検出し住居址として調査する。平面形はほぼ円形を呈する。規模は直径約4.2mを測る。壁高は高いところで5cm前後を測る。壁はやや外傾し立ち上がるが、削平は著しくあまり明瞭ではなかった。床面はほぼ平坦。柱穴は確認されなかった。南隅に石が残るのみであるが、炉はほぼ70cm四方の石囲い炉であったと思われる。

＜A区5号住居址＞　（第6図）

調査区域西南端A－2域に位置する。グリッド掘り下げに際して暗褐色の落ち込みと炉石を発見、さらに床面を検出し住居址として調査する。平面形は不整円形を呈する。規模は東西約4.1m、南北約4.4mを測る。壁高は高いところで約40cmを測る。壁はやや外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦。穴は6箇所、床面からの深さは25cm前後を測る。炉は東西約80cm、南北約90cm、床面からの深さ約20cmの石囲い炉で、住居址内北よりに構築される。炉北側には偏平な石がおかれていた。埋甕は南側壁際にあり、正位に置かれ胴部下半を欠損、近くに偏平な石がある。

＜A区6号住居址＞　（第6図）

調査区域西端C－1域に位置する。薯蕷耕作のトレンチャーによる攪乱が著しいが、グリッド掘り下げに際して炉石を発見、さらに床面を検出し住居址として調査する。平面形はほぼ円形を

呈する。規模は直径約4.5mを測る。壁高は高いところで約15cmを測る。壁はやや外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦。柱跡らしき穴は10箇所、床面からの深さは30cm前後を測る。炉は西と南の炉石が抜かれているが、1m四方の石囲い炉で、床面からの深さ約20cmで、住居址内北よりに構築される。炉東側に敷いたように土器片が出土した。

＜A区8号住居址＞　（第7図）

調査区域西部A－3域に位置する。グリッド掘り下げに際して炉石を検出し住居址と確認する。平面形はほぼ円形を呈する。東側は道のため調査及ばず。規模は直径約5mを測る。壁高は高いところで15cm前後を測る。壁はやや外傾し立ち上がる。床面はほぼ平坦。柱跡らしき穴は8箇所確認され、床面からの深さは16cm～32cmを測る。炉は住居址中心部からやや北よりにあり、規模は約70cm四方と思われる。内部に深鉢の破片を敷く石囲い炉であるが、東及び南の炉石が抜かれていた。

＜A区9号住居址＞　（第7図）

調査区域西南部B－1・2域に位置する。グリッド掘り下げに際して炉石を発見、薯蕷耕作のトレンチャーによる攪乱が著しいが、さらに柱穴を検出し住居址とする。平面形はほぼ円形を呈する。規模は直径約4mを測る。壁高は高いところで20cm前後を測る。壁は外傾し立ち上がる。床面は明瞭ではなかった。柱穴は6箇所確認され、床面からの深さ25cm前後を測る。石が2個あるのみでその形態は解らないが、住居址北よりに石囲い炉が構築されていたと思われる。

＜A区10号住居址＞　（第7図）

調査区域西南端A－1域に位置する。5号住居址掘り下げに際して、西壁断面に石と土器を確認、さらに床面を検出した。平面形は不整円形を呈すると思われる。規模は南北約4.1mを測る。東半分は5号住居址に切られ遺存していない。壁高は高いところで約25cmを測る。壁はやや外傾して立ち上がる。床面は堅く踏み締めた面があまりはっきりしなかったが、ほぼ平坦。柱穴は検出されなかった。炉は住居址内北よりに構築され南北約1m強を測り、石で囲んだ中に土器が据えてあった。

＜A区11号住居址＞　（第8図）

調査区域西端D－0・A－0域に位置する。耕作などによる削平が著しい。グリッド掘り下げに際して炉石を発見し、住居址として調査する。平面形はほぼ円形を呈すると思われる。規模は推定で南北約4.3mの大きさであろう。炉石が僅かに残るのみである。

＜A区12号住居址＞　（第8図）

調査区域西部E－1域に位置する。グリッド掘り下げに際して炉石を検出し住居址とする。平面形はほぼ円形を呈すると思われる。規模は直径4.2mを測る。壁高は高いところで15cm前後を測る。壁はやや外傾し立ち上がる。床面はほぼ平坦。炉石が僅かに残るのみである。

＜A区13号住居址＞　（第8図）

調査区域南部A－5域に位置する。グリッド掘り下げに際して炉石を発見、さらに床面の検出

作業を行い住居址とする。平面形は不整円形を呈する。西側は道のため調査及ばず。規模は直径約４ｍを測る。壁高は25cm前後を測る。壁は外傾し立ち上がる。床面は明瞭ではなかった。柱穴は３箇所確認され、床面からの深さ30cm前後を測る。炉は住居址北よりに石を囲んで構築される。規模は一辺65cm位の方形を呈し、底に土器片が敷いてあった。なお、本址南側には、住居址をこわした状態で縄文時代後期の深鉢が出土した。

＜Ａ区14号住居址＞　（第８図）

調査区域南端Ａ－６域南側グリッドに位置する。グリッド掘り下げに際して炉を確認して、住居址とする。西側は道のため調査及ばず、南側は攪乱。平面形は不整円形を呈すると思われる。規模は南北約4.1mを測る。壁高は高いところで約18cmを測る。壁はやや外傾して立ち上がる。床面は、明瞭ではなかった。柱穴らしきものは５箇所検出され、床面からの深さ約20cm～40cmを測る。炉は住居址内北よりに構築され、西及び南の石が抜かれているが、約80cm四方の規模をもっていたと思われる。東側に東西約1.4m、南北約1.2m、床面からの深さ約55cmの不整楕円形の土坑が確認された。

＜Ａ区15号住居址＞　（第９図）

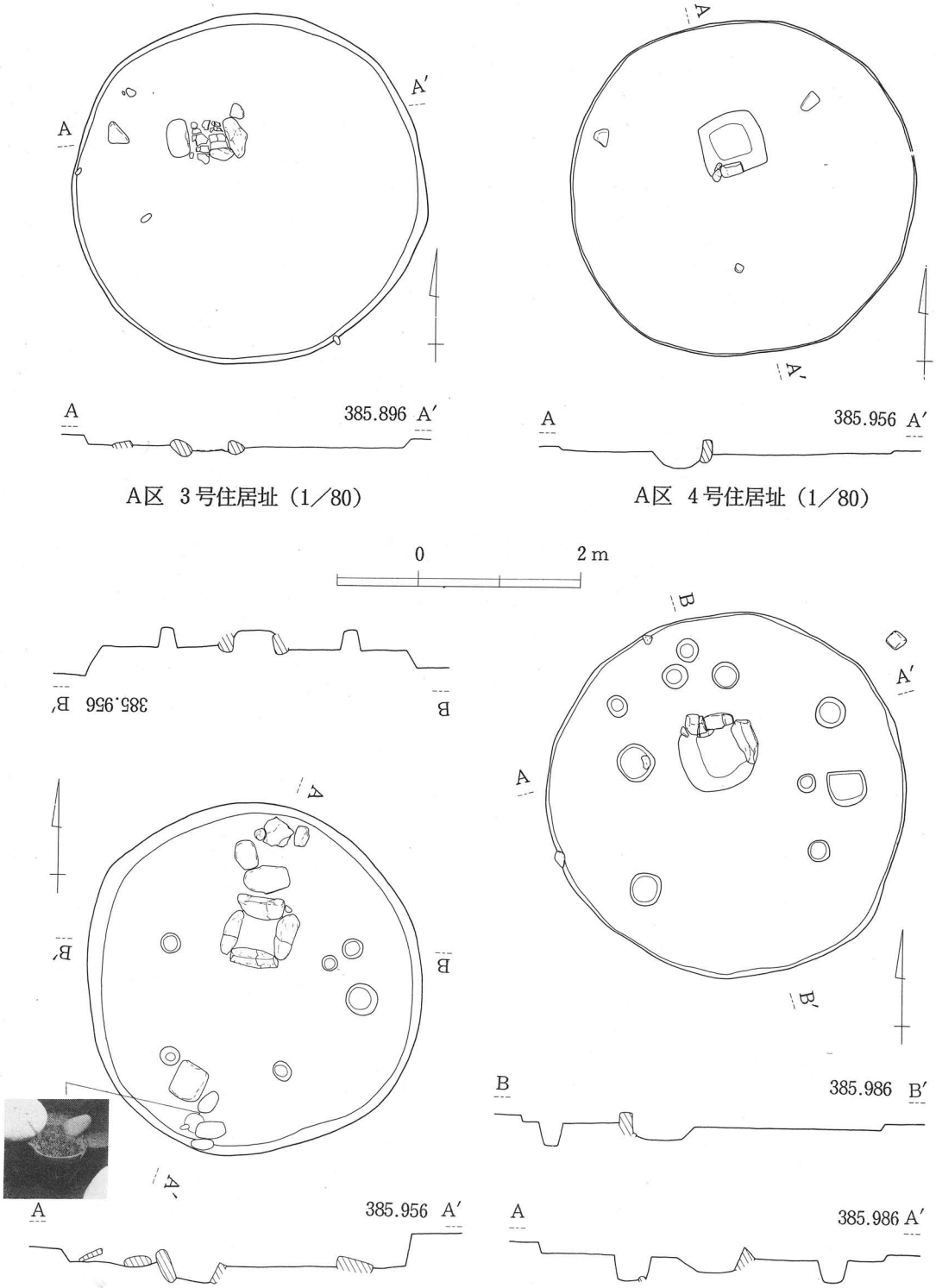
調査区域西端Ａ－１域に位置する。グリッド掘り下げに際して炉石を検出し住居址と確認する。平面形はほぼ円形を呈する。西側は溝により攪乱されている。規模は南北約4.2mを測る。壁高は高いところで約40cmを測る。壁はやや外傾し立ち上がる。床面はほぼ平坦。柱跡らしき穴は４箇所確認され、床面からの深さは21cm～29cmを測る。炉は住居址中心部から北よりにあり、約1.1m四方に石を囲い作られている。

＜Ａ区19号住居址＞　（第９図）

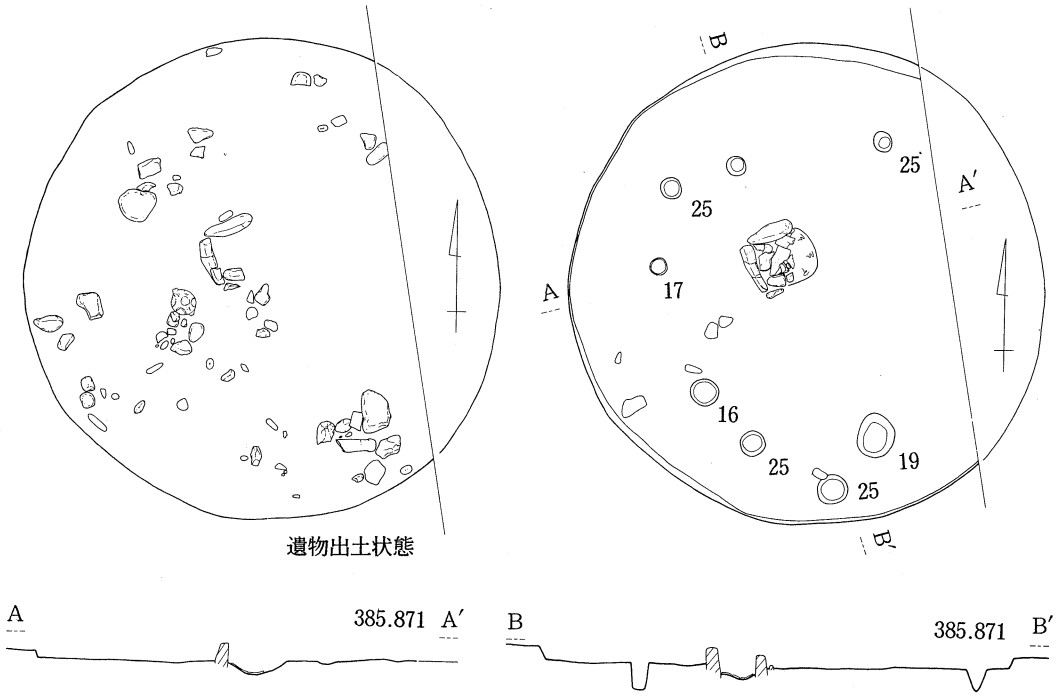
調査区域中央部Ｃ－５・Ｄ－５域に位置する。グリッド掘り下げに際して炉石を発見、さらに柱穴を検出し住居址とする。平面形はほぼ円形を呈する。規模は直径約4.3mを測る。壁高は高いところで10cm前後を測る。壁は外傾し立ち上がる。床面は明瞭ではなかった。柱穴は７箇所確認され、床面からの深さ34cm～45cmを測る。炉は住居址内北よりにあり、西半分の石が見られないが、約90cm四方の石囲い炉であろう。埋甕は南壁際にあり、口縁部及び底部を欠損し正位に置かれ中に拳大の石がみられた。なお本住居址東側には、逆位の埋甕が検出されたが、削平等により消滅してしまったこの埋甕を伴う新しい時期の住居址があったのだろう。

＜Ａ区20号住居址＞　（第９図）

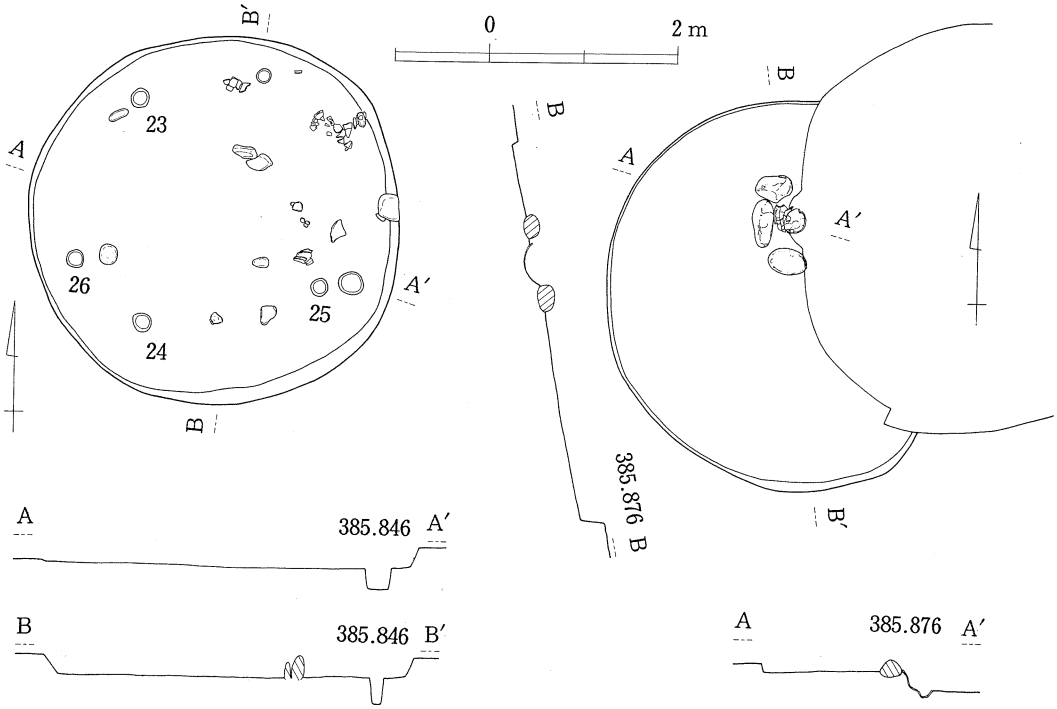
調査区域中央部Ｃ－６域に位置する。グリッド掘り下げに際して暗褐色のおちこみと炉石を発見、さらに柱穴を検出し住居址とする。南側は溝により切られているが、平面形は不整の楕円形を呈すると思われる。規模は直径約４ｍ強を測る。壁高は高いところで30cm弱を測る。壁は外傾し立ち上がる。床面は明瞭ではなかった。柱穴は６箇所確認され、床面からの深さ39cm～55cmを測る。炉は住居址内ほぼ中央にあり、約1.1m四方に大型の偏平な石を囲い、内側に土器片を敷き詰めて構築されている。炉から南側にかけては、敷いたように平均拳大の河原石が多く置かれていた。


A
A′
385.896
A区 3号住居址（1／80）
385.956
A区 4号住居址（1／80）
0
2 m
B
B′
385.986
A区 5号住居址（1／80）
385.956
A区 6号住居址（1／80）

第6図　縄文時代遺構



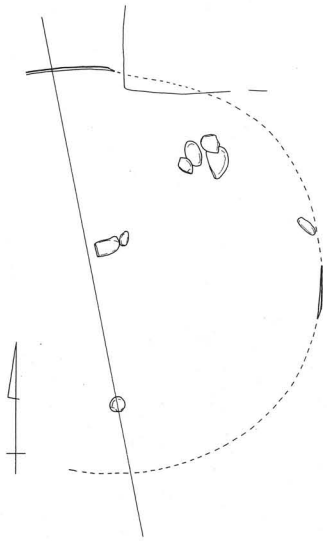
A区８号住居址（1／80）



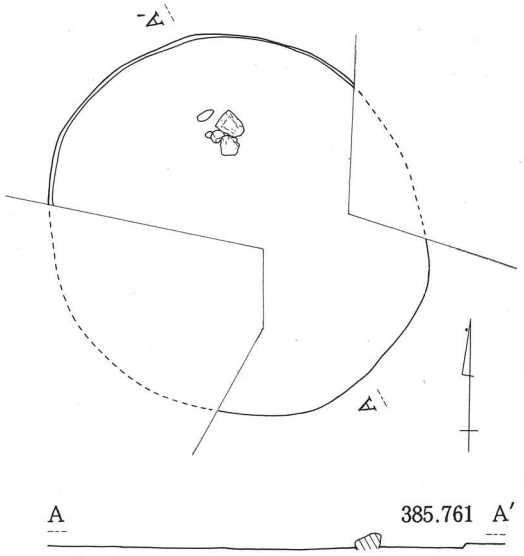
A区９号住居址（1／80）

A区10号住居址（1／80）

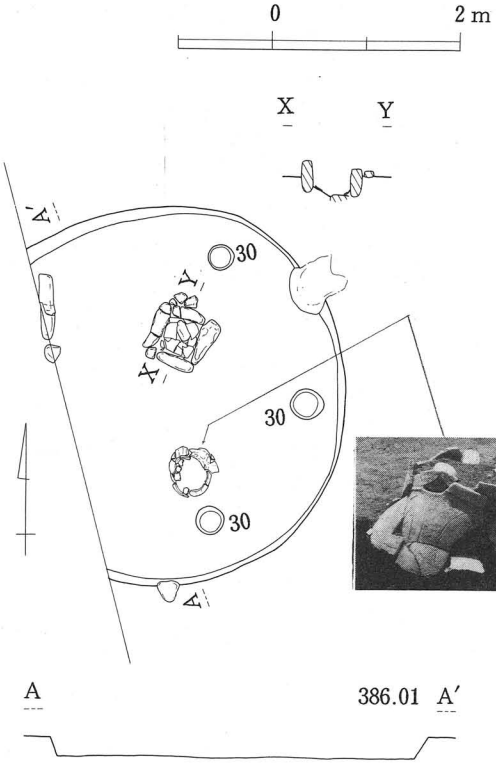
第７図　縄文時代遺構



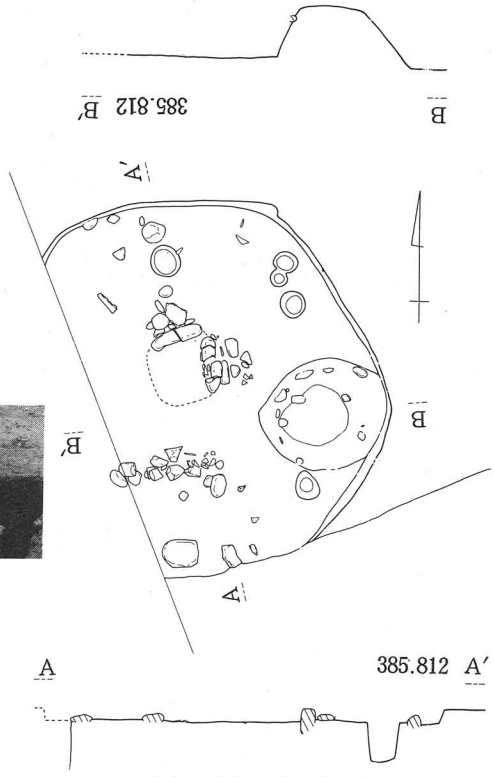
A区11号住居址（1／80）



A区12号住居址（1／80）

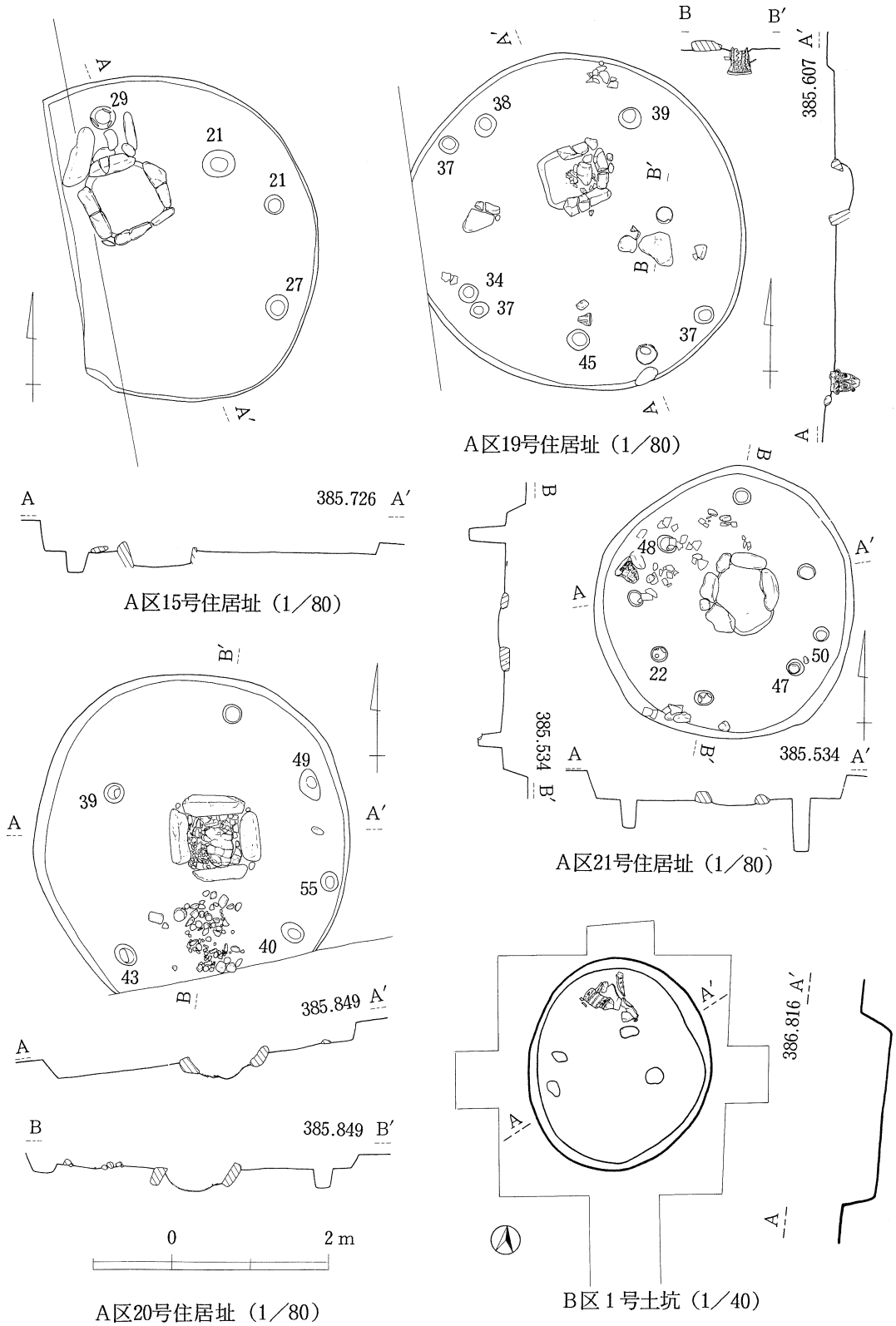


A区13号住居址（1／80）



A区14号住居址（1／80）

第８図　縄文時代遺構


A区19号住居址（1／80）
A区15号住居址（1／80）
A区21号住居址（1／80）
A区20号住居址（1／80）
B区１号土坑（1／40）
385.607
385.726
385.534
385.849
386.816
0
2 m

第９図　縄文時代遺構

＜A区21号住居址＞　（第9図）

調査区域中央D－5・6域に位置する。グリッド掘り下げに際して土器を確認し、炉をさがし床面を検出して住居址とする。平面形は不整円形を呈する。規模は東西約3.3m、南北約3.5mを測る。壁高は35cm前後を測る。炉は住居址中心部から若干北にあり、径約1m前後の円形に石を並べ囲い作られている。南側に石は見られなかった。

＜B区1号土坑＞　（第9図）

調査区域西側中央に位置する。試掘用溝を発掘したところ、暗黄褐色土のなかに暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形は楕円形を呈する。東西約1.2m、南北約1.4mを測る。確認面からの深さは、20cm前後を測る。

2　奈良・平安時代

＜A区1号住居址＞　（第10図）

調査区域中央西側F－2域に位置する。排土作業に際して焼土及び床面が確認された住居址である。耕作等の影響により削平が著しく、遺存状態は悪く、壁はほとんど確認されなかった。規模は東西約2.7m、南北約2.5mで、平面形はほぼ方形を呈する。床面は比較的平坦で堅緻である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東側に構築されていたと思われるが、削平により焼土が確認できるのみであった。

＜A区2号住居址＞　（第10図）

調査区域西側D－1域に位置する。暗褐色土中に暗黄褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はほぼ方形を呈し、規模は東西約3.5m、南北約3.4mを測る。壁は良好な立ち上がりをみせ、高さは30cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、幅広の周溝がめぐる。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ80cm、幅70cmで、石は用いられていない。

＜A区7号住居址＞　（第10図）

調査区域西端A－0域、11号住居址の北側に位置する。暗褐色土中に暗黄褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はほぼ方形を呈し、規模は一辺約3.2～3.5mを測る。削平が著しいが、壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は15cm弱を測る。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁南半部に構築されていたとおもわれるが、削平により焼土が確認できるのみであった。

＜A区16号住居址＞　（第11図）

調査区域北側H－5・6、I－5・6域に位置する。暗褐色土中に暗黄褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はほぼ正方形を呈するが、東西約3.6m、南北約3.5mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は25cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ80cm、幅80cmで、石を用い作られている。内部に甕を支える支脚の石が残っていた。

＜A区17号住居址＞　（第11図）

調査区域中央東側D－7、E－7域に位置する。黒褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。規模は東西約3.3m、南北約3.2mで、平面形は隅円方形を呈する。床面は比較的平坦で堅緻である。柱穴かどうか詳らかではないが、住居址中央付近に直径20cm前後床面からの深さ約52cmの穴がある。周溝がめぐる。カマドは東壁南半部に構築され、規模は長さ約1.2m、幅約90cmで、遺存状態は悪いが、石を用い作られていたであろう。

＜A区18号住居址＞　（第11図）

調査区域中央東側E－7・8域に位置する。黒褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はほぼ隅円長方形を呈し、規模は東西約4.6m、南北約4.1mを測る。壁は良好な立ち上がりをみせ、高さは30cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ1m、幅90cmで、石を用い作られる。

＜B区1号住居址＞　（第12図）

調査区域中央東端、33号住居址の南側に位置する。暗褐色土中に暗黄褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態は隅円長方形を呈し、規模は東西約3.8m、南北約3.4mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は30cm弱を測る。南東側は2号住居址に切られ遺存していない。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは北壁東よりに構築されている。規模は長さ約85cm、幅約75cmを測り、石を用いず土で作られていたと思われる。

＜B区2号住居址＞　（第12図）

調査区域中央東端に位置し、1号住居址を切っている。暗褐色土中に暗黄褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はほぼ正方形を呈するが、東西約2.7m、南北約2.6mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は25cm前後を測る。1号住居址と重複する部分は壁が明瞭ではなかった。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ1.3m、幅1mで、石を用い作られている。

＜B区3号住居址＞　（第12図）

調査区域中央南側に位置する。暗褐色土中に暗黄褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態は隅円正方形を呈し、規模は一辺約2.9mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は40cm弱を測る。南東側過半は10号住居址に切られ僅かな壁の立ち上がりのみ遺存。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは10号住居址により壊されてしまったものと考えられる。

＜B区4号住居址＞　（第12図）

調査区域中央、11号住居址南側に位置する。1号住居址を切っている。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はほぼ正方形を呈し、一辺約2.5mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は15cm前後を測る。南辺は13号住居址と重複する。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南半部に構築され、規模は長さ約1.1m、幅約90cmで、石を用い作られている。

＜B区5号住居址＞　（第13図）

調査区域中央南端に位置する。黒褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態は長方形を呈し、規模は東西約3.8m、南北約3.3mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は25cm前後を測る。南西側は6号住居址と重複しており明瞭ではなかった。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁やや北よりに構築されている。規模は長さ約1.3m、幅約80cmを測り、石を組んで作られる。

＜B区6号住居址＞　（第13図）

調査区域中央南端に位置する。黒褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はやや胴部の膨らんだ長方形を呈する。規模は東西約4.3m、南北約4.3mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は40cm前後を測る。北東側隅過半は5号住居址に切られ壁の遺存は僅かであった。床面は堅く平坦であるが、カマド西側には3カ所のくぼみがある。柱穴はなく、周溝は西〜南〜東にかけて掘られている。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ1.1m、幅1.1mで、石を用い作られている。

＜B区7号住居址＞　（第13図）

調査区域中央北側に位置する。排土作業に際して床面を検出し住居址とする。平面形態は長方形を呈し、規模は東西約2.5m、南北約3mを測る。削平が著しく、遺存状態は悪く、壁はほとんど確認されなかった。床面は比較的平坦で堅緻である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東側に構築されていたと思われる。

＜B区8号住居址＞　（第14図）

調査区域中央、7号住居址南側に位置する。暗褐色土中に焼土を確認し、住居址のカマドと推定して竪穴の落ち込みを精査し掘り下げる。平面形態はほぼ正方形を呈し、一辺約3.3mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は10cm前後を測る。南辺は9号住居址と重複し、明瞭ではなかった。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁南よりに長さ約90cm、幅約80cmの規模で構築され、石を用い作られたと思われる。削平が著しくカマドは壊されていた。カマドにつかわれたと思われるレンガ状の脆いブロックが出土している。

＜B区9号住居址＞　（第14図）

調査区域中央に位置する。暗褐色土中に焼土を確認し、住居址のカマドと推定して竪穴の落ち込みを精査し掘り下げる。平面形態はほぼ正方形を呈するが、東西約3.2m、南北約3.1mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は20cm前後を測る。北辺は8号住居址と重複し、明瞭ではなかった。床面は平坦であるが、本址は16号住居址を切って構築されており、西過半の床面は堅い面が明瞭に把握できなかった。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁中央に長さ約1.3m、幅約1.1mの規模で構築される。

＜B区10号住居址＞　（第14図）

調査区域中央南側に位置する。暗褐色土中に暗黄褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形

態は不整の方形を呈し、規模は東西約2.4m、南北約2.6mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は35cm前後を測る。北西側過半は3号住居址と重複しており、あまり明瞭ではなかった。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁中央に構築されるが、溝等の攪乱を受け遺存状態は悪かった。

＜B区11号住居址＞　（第14図）

調査区域中央北よりに位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態は長方形を呈し、規模は東西約3.9m、南北約3.3mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は20cm前後を測る。南西隅は17号住居址と接している。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは北壁やや西側に構築されている。規模は長さ約1m、幅約80cmを測り、石を用い作られる。

＜B区12号住居址＞　（第15図）

調査区域中央南端に位置する。5号住居址・6号住居址内に埋没して発見された。平面形態は隅円長方形を呈する。規模東西約1.9m、南北約2.9mを測る小型の住居址である。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は5・6号住居址の床面まで30cm前後を測る。床面は堅く平坦であるが、カマド周辺には5カ所のくぼみがある。柱穴・周溝はない。カマドは東壁中央部に構築され、規模はおよそ長さ1.1m、幅70cmで、袖に石を用い作られている。

＜B区13号住居址＞　（第15図）

調査区域中央に位置する。排土作業に際してカマドを検出し住居址とする。北辺は4号住居址と重複しており明瞭ではない。平面形態は長方形を呈すると思われ、規模は東西約2.5m、遺存部分で南北約2.9mを測る。削平により遺存状態は悪く、壁は高いところで約15cmを測る。床面は比較的平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁に石を用い構築。

＜B区14号住居址＞　（第15図）

調査区域中央、13号住居址南側に位置する。暗褐色土中に焼土と石を確認し、住居址のカマドと推定して竪穴の落ち込みを精査し掘り下げる。西過半が18号住居址に切られているようである。平面形態はほぼ正方形を呈すると思われ、一辺約4mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は10cm～25cm前後を測る。北東隅は13・23号住居址と重複。床面は平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁北よりに長さ約90cm、幅約60cmの規模で構築され、石を用い作られる。

＜B区15号住居址＞　（第16図）

調査区域中央南側に位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はやや隅円の方形を呈する。規模は一辺約3.5mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は10cm～25cm前後を測る。南東側は22号住居址を切って構築される。床面は平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁南半部に構築される。石はあまり用いられておらず、規模は長さ約1.1m、幅約1.1mを測る。煙道部分に22号住居址のカマド袖石がみられる。

＜B区16号住居址＞　（第16図）

調査区域中央に位置する。9・13・23号住居址などに切られており、9号住居址掘り下げに際して確認された。平面形態は不整の長方形を呈し、規模は東西約3.3m、南北約3.7mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は15cm～40cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴はない。全体にはめぐらないが、周溝がある。東壁中央部分に接して焼土が確認された。カマドがそこにあったことを示すものであろう。

＜B区17号住居址＞　（第16図）

調査区域中央北よりに位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態は長方形を呈し、規模は東西約3m、南北約3.6mを測る。壁は外傾しながら立ち上がる。削平によるものか浅い竪穴となっており、壁高は5cm～15cm前後を測る。北東隅は11号住居址と接している。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは検出されなかったが、住居址中央部から北側のところに焼土がみられた。

＜B区18号住居址＞　（第16図）

調査区域中央に位置する。14号住居址掘り下げに際してカマドを検出し、竪穴の落ち込みを精査し掘り下げる。平面形態は不整の長方形を呈する。規模は東西3m前後、南北3.3m前後を測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は15cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ1.1m、幅65cmで、袖に石を用い作られている。

＜B区19号住居址＞　（第17図）

調査区域中央北よりに位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。西辺は24号住居址と重複しており明瞭ではない。北側は21号住居址に切られているようである。平面形態は長方形を呈すると思われ、規模は東西3.8m前後、南北3.2m前後であろう。削平により遺存状態は悪く、壁は高いところで約23cmを測る。床面は比較的平坦である。柱穴・周溝はない。カマドはみあたらない。

＜B区20号住居址＞　（第17図）

調査区域南側、24号住居址の西側に位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はほぼ長方形を呈する。規模は東西約2.9m、南北約2.6mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は25cm～35cm前後を測る。床面は平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは南東壁隅に長さ約70cm、幅約60cmの規模で構築され、石がみられた。

＜B区21号住居址＞　（第17図）

調査区域中央北西端に位置する。排土作業に際してカマドを検出し住居址とする。竪穴の落ち込みを精査して掘り下げる。平面形態はやや隅円の長方形を呈する。規模は東西5.1m前後、南北4.5m前後を測り、比較的大型の住居址である。壁は外壁しながら立ち上がり、壁高は高いところで33cmを測る。南辺は19号住居址を切って構築される。床面は平坦である。柱穴・周溝は

カマドは東壁中央南よりに構築される。石を用いて作られており、規模は長さ約1.5m、幅約1mを測る。床面検出に際してひとまわり小型の住居址が下に埋没していることが判明。33号住居址とする。本址北側は住居址の重複が激しい。

＜B区22号住居址＞　（第18図）

調査区域中央、17号住居址南側に位置する。15・18号住居址などに切られており遺存状態は悪い。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを確認し、15・18号住居址掘り下げに際して検出された。平面形態は隅円長方形を呈し、規模は長辺約3.4m、短辺約3.1mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は25cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴はない。全体にはめぐらないが、周溝がある。北壁中央にカマドが構築されていたと思われるが、15号住居址に切られ袖石が一個残っていた。東側にくぼみがある。

＜B区23号住居址＞　（第18図）

調査区域中央に位置する。16号住居址掘り下げに際して西壁に焼土を検出し住居址として拡張する。平面形態は隅円長方形を呈すると思われる。規模は推定で東西約3m、南北約2.7mを測る。他住居址との重複が著しいが、壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は15cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁側に作られていたであろう。

＜B区24号住居址＞　（第18図）

調査区域北側に位置する。19号住居址掘り下げに際して遺構の存在を確認。住居址として掘り下げる。平面形態は隅円長方形を呈する。規模は長辺3.3m前後、短辺3m前後を測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は15cm～25cm前後を測る。東壁は19号住居址に切られ遺存していない。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁中央部に構築された跡がみられる。

＜B区25号住居址＞　（第18図）

調査区域中央南よりに位置する。暗黄褐色土中に焼土を確認し、住居址のカマドとし竪穴の落ち込みを精査して掘り下げる。北側は14・18号住居址に切られ、北辺東半部は23号住居址と重複しており明瞭ではなかった。平面形態は隅円長方形を呈し、規模は東西3m前後、南北3.4m前後となる。重複等により遺存状態は悪いが、壁は高いところで約30cmを測る。床面は比較的平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁南よりに構築され、長さ約85cm、幅約70cmの規模で石を用いてある。

＜B区26号住居址＞　（第19図）

調査区域西側に位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態はほぼ隅円長方形を呈する。規模は長辺3.5m前後、短辺3m前後を測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は30cm～40cm前後を測り比較的深い竪穴となっている。床面は平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁南半部に構築され、規模は長さ約90cm、幅約70cmを測り、石が用いてある。

＜B区27号住居址＞　（第19図）

調査区域西域南側に位置する。任意に設定された補助的試掘溝を掘り下げた際に、カマド及び床面を確認して住居址とする。平面形態は隅円長方形を呈する。規模は長辺3m強、短辺2.7m前後を測る。壁は外傾しながら立ち上がる。壁高は40cm前後を測る。北側は31号住居址と重複しており明瞭ではなかった。床面は堅く平坦である。柱穴はなく、周溝がめぐる。カマドは東壁南半部に構築され、規模は長さ約1.1m、幅約90cmを測る。

＜B区29号住居址＞　（第19図）

調査区域西域中央に位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。南側は28号住居址を切っている。平面形態は隅円長方形を呈し、規模は東西3m前後、南北3.4m前後を測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁は高いところで約45cmを測る。床面は比較的平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南よりに構築され、長さ約1m、幅約75cmの規模で石を用いてある。

＜B区28号住居址＞　（第19図）

調査区域西域中央に位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。北側は29号住居址、南側は31号住居址に切られ遺存状態は悪い。平面形態は隅円方形を呈すると思われる。規模は東西約3.6m、南北約3.5mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は高いところで約40cmを測る。床面は平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは遺存していなかった。

＜B区30号住居址＞　（第20図）

調査区域中央南側に位置する。任意に設定された補助的試掘溝を掘り下げた際に、カマドを確認して住居址とする。竪穴の落ち込みを精査して掘り下げる。北側は25号住居址と重複している。平面形態はほぼ正方形を呈する。規模は一辺約3.6mを測る。床面は平坦。柱穴はないが、周溝がめぐる。カマドは東壁南側に構築される。規模は長さ約1m、幅約70cmを測り、石を用いて作られている。

＜B区31号住居址＞　（第20図）

調査区域西域南側に位置する。27号住居址掘り下げに際して、住居址の重複を確認。またカマドを検出し竪穴の落ち込みを精査し掘り下げる。北側は28号住居址を切っているが、明瞭ではなかった。平面形態はほぼ正方形を呈する。規模は東西約3.1m、南北約3mを測る。壁は外傾しながら立ち上がる。壁高は35cm前後を測る。南側は27号住居址と重複しており明瞭ではなかった。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南半部に石を用い構築され、規模は長さ約90cm、幅約80cmを測る。

＜B区32号住居址＞　（第20図）

調査区域中央北辺に位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。北側過半は他の住居址と重複し切られている。平面形態は隅円長方形を呈すると思われる。規模は東西約3.1m、南北推定3.8m前後を測る。削平等により浅い竪穴となっているが、壁は高いところで

約10cmを測り、外傾しながら立ち上がる。床面は比較的平坦である。柱穴はなく、周溝はある。カマドは東壁南側に構築されていたと思われる。

＜B区33号住居址＞　（第17図）

調査区域中央西端に位置する。21号住居址調査に際して下に遺構が確認され、33号住居址として掘り下げる。21号住居址に切られ遺存状態は悪い。平面形態は隅円長方形を呈する。規模は東西約4.2m、南北約3.6mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、21号住居址床面までの壁高は約10cmを測る。床面は平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南よりに構築されていたと思われる。

＜B区34号住居址＞　（第21図）

調査区域中央東端に位置する。暗黄褐色土中に暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態は方形を呈する。規模は東西約5m、南北約5.2mを測る。床面は平坦。柱穴・周溝はない。カマドはない。

＜B区35号住居址＞　（第21図）

調査区域中央南端に位置する。任意に設定された補助的試掘溝を掘り下げた際に、暗褐色土の落ち込みを確認して住居址とする。北東側過半は30号住居址に切られ遺存していない。平面形態は隅円長方形を呈する。規模は東西約5.3m、南北約4.2mを測る。床面は平坦。柱穴はないが、周溝はある。カマドは遺存していない。

＜B区2号土坑＞　（第20図）

調査区域中央南側に位置する。東西約1.6m、南北約1.5mの不正楕円形で、深さ45cm前後を測る。

＜A区1号掘立柱建物址＞　（第22図）

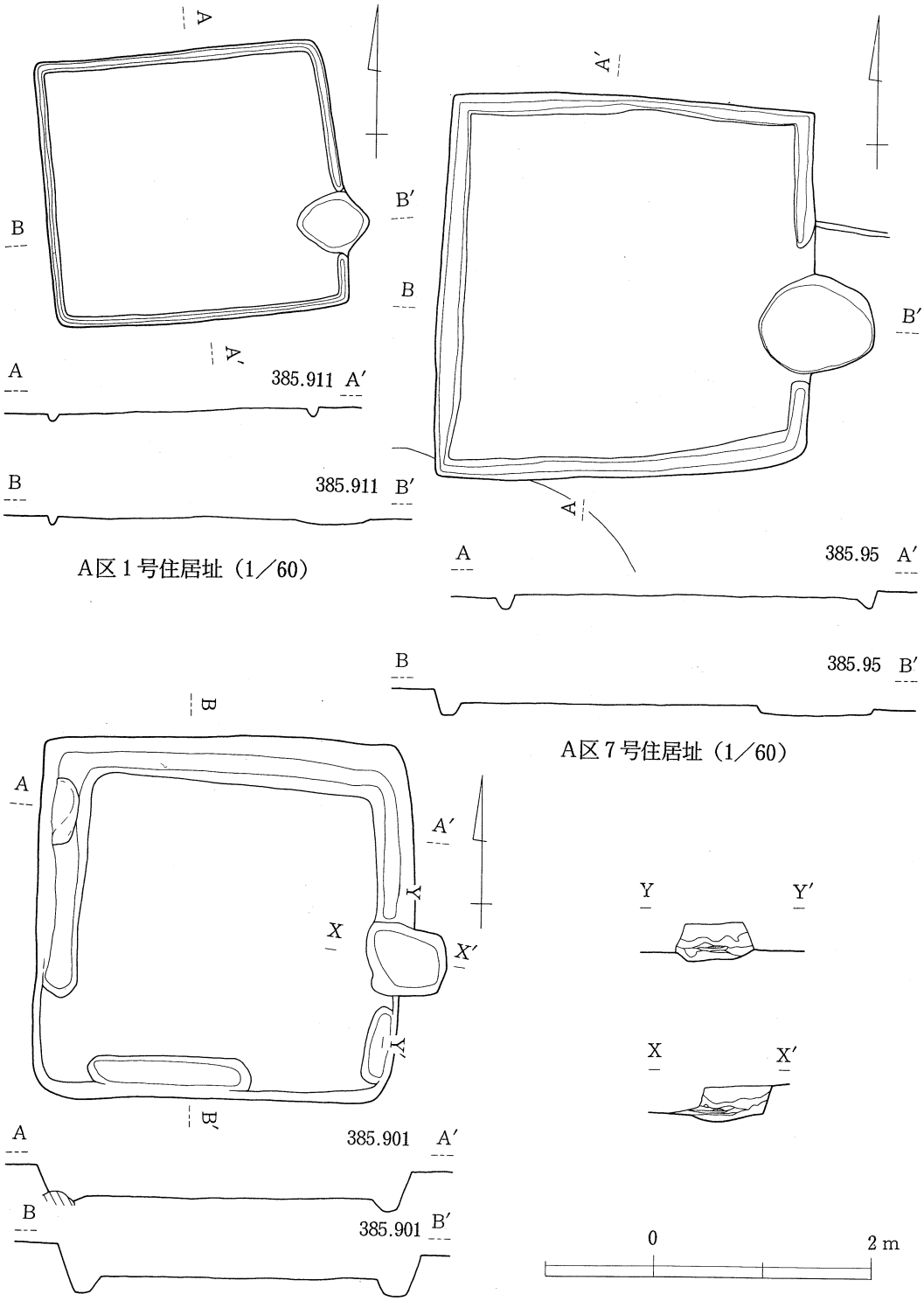
調査区域北側F－6・G－6域に位置する。東西に長い2間×2間の建物址。柱の直径は26cm前後で、柱間は東側北179cm東側南153cm、西側北174cm西側南172cm、北側東206cm北側西206cm、南側東204cm南側西216cmを測る。柱穴の掘り方は隅円方形を呈する。

＜A区2号掘立柱建物址＞　（第22図）

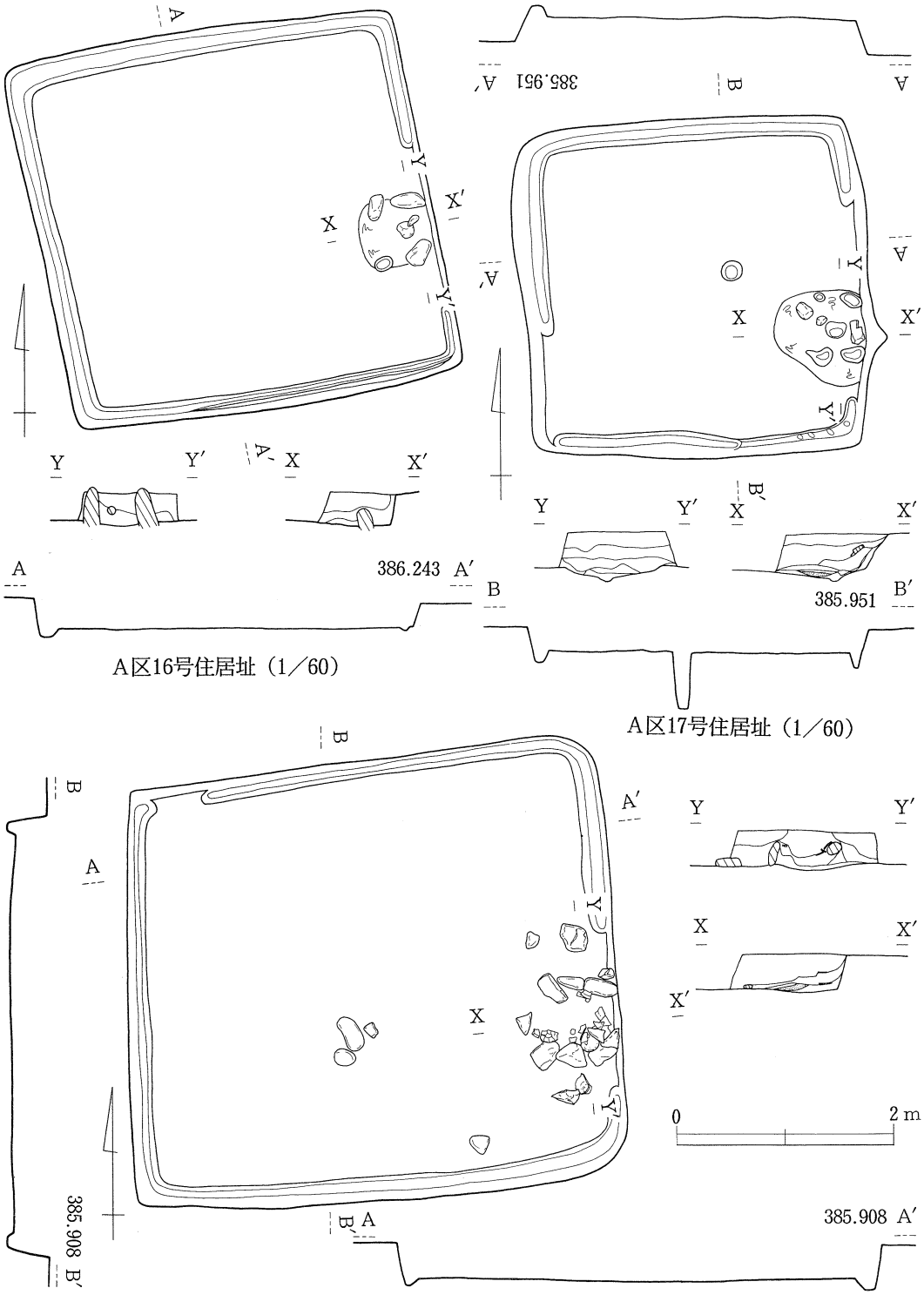
調査区域中央東側E－7域に位置する。ほぼ正方形を呈する2間×2間の総柱建物址。柱の直径は26cm前後で、柱間は185cm～225cm。南側は17・18号住居址にきられ明瞭ではなかった。柱穴の掘り方は隅円方形を呈する。本址は建て替えられたらしく、各柱穴は南側に古い柱穴を切っていた。

＜A区3号掘立柱建物址＞　（第23図）

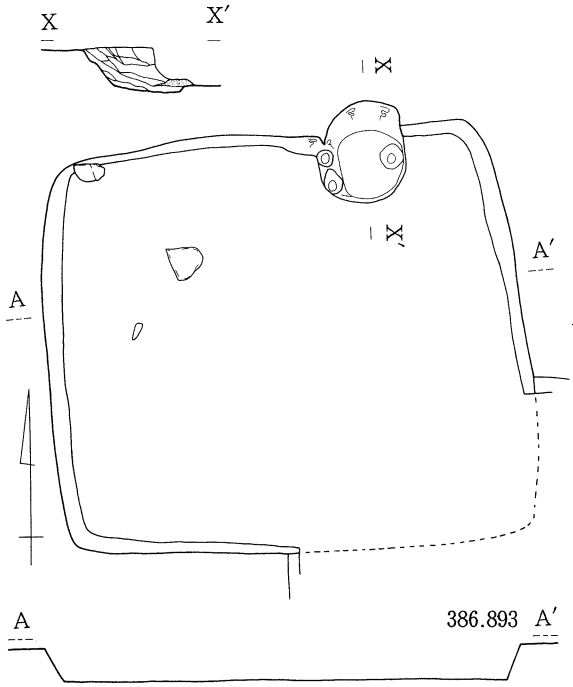
調査区域北側H－6域に位置する。東西に長い2間×2間の建物址。柱の直径は26cm前後で、柱間は東側北140cm東側南140cm、西側北140cm西側南154cm、北側東180cm北側西170cm、南側東170cm南側西180cmを測る。柱穴の掘り方は方形を呈する。本址北側には別に方形掘り方の穴が続いて検出された。16号住居址及び溝により攪乱を受けているが、掘立柱建物址となるか？ま



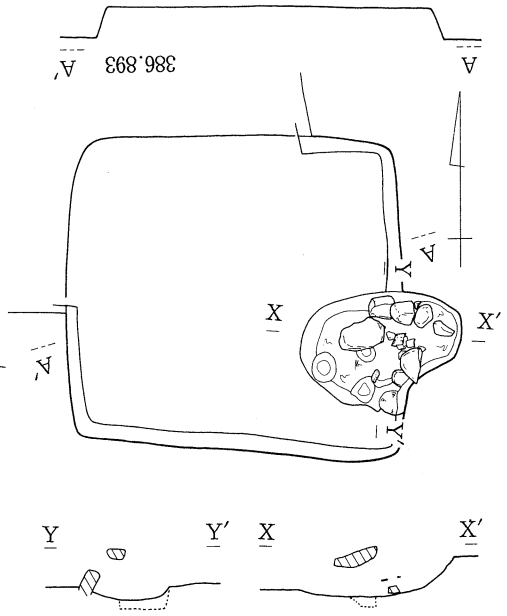
第10図　奈良・平安時代遺構



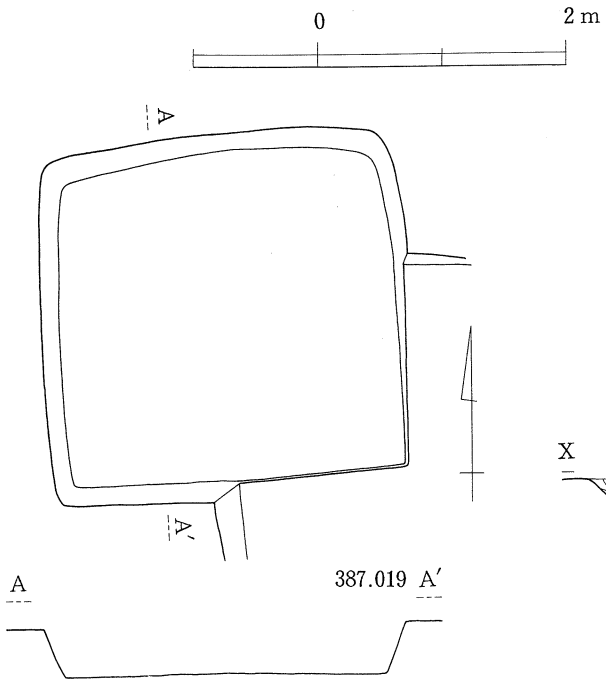
第11図　奈良・平安時代遺構



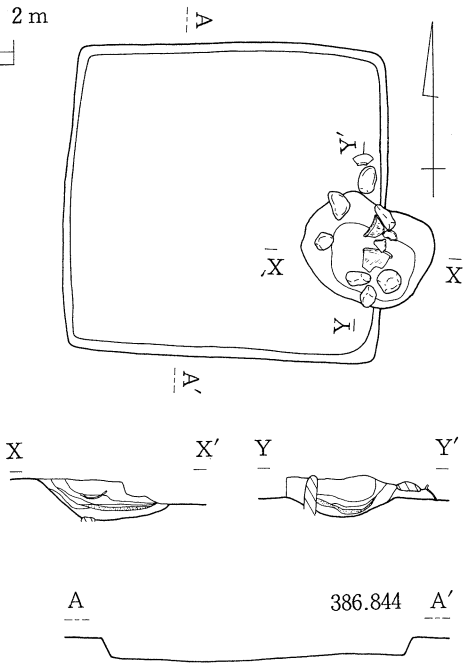
B区1号住居址（1／60）



B区2号住居址（1／60）

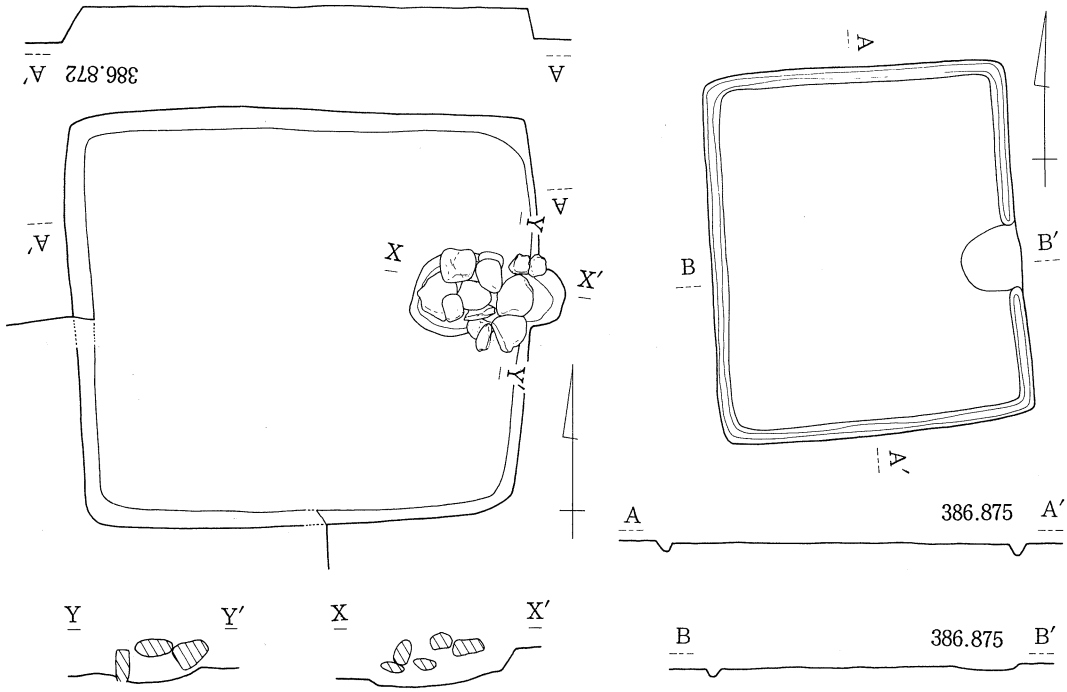


B区3号住居址（1／60）

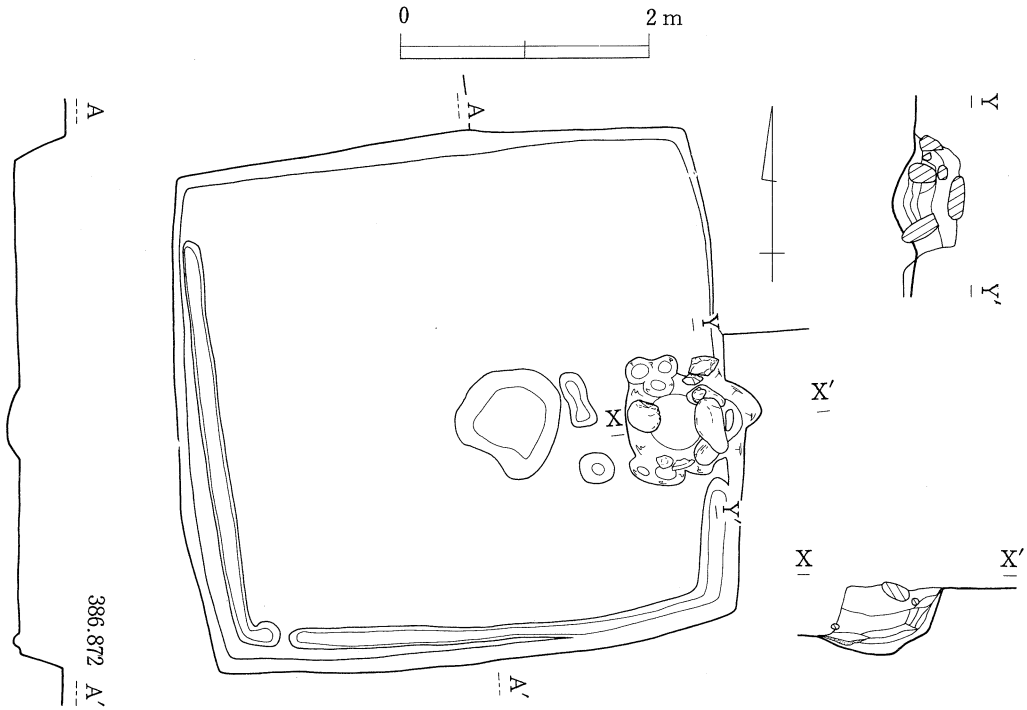


B区4号住居址（1／60）

第12図　奈良・平安時代遺構

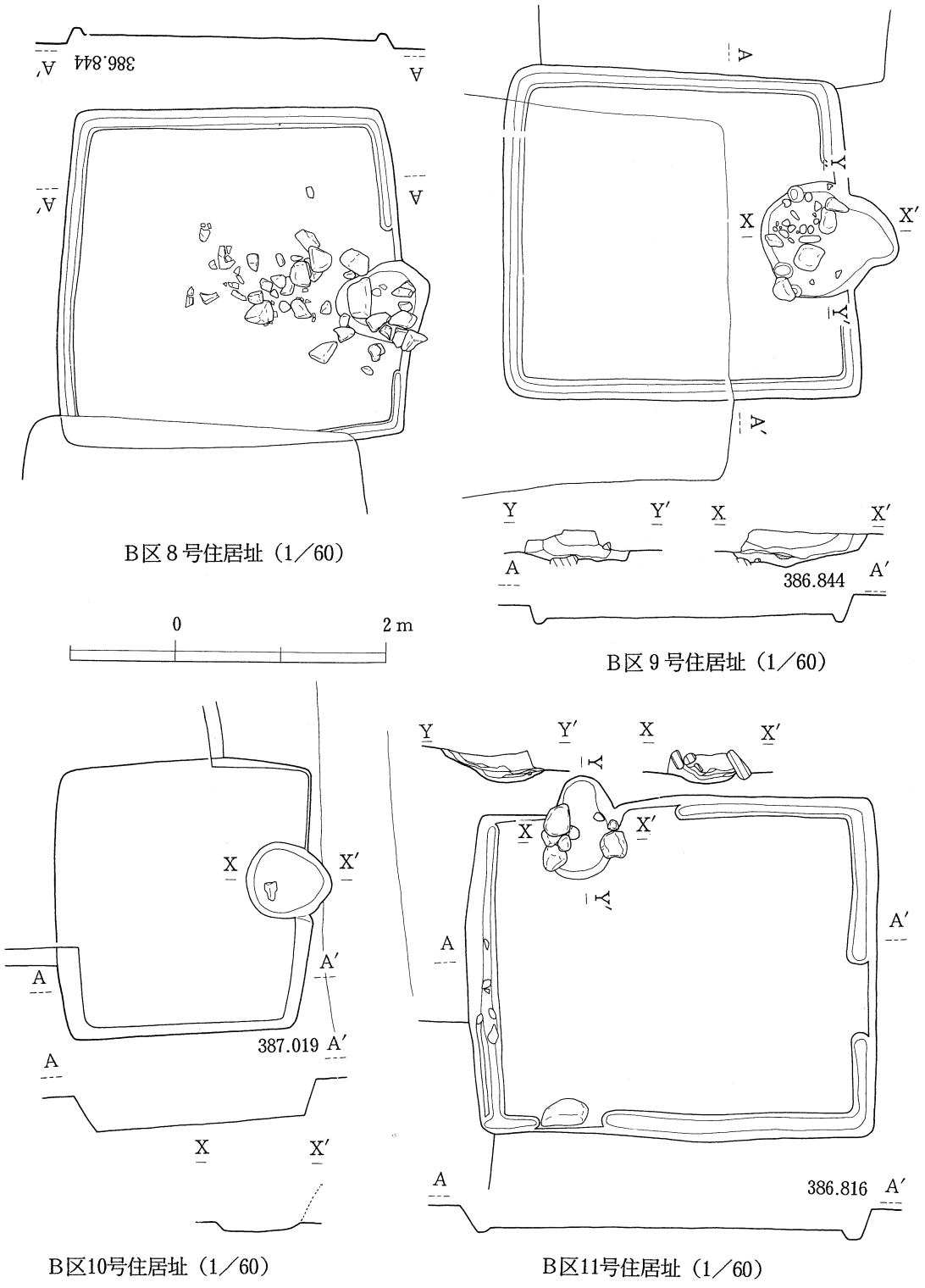


B区5号住居址（1／60）　　B区7号住居址（1／60）

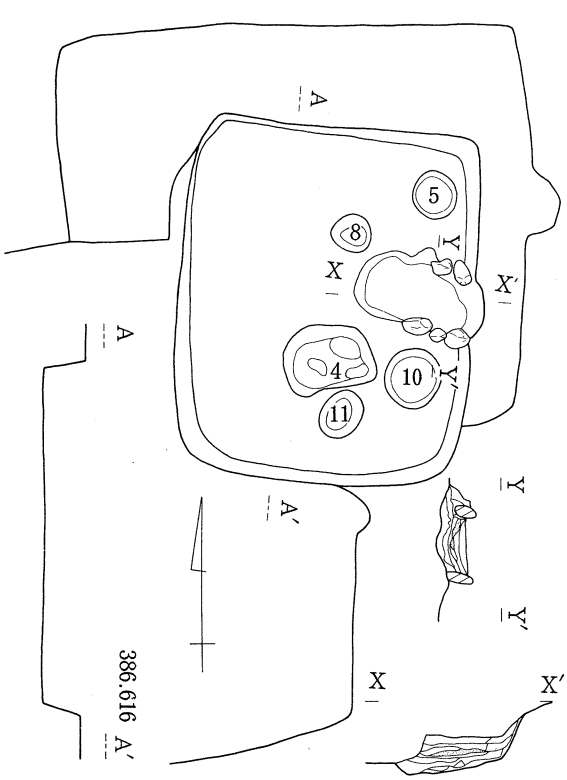


B区6号住居址（1／60）

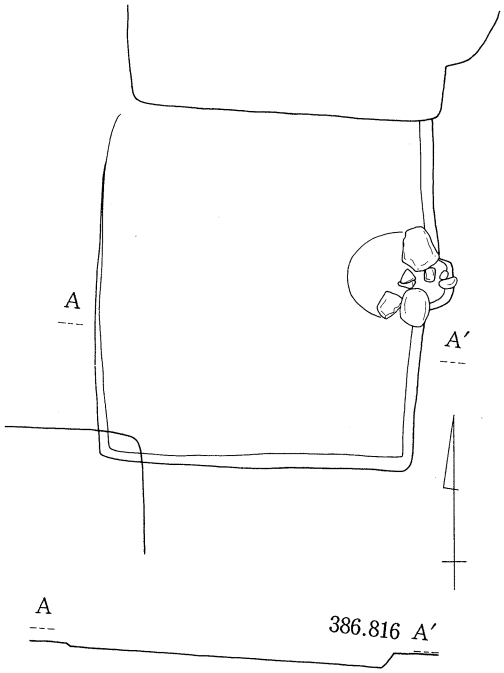
第13図　奈良・平安時代遺構



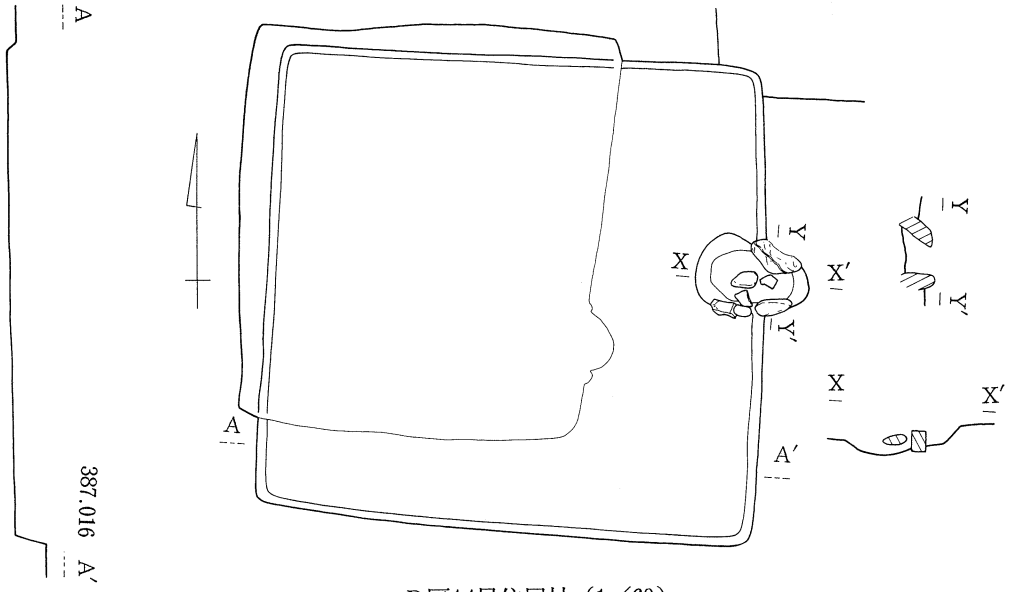
第14図　奈良・平安時代遺構



B区12号住居址（1／60）

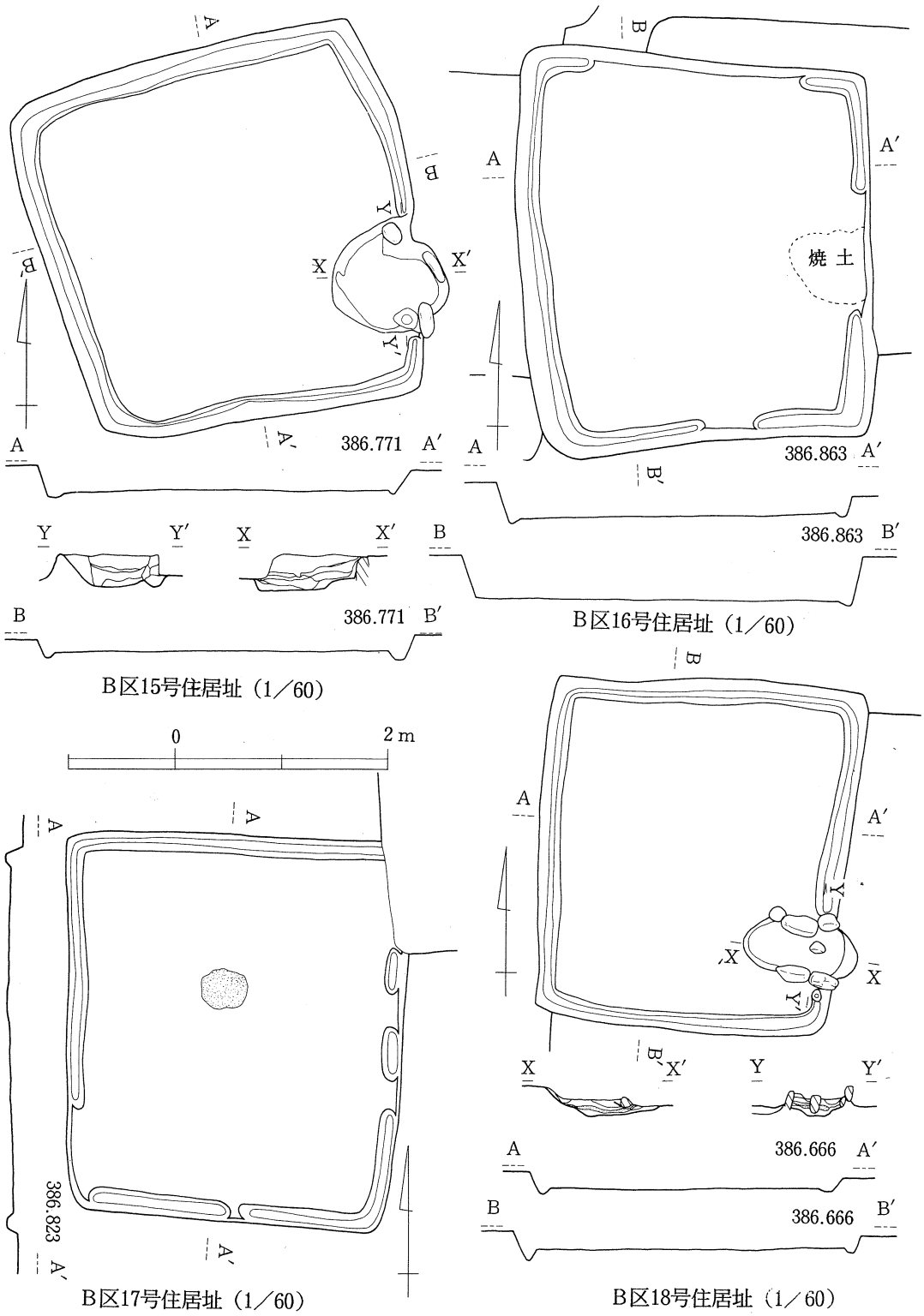


B区13号住居址（1／60）

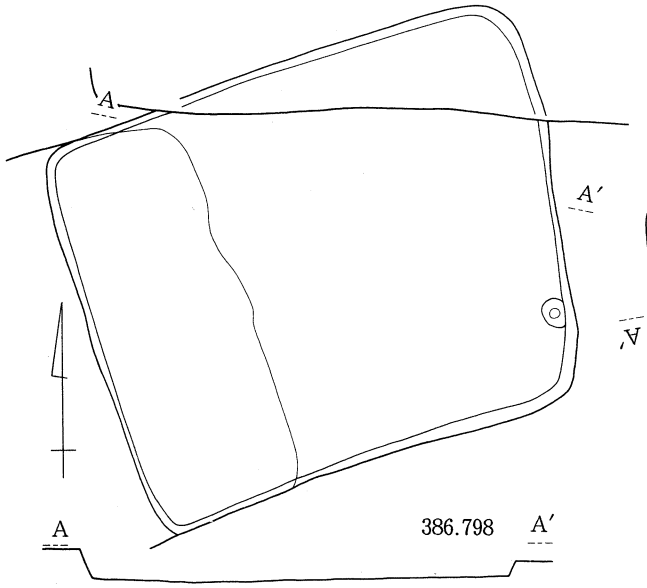


B区14号住居址（1／60）

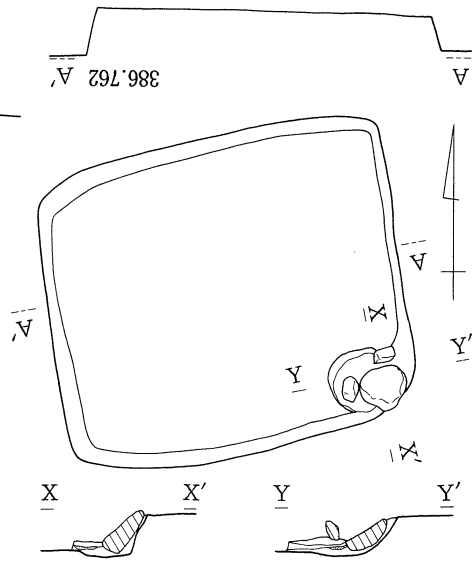
第15図　奈良・平安時代遺構



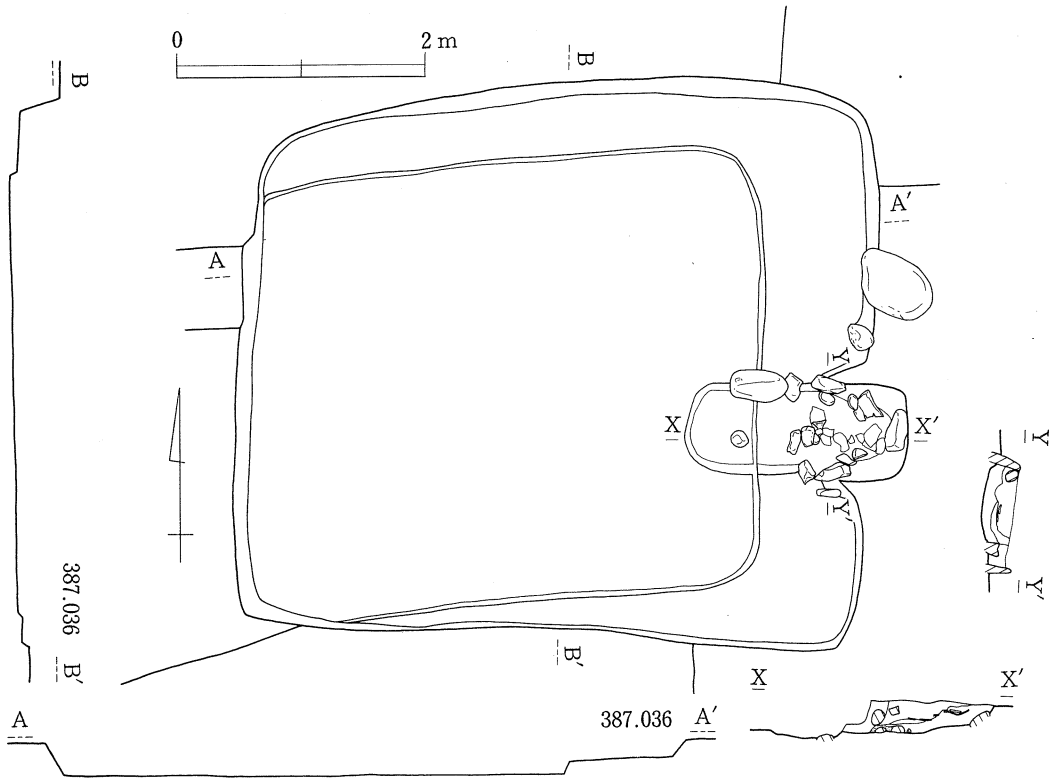
第16図　奈良・平安時代遺構



B区19号住居址（1／60）

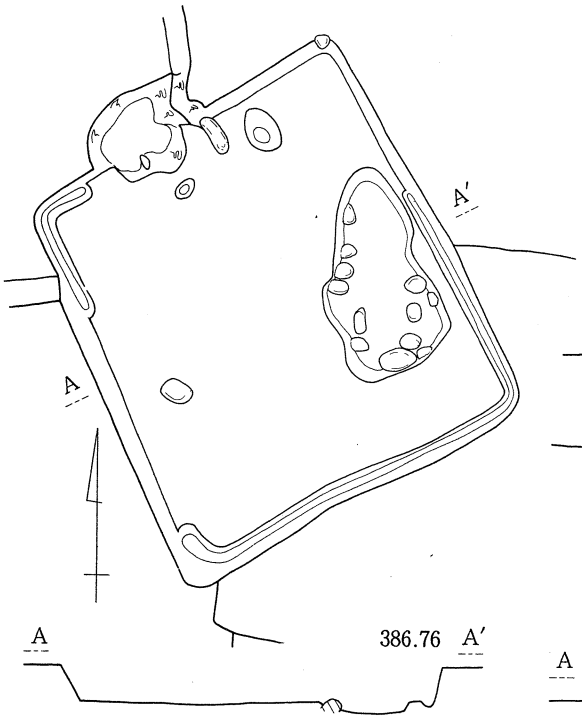


B区20号住居址（1／60）

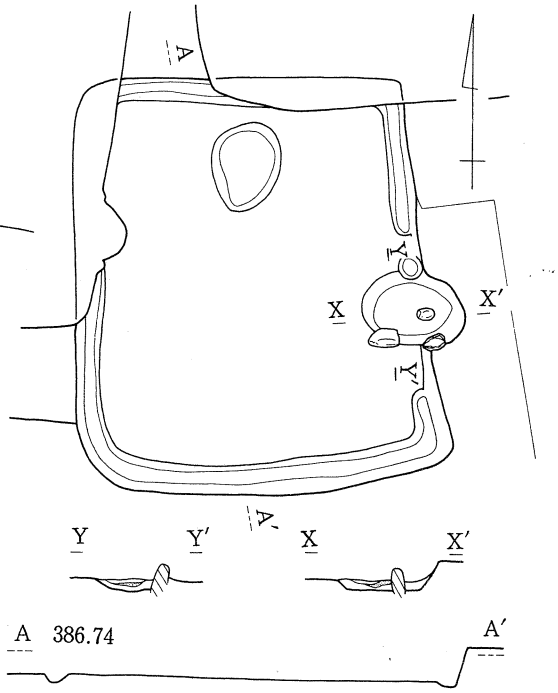


B区21号住居址・33号住居址（1／60）

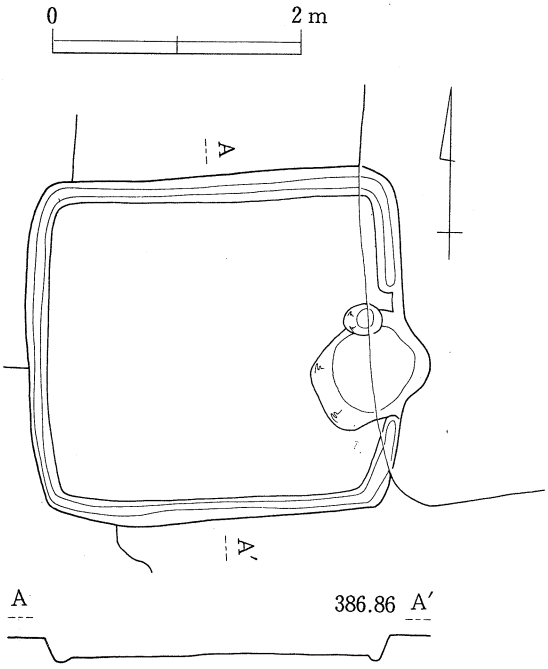
第17図　奈良・平安時代遺構



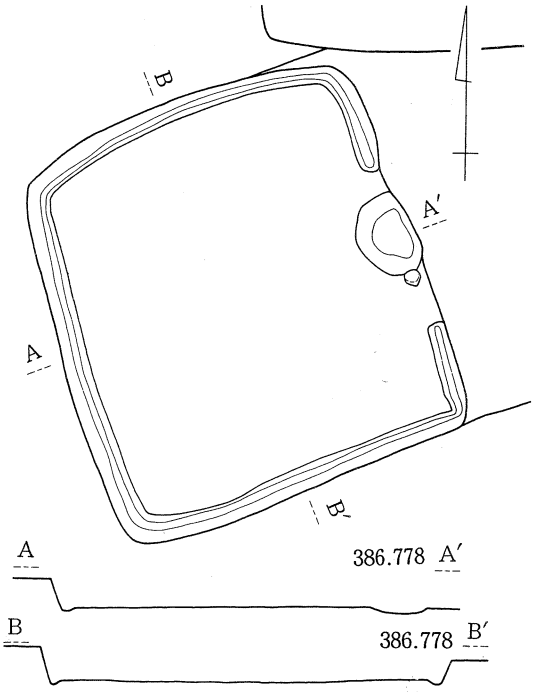
B区22号住居址（1／60）



B区25号住居址（1／60）

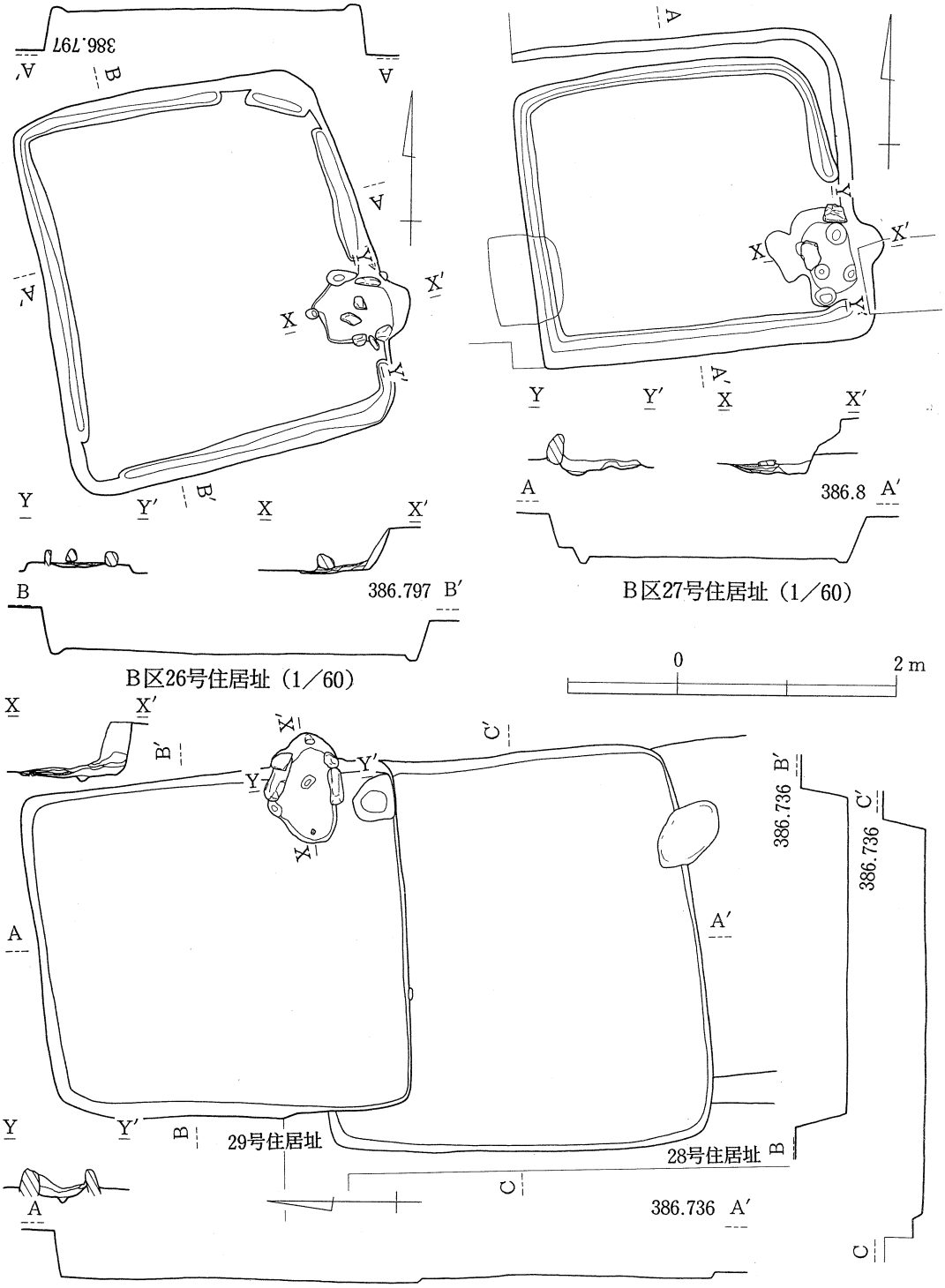


B区23号住居址（1／60）

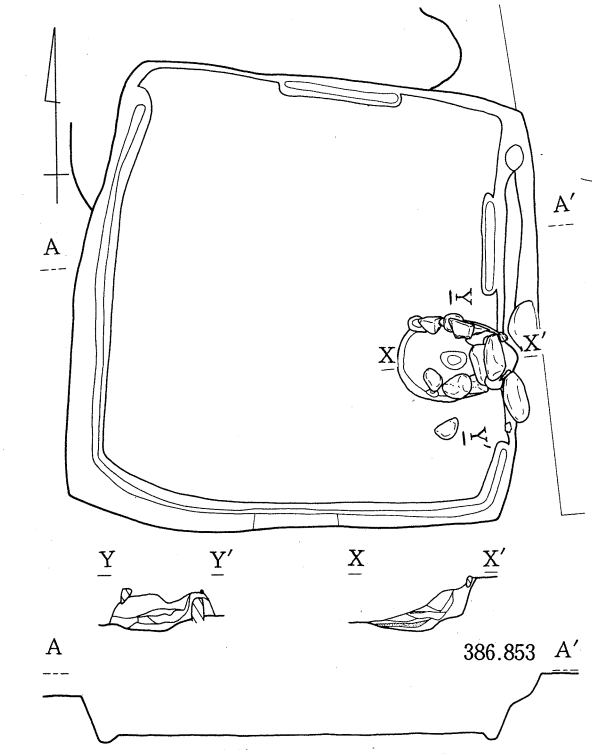


B区24号住居址（1／60）

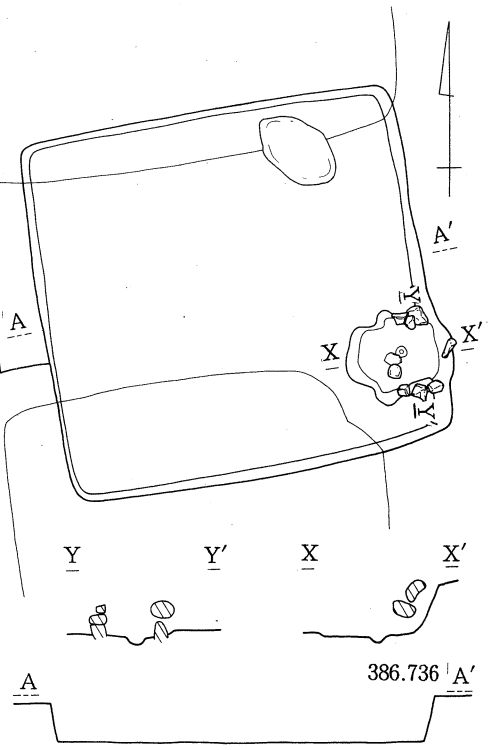
第18図　奈良・平安時代遺構



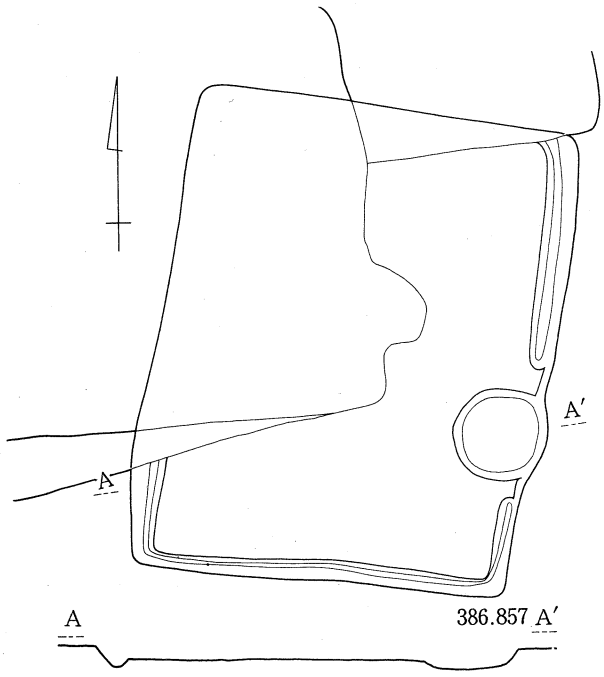
第19図　奈良・平安時代遺構



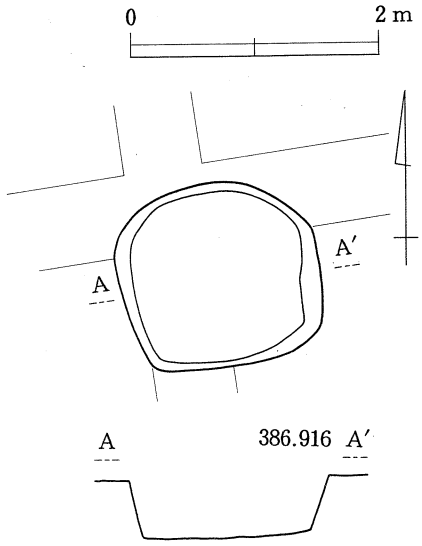
B区30号住居址（1／60）



B区31号住居址（1／60）

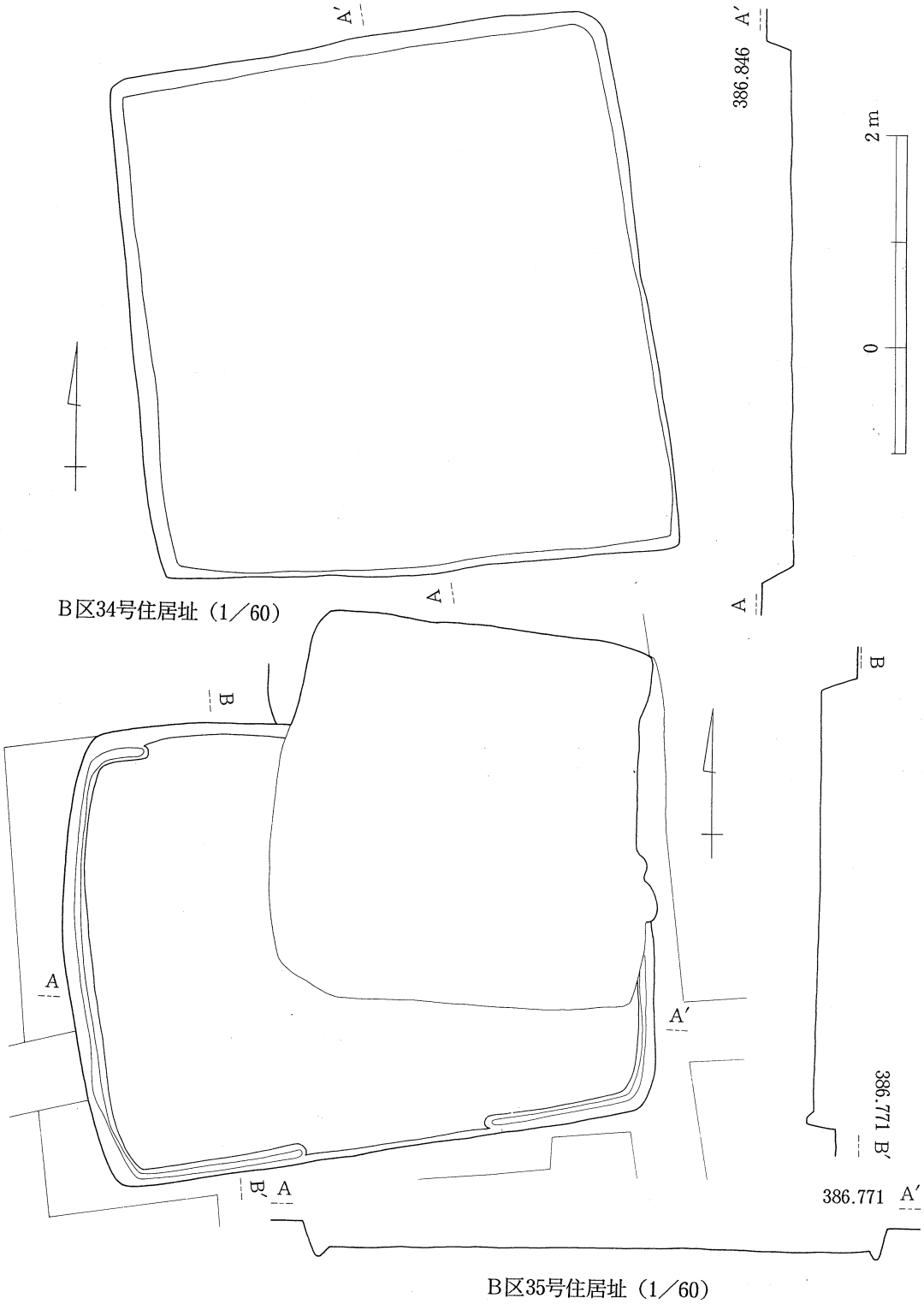


B区32号住居址（1／60）

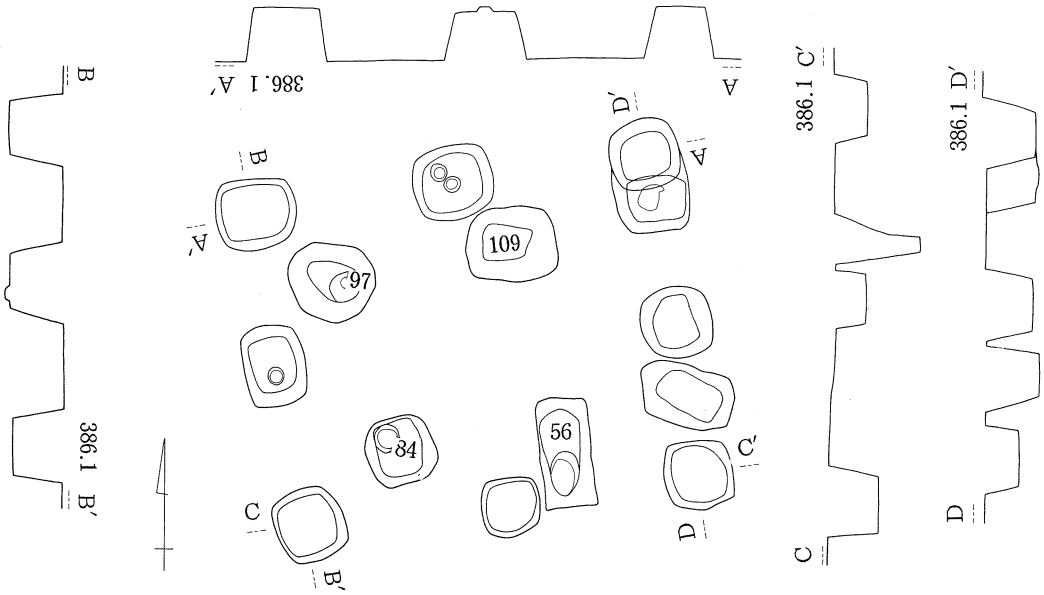


B区２号土坑（1／60）

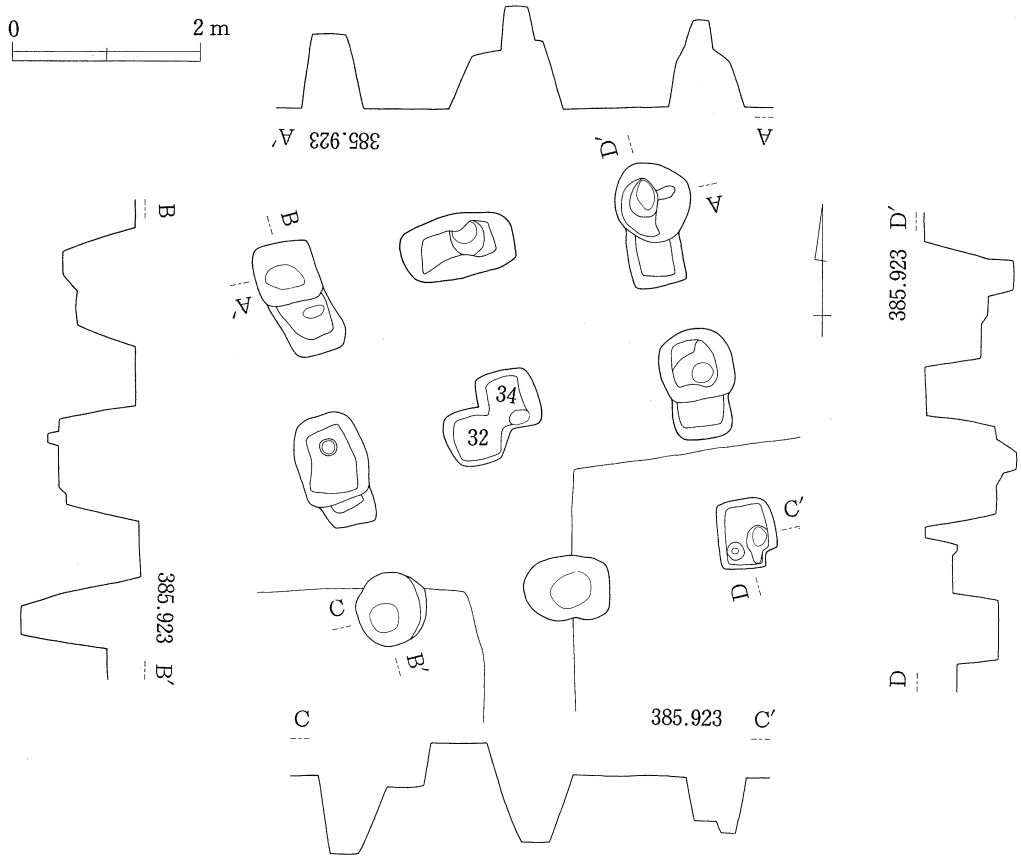
第20図　奈良・平安時代遺構



第21図　奈良・平安時代遺構

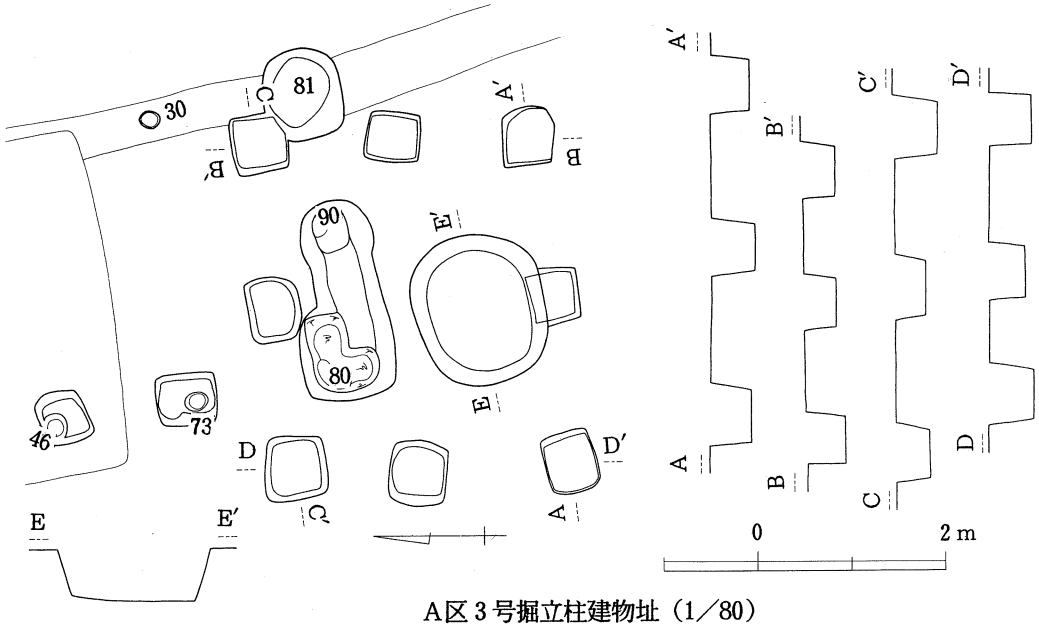


A区1号掘立柱建物址・4号掘立柱建物址（1／80）

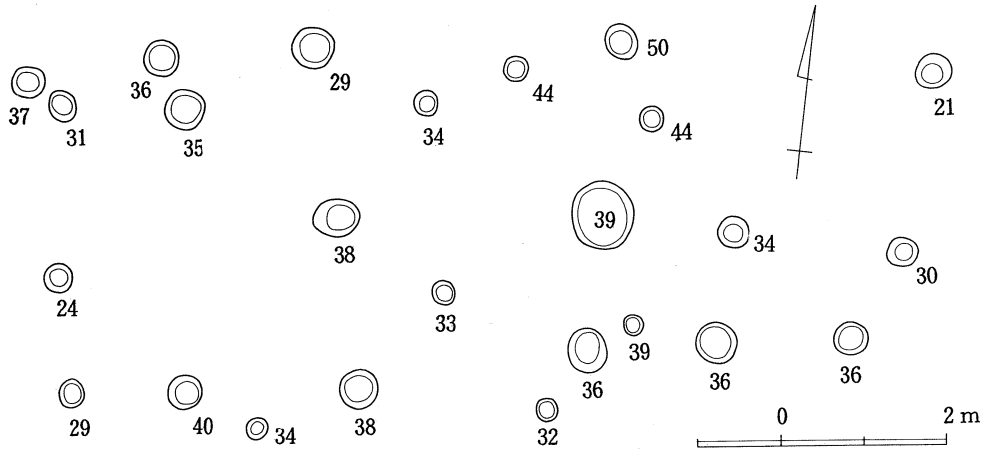


A区2号掘立柱建物址（1／80）

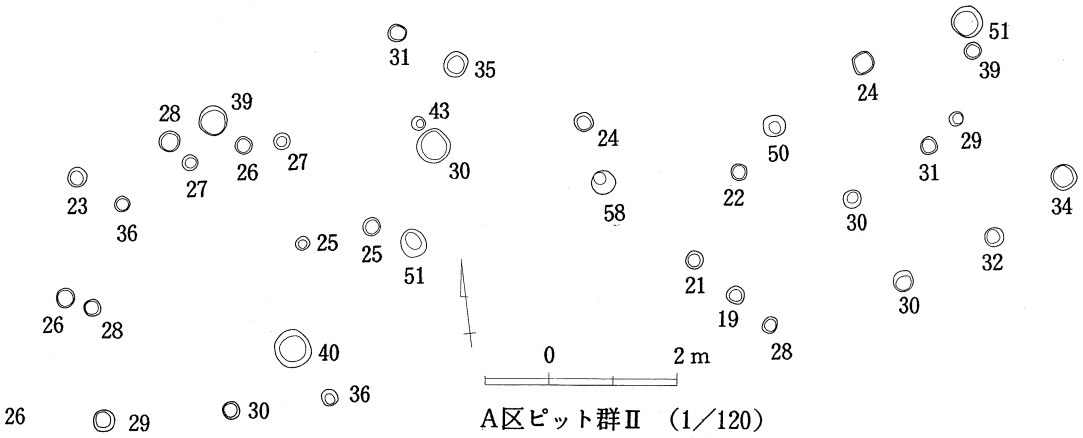
第22図　奈良・平安時代遺構



A区３号掘立柱建物址（1／80）



A区ピット群Ⅰ　（1／90）



A区ピット群Ⅱ　（1／120）

第23図　奈良・平安時代遺構

た本址内側には掘り方を切って土坑が検出された。

＜A区４号掘立柱建物址＞　（第22図）

調査区域北側Ｆ－６・Ｇ－６域に位置する。１号掘立柱建物址の内側に検出。方形の掘り方を呈する柱穴で、建物の規模は不明であるが南側に広がると思われる。

＜A区ピット群Ⅰ＞　（第23図）

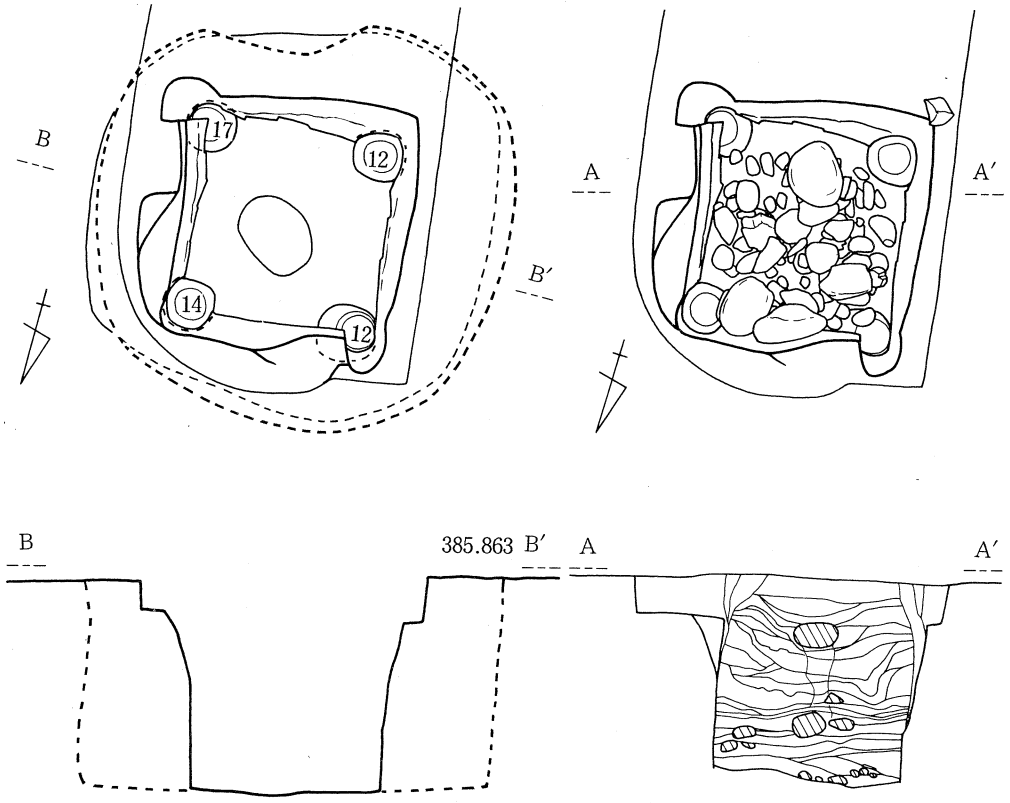
調査区域南東側Ｂ－９・10・11、Ｃ－９・10・11域に位置する。直径約16㎝～50㎝のピットが集中して発見されたが、掘立柱建物址のように規則的には並ばない。

＜A区ピット群Ⅱ＞　（第23図）

調査区域中央東側Ｄ－７・８・９・10域に位置する。直径約20㎝～55㎝のピットが集中して発見されたが、掘立柱建物址のように規則的には並ばない。

＜A区井戸跡＞　（第24図）

調査区域東端Ｆ－９域に位置する。一辺約１ｍ四方で、確認面からの深さ約１ｍ15㎝を測る。底には拳大の石が多く見られ、その下に鉄分の沈着した砂層が形成されていた。朽ちて残存していないが、四隅に柱を立て壁に板を用いたと思われる。掘り方（図中の破線部分）は直径２～2.2ｍの不整円形で、井戸の枠よりも一回り大きい。



第24図　A区井戸跡　（1／40）

Ⅵ 遺　　物

調査の結果出土した遺物は、縄文時代前期・中期・後期、奈良・平安時代にわたっている。以下に遺構に伴って出土した遺物を中心に紹介し、一覧表でみていこう。

1　縄文時代

発掘された15軒の竪穴住居址・1基の土坑の内、A区4・11・12号住居址出土の遺物には器形の復元出来るものがなかったのでここでは省略した。

＜A区3号住居址出土遺物＞　（第25図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，　－，　－	赤白、黒、粒子を含む	茶褐色 黄茶褐色	縄文を地文とし、沈線・隆線により渦巻文・区画文を施す　破片
2	縄文土器	深鉢	－，　－，　－	〃	〃	1と同一個体であろう
3	縄文土器	小型深鉢	－，14.6，　－	白色砂粒を含む	灰茶褐色	胴部に粘土ひもで蛇行しめぐり、懸垂しているその間を縄文が施してある　½残
4	縄文土器	器台	－，24.0，　－	粗い白色砂粒を多く含む	暗茶褐色	脚部に穴あき　破片

＜A区5号住居址出土遺物＞　（第25図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，26.0，　－	白色砂粒を含む	灰茶褐色 暗茶褐色	胴部降帯で区割され、うず巻と蛇行懸乗文が見られ、その間に綾杉文が見られる　口縁部破片
2	縄文土器	深鉢	－，15.0，　－	白色砂粒を含む	茶褐色一部黒変 黒褐色	口縁部、2本の沈線が横走し胴部に2本の沈線の懸垂文で区割されその間に、ハの字状刺突文あり 脚台部に円孔（穿つ）　⅓残
3	縄文土器	深鉢	－，　－，　8.2	白色砂粒を含む	淡茶褐色 橙灰褐色	胴部、降帯で区割され、その間に刺突文が施されている　底部破片
4	縄文土器	深鉢	－，19.5，　－	砂粒を含む	一部黒変 赤褐色	胴部に縦刷毛目　口縁部〜胴部破片
5	縄文土器	深鉢	－，　－，　－	砂粒を含む	黒灰褐色 灰黄褐色	胴部うず巻文、その間に刺突文あり 頸部に2個の把手　⅔残

6は磨製石斧。7は磨製の石斧状の小型石器。8は何カ所かの浅いくぼみを有する石器。9は片面に大きなくぼみ、その裏面に蜂の巣状の浅いくぼみがある石器。

＜A区6号住居址出土遺物＞　（第26図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，　－，　9.2	白色砂粒を含む	茶褐色	外面－隆帯が大小の渦巻文をえがきながら垂下し、その間に条線が施される　底部破片
2	縄文土器	深鉢	－，40.0，　－	白色砂粒を含む	黄茶褐色 一部黒変	外面－頸部に2本の粘土ひもが横走その間と口縁部は斜条線文 胴部は条線と蛇行させた粘土ひもの懸垂文 口縁～胴部破片

＜A区8号住居址出土遺物＞　（第26・27図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，47.6，　－	白色砂粒を含む	灰黄褐色 淡赤褐色	外面－口縁部1本の沈線が横走し、渦巻惰円の沈線文が交互する胴部懸垂する沈線で区切り、その間に綾杉文 口縁～胴部破片
2	縄文土器	深鉢	－，23.2，　－	粗い砂粒を含む	灰茶褐色 （一部赤褐色） 赤褐色 （一部黒変）	外面－口縁部下部に1本隆帯が横走し、そこから垂下した隆帯が胴部を区切り、その間にハの字状刺突文 口縁～胴部破片
3	縄文土器	深鉢	29.2，22.0，　8.0	粗い砂粒を含む	灰橙褐色 （一部黒変）	外面－口縁部に2本隆帯が横走し、そこから垂下した隆帯が胴部を区切り、その間にハの字状刺突文 口縁部－部欠損
4	縄文土器	深鉢	－，　－，　8.4	砂粒を含む	灰褐色 （一部黒変） 褪橙褐色 （一部黒変）	器面は外面－縦、内面－横に粗い磨き　底～胴部破片
5	縄文土器	浅鉢	－，22.5，　－	粗い砂粒を含む	焦げ茶褐色 暗赤茶褐色 （一部黒変）	外面－口縁部無文、頸部2個等分の把手胴部沈線渦巻文の間にハの字状刺突文 底部、口縁部一部欠損
6	縄文土器	浅鉢	－，26.3，　－	粗い砂粒を含む	赤黄褐色 淡赤黄褐色 （一部黒変）	外面－口縁部無文、頸部4個等分で大小対の把手をつけその間を隆帯で結び沈線による惰円文が施される。胴部、渦巻と懸垂する沈線文 底部、口縁部一部欠損
7	石　器	石皿				
8	石　器	石棒				
9	石　器	磨製石斧				
10	石　器	磨製石斧				
11	石　器	磨製石斧				
12	石　器	凹石				

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
13	石　器	凹石				
14	石　器	凹石				
15	石　器	凹石				

＜A区９号住居址出土遺物＞　（第27図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄　文 土　器	小型 浅鉢	6.5，9.5，4.6	紳かい白色 砂粒を含む	淡黄灰色 （一部黒変） 淡橙褐色	内面－丁寧な磨き 外無－無文 2/5 欠損
2	縄　文 土　器	鉢	－，－，7.0	細かい砂粒 を含む	暗灰茶褐色 （一部黒変）	外面－頸部に２個等分の把手 胴部は、比較的太い沈線渦巻文により区画され、その間に条線による綾杉文が施される 内・外面とも丁寧な磨き 口縁部、胴部一部欠損

＜A区10号住居址出土遺物＞　（第27図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄　文 土　器	深鉢	45.4，37.2，8.5	砂粒を含む	灰茶褐色 灰黄茶褐色 （一部黒変）	外面－口縁部に２本の隆帯が横走しそこから垂下した隆帯が胴部を区切り、その間に縦に条線が施されている。一部沈線による蛇行文が垂下している。 ½欠損
2	縄　文 土　器	深鉢	－，－，－	粗い砂粒を 含む	暗黄褐色 淡黄褐色	外面－把手に単孔を有する 胴部縄文と沈線による区画文 口縁部破片
3	縄　文 土　器	小型	－，13.3，－	砂粒を含む	淡橙褐色 淡黄褐色 （一部黒変）	外面－比較的太い沈線により口縁部には弧文が巡り、胴部は逆Ｕ字垂下文が巡る。その間に充塡縄文が施される 口縁部、胴部下一部破片
4	石　器	凹石				

＜A区13号住居址出土遺物＞　（第28図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄　文	甕	56.0，44.0，－	白色粒子を 含む	茶褐色 灰黒褐色	沈線による逆Ｊ字文が施される磨消縄文の土器。本土器は後期の所産であり、中期の住居廃絶後に埋設されたのであろう 一部破損
2	縄　文	鉢	－，－，8.5	白色砂粒を 含む	黒褐色 茶褐色	沈線で区別された間に刺突文が施されている　破片
3	石　器	石棒				

＜A区14号住居址出土遺物＞　（第28図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，46.5，　－	砂粒を含む	灰黒褐色 灰茶褐色 （一部黒変）	頸部に４個等分の把手 胴部に渦巻文を描きながら隆帯が垂下し、その間にハの字状刺突文が施されている 口縁部無文　½残
2	縄文土器	深鉢	－，20.0，　－	粗い砂粒を含む	白茶色 黒黄茶褐色	口縁部より下３cm程の所に、するどい隆帯を施し、その下の胴部は縄文となだらかな広い隆帯が横にめぐる 口縁部破片
3	縄文土器	鉢	－，29.2，　－	白色砂粒を多量に含む	淡茶褐色 淡茶褐色 一部暗褐色	口縁部と胴部に２本並びの沈線が付けられ、爪形文とみられる刺突文？が施される　口縁部破片
4	縄文土器	鉢	－，　－，　9.5	白色砂粒	黒褐色 赤褐色	底部破片
5	石　器	石斧				

＜A区15号住居址出土遺物＞　（第29図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，　－，　9.5	白色砂粒を含む	茶褐色 黄灰褐色	頸部から胴部にかけて、大小の渦巻があり隆帯が懸垂している ½残
2	縄文土器	小型深鉢	－，13.5，　－	砂粒を含む	暗褪褐色	口縁部は山形把手と有円孔把手が、交互にめぐる。条線を地文として、隆帯と蛇行する沈線を垂下させている　⅔欠損
3	縄文土器	深鉢	31.0，27.5，　8.5	白黒砂粒を含む	灰黒茶褐色	頸部から体部下半にかけて蛇行沈線で区割され、その間に条線が施されている　一部破損
4	縄文土器	深鉢	－，　－，　7.7	白色、赤色粒子を含む	暗茶褐色	胴部に小さな渦巻がある。隆帯が懸垂しその間に綾杉文が施されている 体部下半破片
5	縄文土器	深鉢	－，21.6，　－	粗い白色砂粒を含む	灰黒褐色 暗茶褐色	体部は隆帯と蛇行沈線で区割された間に条線が施されている ⅓残存
6	縄文土器	深鉢	－，20.0，　－	白色砂粒を含む	暗灰褐色	５つのわらび状の隆帯で区割され、その間に条線が施されている ½残存
7	縄文土器	鉢	－，24.2，　－	金雲母、白色砂粒を含む	赤茶褐色 黒茶褐色	口縁部から胴部にかけて、ぜんまい状の隆帯と沈線があり、その間に縄文が施されている 口縁部に横走する刺突状の文様 口縁部破片
8	縄文土器	有孔鍔付土器	－，17.0，　－	白色砂粒を含む	赤茶褐色	口縁部破片
9	縄文土器	小型土器	－，　－，　3.0	白色砂粒を含む	黒褐色	外面に比較的太い沈線がみられる 破片
10	石　器	凹石				

＜A区19号住居址出土遺物＞　（第29図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，　－，　9.2	粗い砂粒を含む	黄褐色 黄灰褐色	口縁部無文 頸部に4個等分の把手 胴部に大小の渦巻文を描き、隆帯が垂下しその間に綾杉文が施されている 底部穿孔　　口縁部破損
2	縄文土器	鉢	－，　－，　8.0	白色粒子を含む	淡茶灰褐色 （一部黒変）	条線を地文とした中に隆帯と沈線で区割されている ¼残
3	縄文土器	深鉢	－，32.3，　－	白色粒子を含む	灰茶褐色 （一部黒変） 淡灰褐色 一部橙褐色	胴部には隆帯で区割された中に蛇行した沈線が懸乗し、条線が施される 体部下半～底部破損

＜A区20号住居址出土遺物＞　（第30図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，21.5，　－	砂粒を含む	灰茶褐色 赤茶褐色	外面－口縁部は比較的太い沈線により、髭状・窓状の文様がつけられる 胴部は条線と蛇行した沈線による懸垂文が巡る　½欠損
2	縄文土器	深鉢	－，23.8，　－	砂粒を含む	赤黄褐色 （一部黒変） 焦げ茶褐色 下部橙褐色	外面－口縁部に2本の隆帯が横走しそこから垂下する様に渦巻隆帯文、その間に縦条線文あり 3/5欠損
3	縄文土器	鉢	－，　－，　5.0	粗い砂粒を含む	淡赤茶褐色 淡赤黄褐色	外面－頸部に2個等分の把手。それを結ぶように上下2本の隆帯が横走し、その間に斜条線文 胴部は縦条線文の上にひも粘土で蛇行垂下文。懸乗文が施される 口縁部欠損
4	縄文土器	深鉢	－，14.5，　－	細かい砂粒を含む	暗赤黄褐色	外面－口縁部に大小の弧文の隆帯が巡りその間に縦条線が施される 内面－比較的丁寧な磨き 口縁部破片
5	縄文土器	深鉢	－，14.0，　－	細かい砂粒を含む	暗灰黄褐色 橙茶褐色	外面－口縁部に1本隆帯が横走、そこから隆帯が垂下し、その間に綾杉文の条線が施され、その中心に蛇行した沈線が垂下している　½欠損
6	縄文土器	深鉢	－，　－，　8.2	粗い砂粒を含む	灰赤黄褐色 （一部黒変） 灰橙褐色	外面－胴部に粗い斜条線文 内面－比較的粗い磨き 底～胴部破片
7	縄文土器	台付深鉢	－，　－，　6.8	砂粒を含む	灰黄褐色 （一部黒変）	外面－台の部分は沈線が変則波状に巡り、胴部下部には縦条線がみられる　台付底部破片
8	石　器	たれ飾り				

9は両面に浅いくぼみのある石。10～13はいわゆるくぼみ石である。14は卵形につくられた珍しい石器である。

＜A区21号住居址出土遺物＞　（第31図）　　（単位　cm）

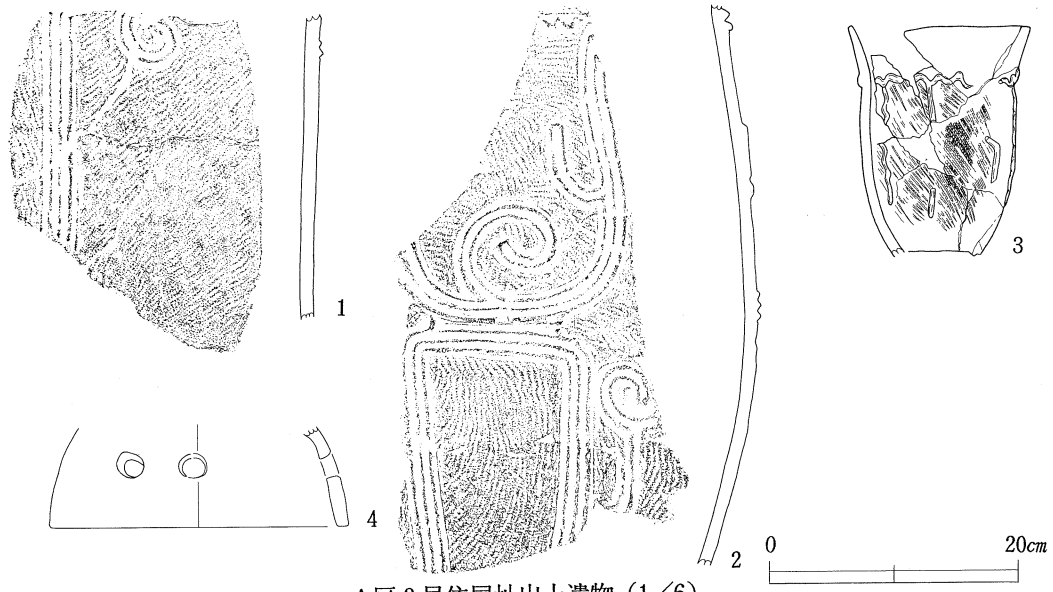
番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	27.3，25.0，　9.8	砂粒を含む	黄灰茶褐色	口縁部は隆帯する渦巻文と区割文がめぐっている 胴部は、斜縄文の上に３条単位の沈線で区割され、その間に蛇行沈線が懸垂している　口縁部破損
2	縄文土器	深鉢	－，21.0，　－	白色砂粒を多量に含む	暗茶褐色 赤灰褐色	口縁部無文 頸部は粘土ひもが蛇行し廻っている 胴部は斜縄文の上に粘土ひもが蛇行し５本懸垂している　2/3残
3	縄文土器	鉢	－，21.5，　－	白色砂粒を含む	暗灰褐色 橙暗灰褐色	口縁部がキャリパー状であり、口唇部に半截竹管で条線を描いて地文とし、その上に粘土ひもを綾にめぐらし、体部にも条線を描き頸部に廻らした粘土ひもを垂下させている 口縁部破片
4	縄文土器	深鉢	－，　－，　－	白色砂粒を含む	黒灰色 暗茶褐色	体部に縦位と斜位の条線を施し、頸部に粘土ひもを廻し、体部に粘土ひもを蛇行垂下し、渦巻状にも垂下している　体部破片
5	縄文土器	?	－，28.8，　－	砂粒を多く含む	焦げ茶褐色	内面－みがき 外面－縄文、口縁部は２本の粘土ひもがめぐり、何カ所かに渦巻を描き胴部に蛇行させた懸垂文を施している 口縁部破片
6	縄文土器	深鉢	－，　－，　5.8	白色砂粒多量 赤色砂粒 雲母を少量含む	赤茶褐色 一部黒茶褐色	内面－みがき 外面－結節縄文　底部破片
7	縄文土器	?	－，26.0，　－	白色砂粒を多量に含む	焦げ茶褐色	内面－みがき 外面－全体に斜縄文が入り口縁部に刺突文が廻り、体部にぜんまい状の隆帯で区割された中に２本を１対とする沈線と２本でなる刺突文が懸垂する 口縁部破片
8	縄文土器	深鉢	－，　－，　8.7	白色粒子を含む	茶褐色 （一部黒変） 灰赤褐色	内面－みがき 外面－体部に縄文が施され、４本の刺突された隆帯で区割されている 体部下半～底部の破片
9	石　器	凹石				

＜B区１号土坑址出土遺物＞　（第31図）　　（単位　cm）

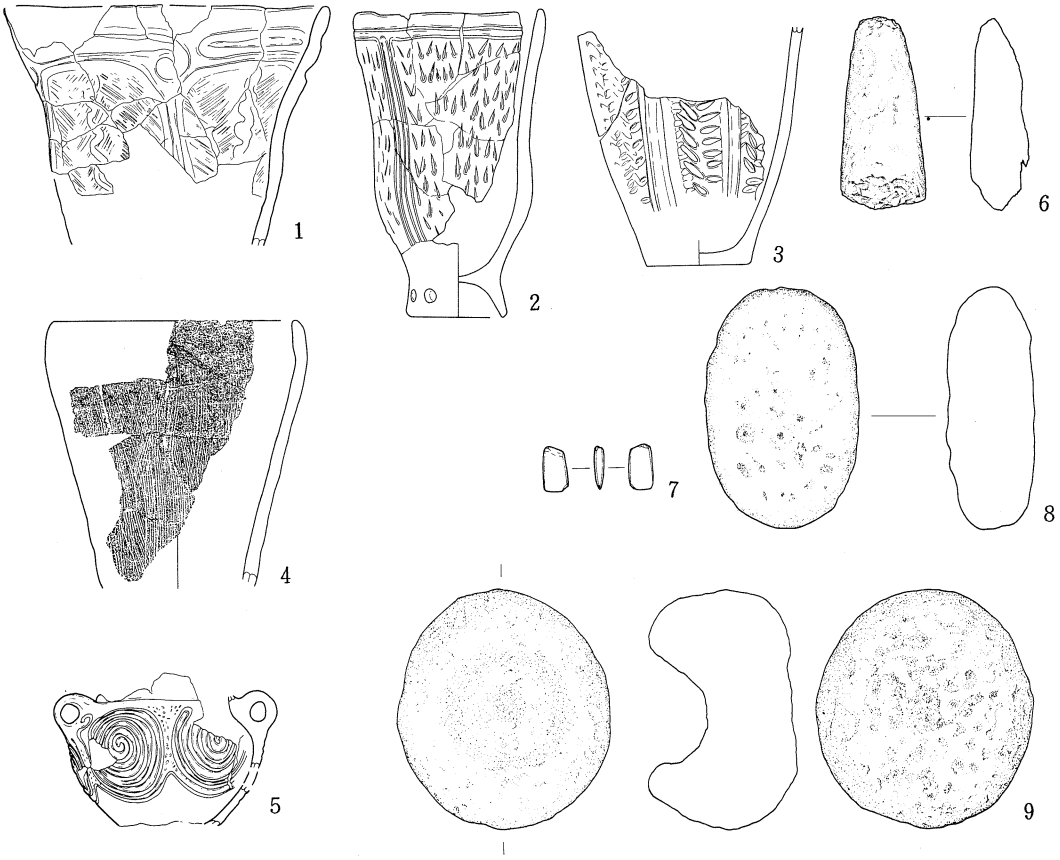
番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	28.4，30.5，16.5	白色粒子を含む	茶褐色 （一部黒変） 灰黒褐色	半截竹管による沈線文系の中期初頭の土器

＜A区遺構外出土遺物＞　（第31）　　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	鉢	15.8，17.8，　7.5	白色粒子を含む	暗灰茶褐色 灰赤褐色	内面－みがき 外面－口縁部がキャリパー状であり口唇部に半截竹管で条線を描いて地文とし頸部に粘土ひもをめぐらし体部にも粘土ひもを垂下し途中でぜんまい状に施している 一部欠損

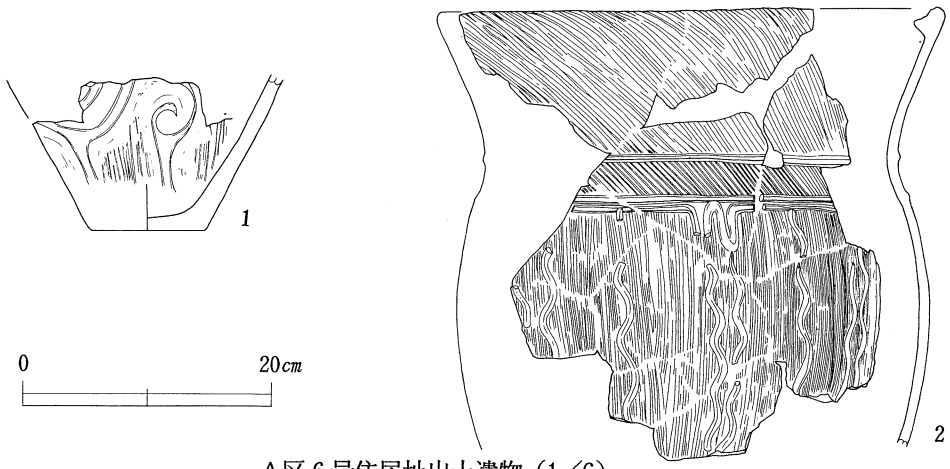


A区３号住居址出土遺物（1／6）

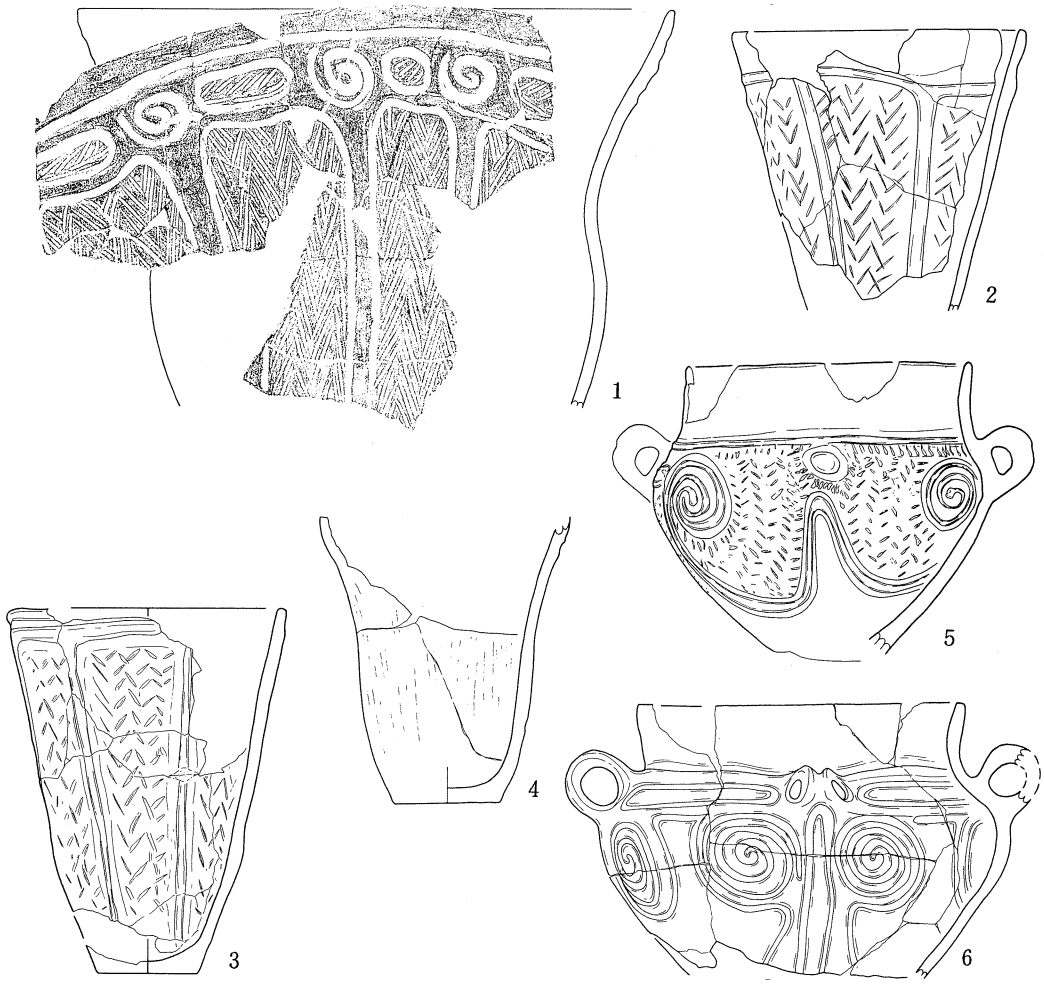


A区５号住居址出土遺物（1／6）

第25図　縄文時代遺物

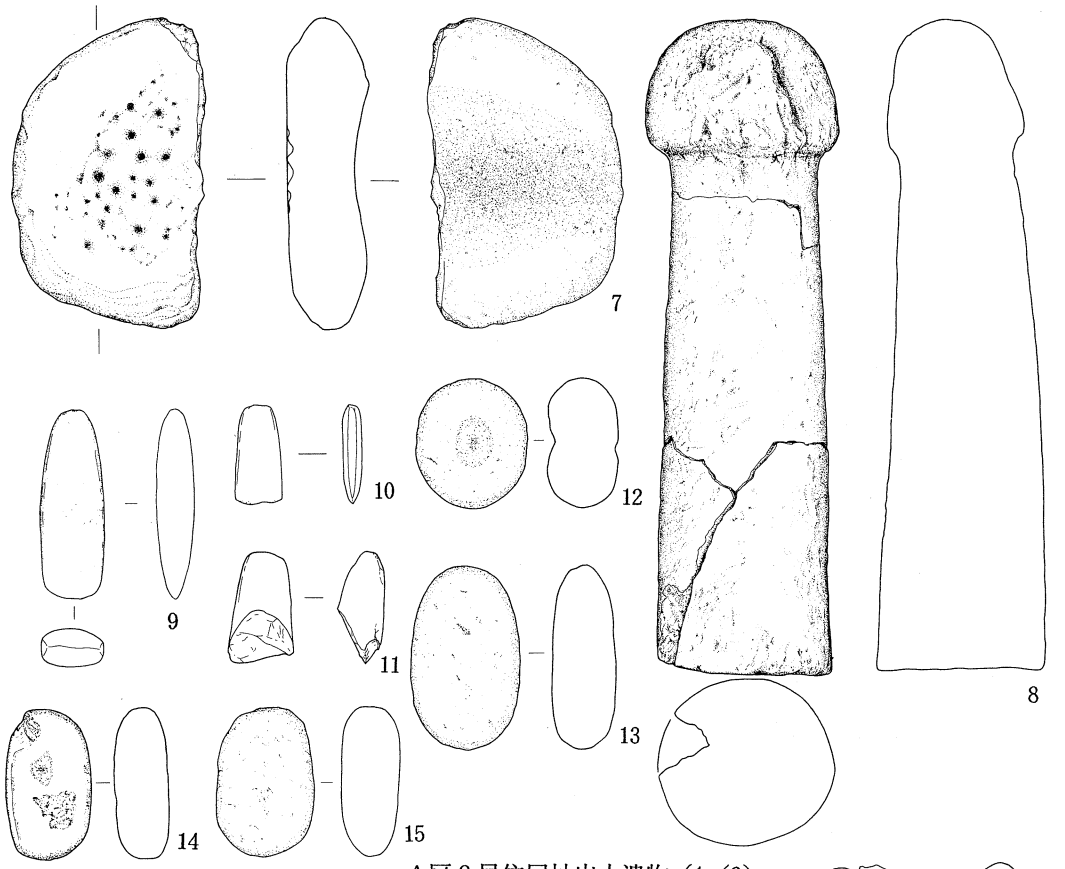


A区６号住居址出土遺物（1／6）

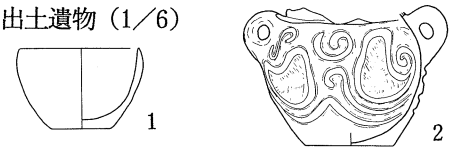


A区８号住居址出土遺物（1／6）

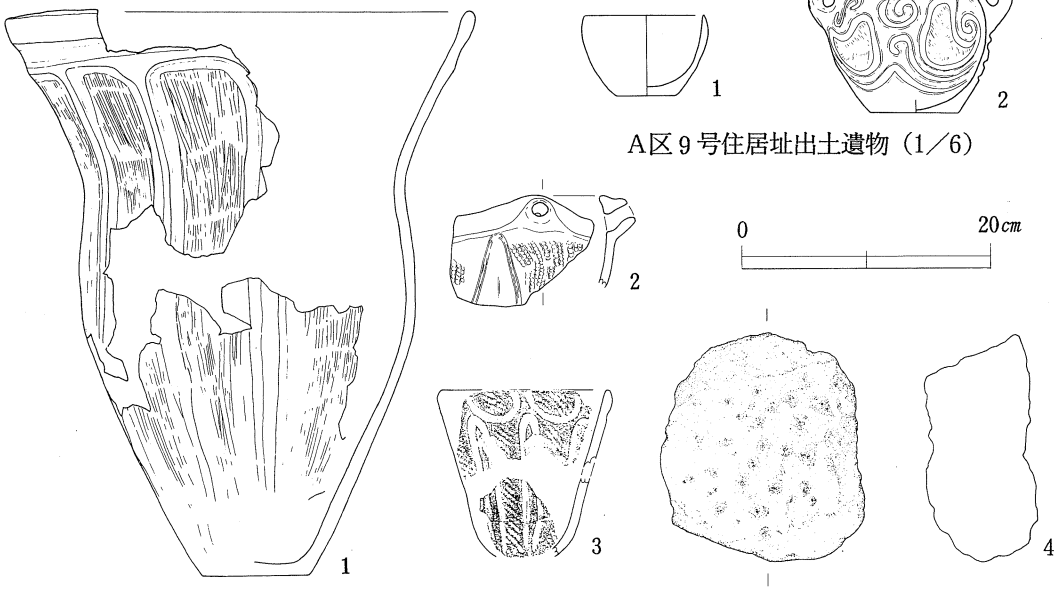
第26図　縄文時代遺物



A区８号住居址出土遺物（1／6）

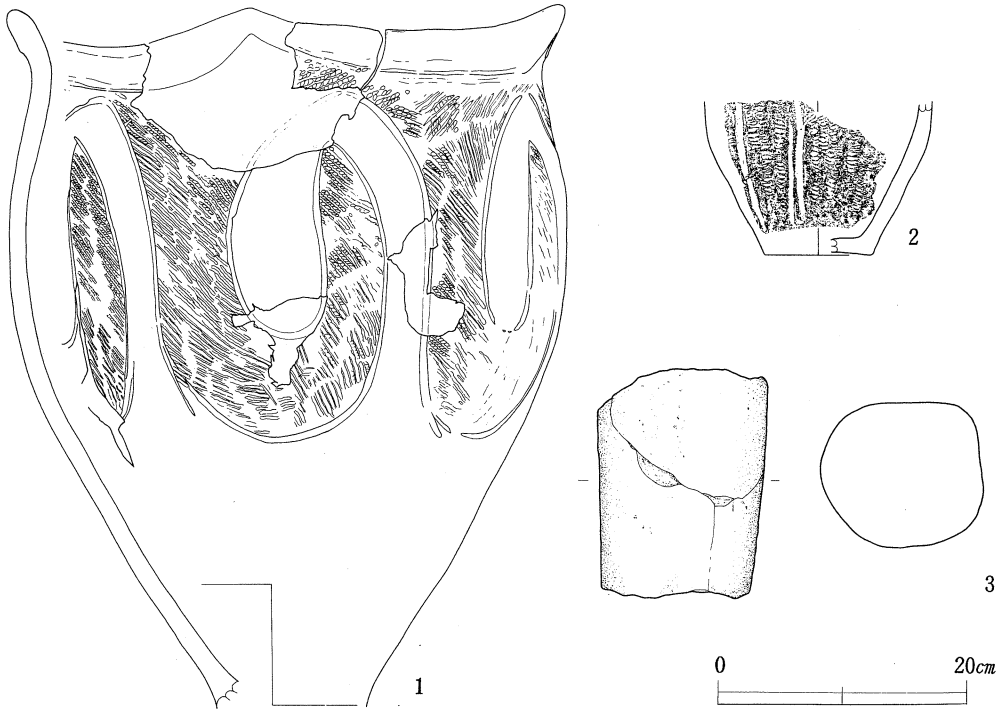


A区９号住居址出土遺物（1／6）

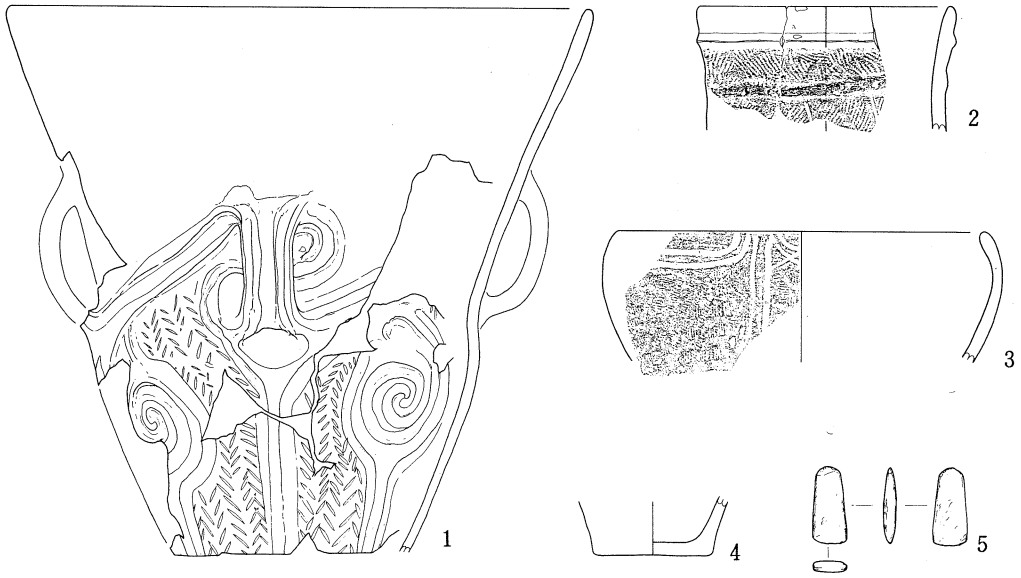


A区10号住居址出土遺物（1／6）

第27図　縄文時代の遺物

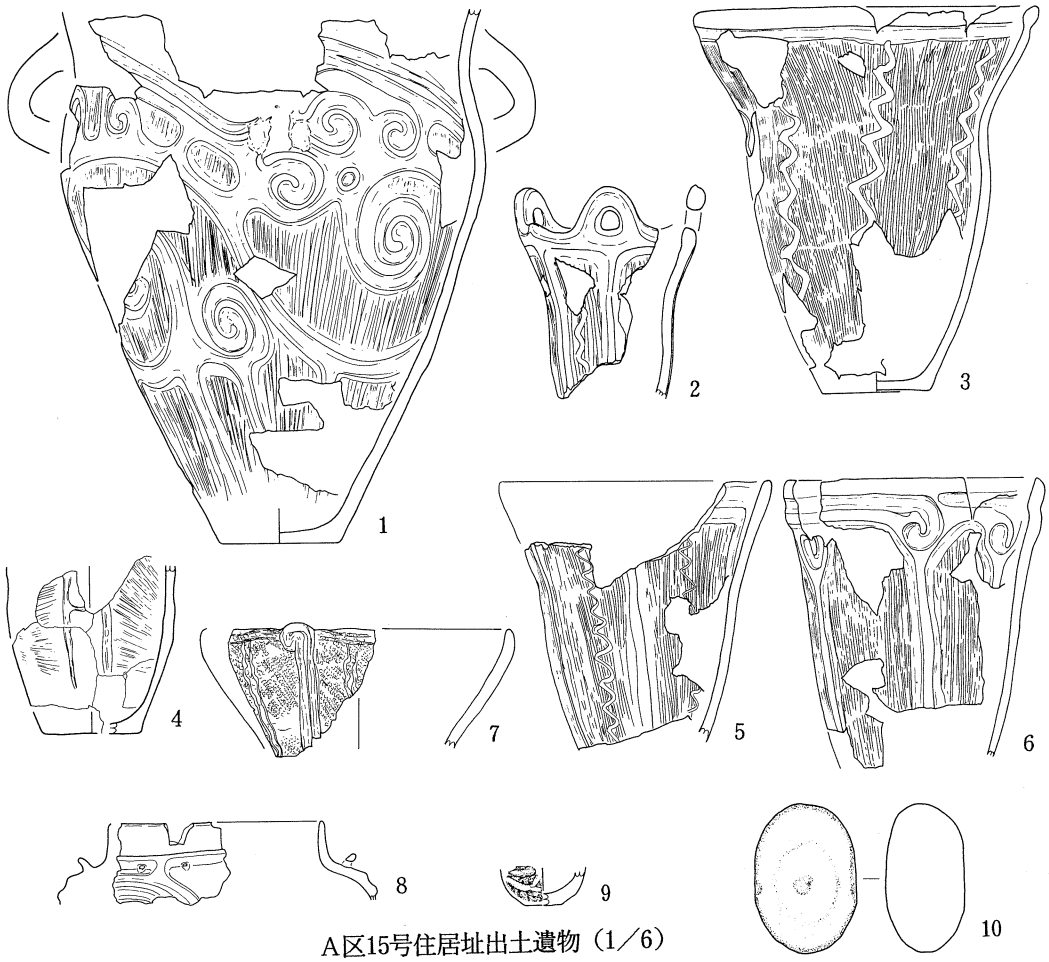


A区13号住居址出土遺物（1／6）

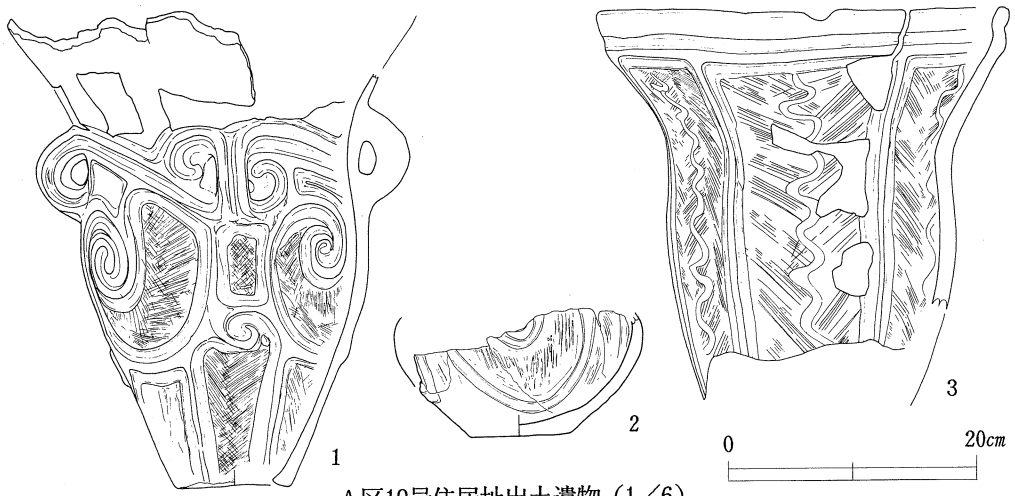


A区14号住居址出土遺物（1／6）

第28図　縄文時代の遺物

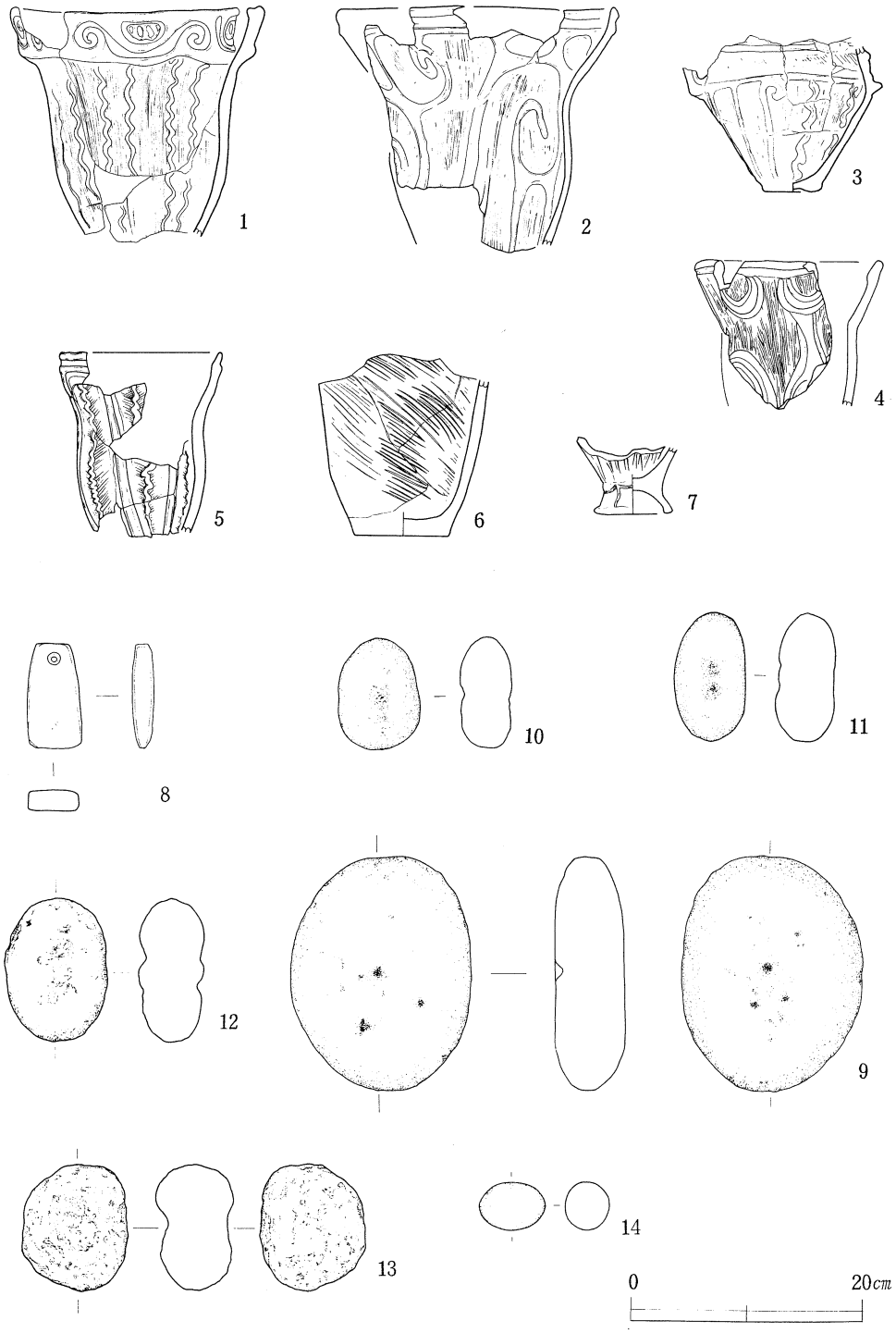


A区15号住居址出土遺物（1／6）



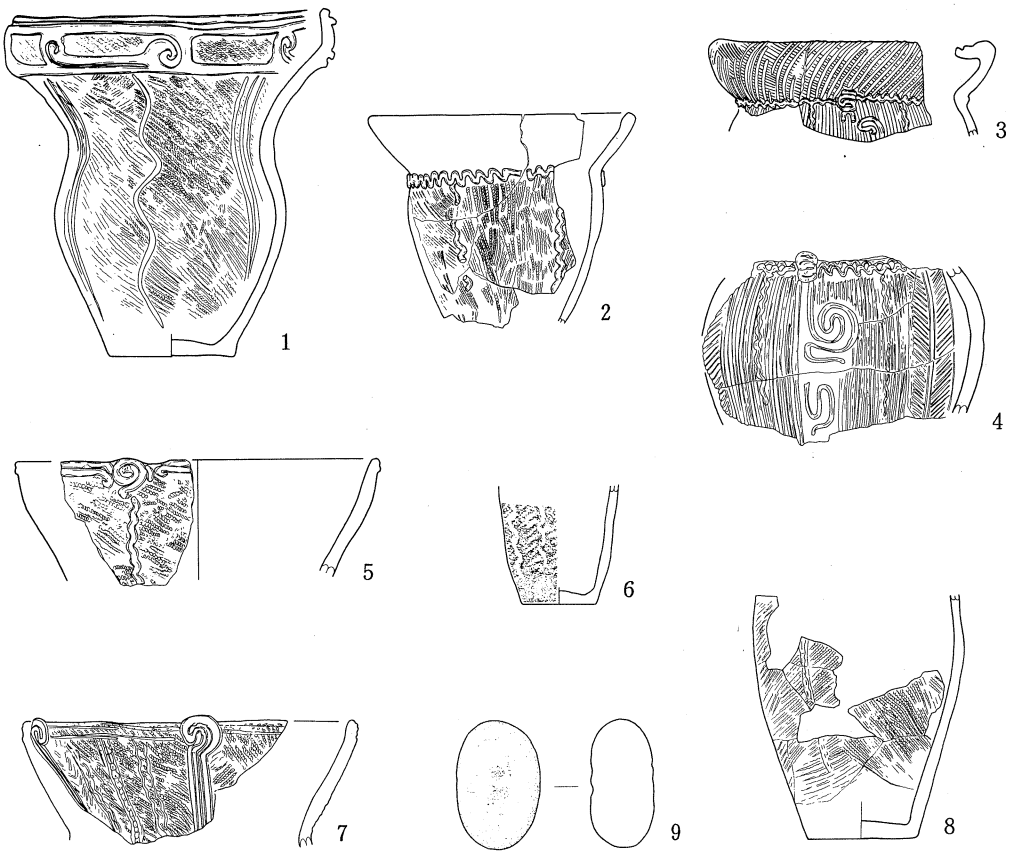
A区19号住居址出土遺物（1／6）

第29図　縄文時代の遺物

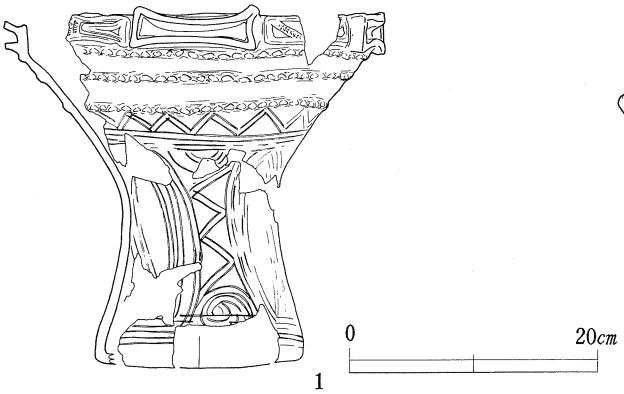


A区20号住居址出土遺物（1／6）

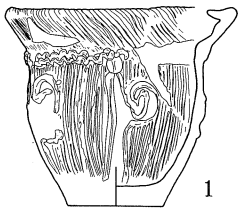
第30図　縄文時代の遺物



A区21号住居址出土遺物（1／6）



B区１号土坑出土遺物（1／6）



A区遺構外出土遺動（1／6）

第31図　縄文時代の遺物

2　奈良・平安時代

遺構で報告した41軒の竪穴住居址・4棟の掘立柱建物址・ピット群・土坑・井戸跡の内、A区1・17号住居址・掘立柱建物址・ピット群、B区7・13・19・24・31・32・33号住居址・土坑出土の遺物には器形の復元出来るものがなかったのでここでは省略した。

＜A区2号住居址出土遺物＞　（第32図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	－，23.0，　－	白色粒子 砂粒を含む	橙褐色 灰橙褐色	ロクロ水挽 口縁部横撫で

＜A区7号住居址出土遺物＞　（第32図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	－，　－，　7.8	粗い砂粒を含む	灰赤褐色	ロクロ水挽 底部回転糸切痕

＜A区16号住居址出土遺物＞　（第32図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.2，11.3，　5.3	赤、白色粒子を含む	橙黄褐色	ロクロ水挽 底部回転糸切痕 ¼欠損
2	土師器	坏	4.3，11.1，　5.4	細い赤白色粒子を含む	橙褐色	ロクロ水挽 底部回転糸切痕 ⅔欠損
3	土師器	坏	4.9，12.6，　5.7	密 赤、白色粒子を含む	黒色 白灰色	ロクロ水挽 底部回転糸切痕 ½欠損
4	土師器	坏	4.0，10.9，　4.8	粗 白色粒子を多量に含む	白茶色 淡黄茶色	ロクロ水挽 底部回転糸切痕があるが磨滅により明瞭ではない、焦げつきが所々に有 ⅓欠損
5	土師器	坏	4.5，11.2，　5.0	赤、白微粒子を含む	褐黄褐色 黄褐色	ロクロ水挽 底部回転糸切痕 2／5欠損
6	土師器	坏	4.17，11.2，　5.2	白色粒子を含む	黄肌色 一部赤肌色	ロクロ水挽 底部回転糸切痕 ⅓欠損
7	土師器	坏	3.9，11.3，　5.8	赤色粒子を含む	灰黄赤褐色 赤黄褐色	ロクロ水挽 底部手持ちヘラ削り 口縁部一部欠損
8	土師器	坏	3.9，10.7，　5.1	細い赤白色粒子を含む	灰黄褐色 灰橙褐色	ロクロ水挽 底部回転糸切痕 口縁部一部欠損
9	土師器	坏	3.9，11.4，　5.7	白色粒子を含む	淡橙褐色 （一部暗茶褐色）	ロクロ水挽 底部回転糸切痕 口縁部一部欠損
10	土師器	坏	3.8，10.8，　5.5	粗 白色粒子を含む	淡赤茶褐色	ロクロ水挽 底部手持ちヘラ削り？ 底部一部欠損
11	土師器	坏	4.1，12.1，　5.5	粗 白色粒子を含む	淡黄肌色 一部赤肌色	ロクロ水挽 ¼欠損
12	土師器	坏	6.6，14.9，　7.5	密 赤色粒子を含む	灰橙褐色 橙茶褐色	内面－放射状暗文 底部削り出し高台 ⅓欠損

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
13	土師器	皿	3.1，13.7，　5.0	赤色粒子を含む	明白赤褐色 赤茶褐色	ロクロ水挽 底部手持ちヘラ削り 内面－渦巻状暗文　口縁部一部欠損
14	土師器	皿	2.2，13.4，　5.5	赤白粒子 白色粒子を少々含む	淡赤茶褐色 （外面底部 白黄褐色）	ロクロ水挽 底部手持ちヘラ削り＋回転ヘラ削り 2／5欠損
15	土師器	皿	1.8，13.8，　6.4	精製（？）	淡橙褐色 白黄褐色	ロクロ水挽 底部手持ちヘラ削り　½欠損
16	土師器	甕	－，16.1，　－	砂粒、金雲母を含む	赤茶褐色 （一部焦げ茶褐色）	口縁部と内面－横刷毛整形 外面－縦刷毛整形 口縁部破片
17	土師器	甕	－，26.6，　－	砂粒、雲母を含む	淡赤褐色	内面－横刷毛整形 外面－縦刷毛整形 口縁部破片

＜A区18号住居址出土遺物＞　（第33図）　　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	蓋	－，17.2，　－	赤色砂粒を含む	橙褐色	外面－ロクロ水挽、回転ヘラ削り 破片
2	土師器	蓋	－，17.0，　－	白赤色粒子を含む	茶褐色	内面－渦巻暗文 ⅔残
3	土師器	坏	5.3，17.0，　7.6	赤色粒子を少量含む	橙褐色	外面－底部掘り出し高台 破片
4	土師器	坏	4.0，10.6，　5.0	赤色粒子を含む	赤黄褐色	内面－放謝状暗文 外面－体部下半ヘラ削り 底部破片
5	土師器	坏	3.9，10.6，　4.0	赤色粒子を含む	茶褐色	内面－放謝状暗文 外面－代部下半ヘラ削り 口縁部一部欠損
6	土師器	坏	6.1，15.8，　7.2	細い白赤黒粒子を含む	黒 白橙褐色	内面－黒色漆が付着 口縁部横撫で、底部削り出し高台 3／5残
7	土師器	坏	4.2，11.2，　4.6	密	橙褐色	外面－体部下半ヘラ削り 口縁部一部欠損
8	土師器	坏	4.3，10.8，　4.8	赤色粒子を含む	茶褐色	内面－放謝状暗文 外面－代部下半ヘラ削り ⅔残
9	土師器	坏	4.0，11.6，　4.4	赤色粒子を含む	橙褐色	外面－体部下半ヘラ削り 口縁部一部欠損
10	土師器	坏	4.2，10.2，　4.6	赤色粒子を含む	茶褐色	内面－放謝状暗文 外面－代部下半ヘラ削り 底部破片
11	土師器	坏	4.0，11.0，　5.0	赤白砂粒を含む	白灰茶褐色 赤茶褐色	内面－放射状暗文 外面－体部下半ヘラ削り 底部の回転糸切りののちヘラ削り 口縁部一部欠損
12	土師器	坏	4.2，10.6，　4.8	赤色砂粒を少量含む	黄茶褐色	内面－暗文あり 外面－体部下半ヘラ削り　½欠損
13	土師器	皿	2.3，13.0，　5.8	赤白砂粒を含む	橙褐色	外面－体部下半、回転ヘラ削り 完形
14	土師器	甕	－，37.0，　－	金雲母、白色砂粒を含む	黒茶褐色 茶褐色	内面－口縁部から体部全体に横刷毛目 外面－縦刷毛目 口縁～胴部破片
15	土師器	甕	－，　－，　8.5	金雲母を含む	赤茶褐色 茶褐色	内面－横刷毛目痕あり 外面－縦刷毛目痕あり 底部、木葉痕　底部破片

＜B区１号住居址出土遺物＞　（第34図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	－，　－，　－	粗い	灰	焼、－良好
2	土師器		－，33.2，　－	やや粗い	橙	焼、－良好 内面－横なで 外面－口縁部回転なで 体部横八ケ目
3	土師器	甕	－，24.0，　－	粗い	黄褐色	焼、良好 内面－横なで 外面－なで

＜B区２号住居址出土遺物＞　（第34図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	－，36.2，　－	粗い金雲母を含む	暗褐色	内面－横刷毛目 外面－口縁部横なで 体部縦刷毛目　口縁部破片
2	土師器	甕	－，16.0，　－	金雲母を含む	暗褐色	内面－横刷毛目 外面－口縁部横なで 体部縦刷毛目　口縁部破片
3	土師器	坏	4.2，12.8，　5.9	密、赤色粒子を含む	黒 白灰色	内面－黒 外面－回転糸切り　口縁部一部欠損
4	土師器	坏	6.1，17.6，　6.8	密 白色粒子を含む	黒灰白褐色 灰白橙褐色	内面－黒変、回転なでのちみがき 外面－回転なで 底部回転糸切り　¼残
5	土師器	坏	4.5，11.6，　4.5	密 赤色粒子を含む	橙褐色	内面－放射状暗文 外面－体部下半ヘラ削り 底部ヘラ削り　完形
6	土師器	坏	3.8，11.8，　5.0	密 白色粒子を含む	黄褐色 橙褐色	内面－放射状暗文 外面－体部下半ヘラ削り 口縁部一部欠損
7	土師器	坏	6.4，16.6，　6.6	精製	黒　色 淡褐色	内面－黒変、回転なで 外面－回転なで 底部回転糸切り 口縁部一部欠損
8	土師器	坏	6.4，17.0，　7.0	精製	黒色一部茶褐色 黄褐色	内面－黒変、一部茶褐色 外面－回転なで ½残
9	土師器	高台付皿	2.9，12.3，　6.2	赤白砂粒を含む	黒　色 白灰色	内面－黒色、回転なでのちみがき 外面－回転なで　一部欠損
10	土師器	皿	2.5，13.0，　4.4	赤色粒子を含む	赤褐色	内面－渦巻暗文 外面－体部下半ヘラ削り　完形

＜B区３号住居址出土遺物＞　（第35図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	－，13.6，　－	やや粗い 砂粒を含む	灰肌褐色 灰橙褐色	刷毛整形ののちになで 口縁部破片
2	土師器	皿	1.8，12.4，　4.0	精製	黄赤褐色	ロクロ水挽 外面－ヘラ削り　破片

＜B区４号住居址出土遺物＞　（第35図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	－，28.8，　－	金雲母、やや粗い砂粒を含む	灰茶褐色 （一部黒変） 茶橙褐色	外面－縦刷毛整形 内面－横刷毛整形 口縁部破片

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
2	土師器	羽釜	－，17.0，　－	金雲母、粗い砂粒を含む	灰茶褐色 茶褐色	外面－口縁部斜刷毛目 内面－横刷毛整形 口縁部破片
3	土師器	小型甕	－，16.0，　－	粗い砂粒を含む	黄褐色 橙褐色	外面－縦刷毛整形 内面－横刷毛整形　口縁部破片
4	土師器	甕	－，28.5，　－	砂粒、金雲母を多量に含む	赤茶褐色 明茶褐色	外面－縦刷毛整形 内面－横刷毛整形 口縁部破片
5	土師器	坏	4.0，12.0，　4.4	精製	淡肌色	ロクロ水挽 底部ヘラ削り　⅔欠損
6	土師器	坏	4.0，12.0，　4.6	精製	灰肌色	ロクロ水挽 底部ヘラ削り 口縁部、底部一部欠損

＜B区5号住居址出土遺物＞　（第35図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	－，17.2，　－	粗い砂粒、金雲母を多量に含む	暗褐色	外面－斜縦刷毛整形 内面－横刷毛整形 口縁部破片
2	土師器	甕	－，　6.8，　－	金雲母、砂粒を含む	灰黄褐色 灰橙褐色	底部－木葉痕 底部破片
3	土師器	甕	－，23.4，　－	金雲母、砂粒を含む	灰肌色 淡橙褐色	外面－縦刷毛整形後撫で 内面－横刷毛整形　口縁部破片
4	土師器	甕	－，19.8，　－	細い砂粒 金雲母を含む	淡肌褐色 （一部灰色）	外面－横撫で 内面－横刷毛整形　口縁部破片
5	土師器	坏	3.0，12.4，　4.0	密 赤色粒子を含む	口縁部 灰黄色 胴部黒色 底部橙褐色	ロクロ水挽 底部回転ヘラ削り 口縁部破片
6	土師器	坏	4.7，12.2，　5.2	精製	灰橙褐色 淡橙褐色	ロクロ水挽 外面－底部～胴部ヘラ削り ⅔欠損
7	土師器	坏	5.2，14.5，　5.4	密 赤色粒子を含む	橙褐色 淡肌褐色 （底部黒変）	ロクロ水挽 外面－底部～胴部ヘラ削り ½欠損

＜B区6号住居址出土遺物＞　（第36図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	蓋	－，15.0，　－	精製	暗灰褐色	ロクロ水挽　破片
2	須恵器	甕	－，19.0，　－	精製	黒灰色	ロクロ水挽 口縁部及び内面に釉がかかっている 口縁部破片
3	須恵器	甕	－，　－，12.2	精製	暗灰紫色	内面－横撫で 外面－胴部叩き目。釉が塗られている　底部破片
4	土師器	坏	6.5，16.4，　6.0	密 赤色粒子を含む	淡橙褐色	ロクロ水挽 外面－胴部下半ヘラ削り 底部回転糸切り後ヘラ削り 3／5欠損
5	土師器	坏	4.8，13.8，　4.8	密 赤色粒子を含む	黄橙褐色 赤黄褐色	ロクロ水挽 外面－胴部墨書 底部、胴部下半ヘラ削り 3／5欠損
6	土師器	坏	5.1，14.4，　5.4	密 赤色粒子を含む	黒灰色 灰肌褐色	ロクロ水挽 外面－胴部下半ヘラ削り 底部回転糸切り痕 2／5欠損

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
7	土師器	皿	2.7，12.4，　5.8	白色、黒色 粒子を含む	黄肌色 淡黄褐色	ロクロ水挽 外面－胴部下半ヘラ削り 底部回転糸切り後ヘラ削り ⅓欠損
8	土師器	坏？	－，　－，　－	精製	赤黄褐色	底部に線刻あり 底部破片
9	灰　釉 陶　器	高台付皿？	－，　－，　6.2	緻密	白灰色	ロクロ水挽 内、外胴部に釉がかかっている 底部破片

＜B区８号住居址出土遺物＞　（第36図）　　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	－，14.8，　－	密 赤色粒子を含む	茶褐色 黄茶褐色	ロクロ水挽 外面－胴部下半ヘラ削り 口縁部破片
2	土師器	甕	－，30.0，　－	金雲母、 やや粗い 砂粒を含む	灰焦げ茶色 淡肌褐色	外面－斜縦刷毛整形 内面－斜横撫で 口縁部破片
3	土師器	甕	－，32.0，　－	金雲母、 砂粒を含む	灰茶褐色 灰黄褐色	外面－斜縦刷毛整形 内面－横撫で　口縁部破片
4	土師器	甕	29.9，29.4，　9.3	金雲母、 やや粗い 砂粒を含む	褪灰赤褐色 焦げ茶褐色	外面－斜縦刷毛整形、底部木葉痕 内面－横刷毛整形 ½欠損
5	土師器	甕	－，31.0，　－	金雲母、 砂粒を含む	黄灰茶褐色 (一部黒変)	外面－斜縦刷毛整形 口縁部横刷毛目 内面－斜横刷毛製形後撫で 口縁～胴部破片
6	土師器	甕	－，31.6，　－	金雲母、 やや粗い 砂粒を含む	灰焦げ茶色 淡肌褐色	外面－斜縦刷毛整形 内面－斜横撫で №2と同物？　口縁部破片

＜B区９号住居址出土遺物＞　（第37図）　　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	須恵器	壷	－，　8.0，　－	精製	灰色	ロクロ水挽 外面一部釉がかかっている 口縁～頸部破片
2	土師器	坏？	－，　－，　6.0	やや粗い 白赤黒色 粒子を含む	淡茶褐色 焦げ茶褐色	ロクロ水挽 外面－底部回転糸切痕 内面－線刻文あり　底部破片
3	土師器	坏	4.4，14.0，　5.4	白黒粒子を含む	黒色 灰橙褐色 (一部黒変)	ロクロ水挽 外面－底部回転糸切痕 ½欠損
4	土師器	坏	4.0，12.0，　5.0	密 赤色粒子を含む	黄橙褐色 橙褐色	ロクロ水挽 外面－底部回転糸切痕 胴下部～底部ヘラ削り 2／5欠損
5	銭　貨		直径 2.2 cm			洪武通宝
6	土師器	坏	5.0，11.4，　6.0	粗い砂粒を含む	黒色 淡茶褐色 (一部赤変)	ロクロ水挽 外面－底部回転糸切り後ヘラ削り 口縁、底部一部欠損
7	土師器	坏	4.4，12.2，　5.8	粗い砂粒 赤色粒子を含む	淡茶色	ロクロ水挽 外面－底部回転糸切痕 口縁一部欠損
8	土師器	坏	－，　－，　4.4	密 赤色粒子を含む	赤褐色 橙　色	ロクロ水挽 外面－胴下半ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 底部破片

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
9	土師器	坏	4.6，12.2，　4.6	緻密、赤色微粒を含む	淡黄褐色 黄褐色	ロクロ水挽 外面－底部回転糸切痕　完形
10	土師器	小型甕	－，12.6，　－	赤色粒子粗い砂粒を含む	赤褐色 淡黄褐色	ロクロ水挽　口縁部破片
11	土師器	甕	－，31.0，　－	やや粗い砂粒を含む	淡茶褐色 橙茶褐色	外面－斜縦刷毛整形 内面－口縁部横刷毛目 胴部撫で　口縁部破片

＜B区10号住居址出土遺物＞　（第38図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	－，12.0，　－	砂粒を含む	黒褐色	内面－回転なで 外面－なで　口縁部破片
2	土師器	甕	－，28.2，　－	砂粒を含む	茶褐色	内面－口縁部横刷毛目、体部刷毛目の後なで 外面－体部縦刷毛目　破片

＜B区11号住居址出土遺物＞　（第38図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	壷	－，　－，　－	白色砂粒を含む	灰色	ロクロ水挽　破片
2	土師器	坏	4.3，12.0，　4.2	密 赤色砂粒を含む	黄橙褐色	内面－回転なで 外面－体部下半ヘラ削り 底部糸切りの後ヘラ削り、線刻？　¼残
3	土師器	坏	5.0，15.0，　5.0	赤色砂粒を含む	赤褐色	内面－花弁状暗文 外面－体部下半～底部にかけてヘラ削り、底部糸切り痕わずかに残る　一部欠損
4	土師器	坏	4.2，12.0，　4.3	白赤砂粒を含む	褐色	内面－回転なで 外面－体部下半ヘラ削り　½残
5	土師器	小型甕	－，19.2，　－	白色砂粒を含む	黄褐色	内面－口縁部～体部にかけて横刷毛目 外面－体部縦刷毛目、すす付着　破片
6	土師器	甕	－，31.0，　－	金雲母を含む	焦げ茶褐色 赤茶褐色	内面－体部横刷毛目 外面－体部縦刷毛目　破片

＜B区12号住居址出土遺物＞　（第38図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	甕	－，　－，　－	白色砂粒を含む	灰色	内面－回転なで 外面－回転ヘラ削り　破片
2	土師器	坏	4.9，　6.4，　6.4	砂粒を含む	灰褐、裨色	内面－磨き 外面－ロクロ水挽
3	土師器	坏	4.3，11.2，　5.8	赤色砂粒を含む	淡橙褐色	内面－回転なで 外面－体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り　一部欠損
4	土師器	坏	2.4，16.8，　6.0	密 赤色砂粒を含む	茶褐色 赤褐色	内面－なで 外面－体部下半～底部回転ヘラ削り　¾残
5	土師器	小型甕	－，15.0，　－	白色砂粒 金雲母を含む	焦げ茶褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目　口縁部破片
6	土師器	甕	－，29.0，　－	白色砂粒 金雲母を含む	茶褐色 赤茶褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目　口縁部破片

＜B区14号住居址出土遺物＞　（第39図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.75，14.6，4.6	赤色粒子を含む	赤褐色	内面―回転なで 外面―体部下半ヘラ削り　⅔残
2	土師器	皿	2.4，12.0，5.2	白色砂粒を多量に含む	橙褐色	底部回転糸切り痕 底部破片

＜B区15号住居址出土遺物＞　（第39図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.5，12.2，4.4	赤色粒・砂粒を含む	茶褐色	内面―なで 外面―体部下半～底部にかけてヘラ削り　½残
2	土師器	坏	3.9，15.0，5.0	赤色粒・金雲母を含む	淡褐色	内面―なで 外面―体部下半ヘラ削り 底部糸切り痕　⅓残
3	土師器	坏	5.5，15.0，6.0	赤色粒・雲母を含む	黒褐色	内面―なで 外面―体部下半ヘラ削り ⅕残
4	土師器	高台付皿	3.1，12.8，6.0	精製 赤・白色粒子を含む	赤茶褐色	内面―磨 外面―回転なで 底部糸切り痕　⅓残
5	手　担 土　器		2.5，4.0，―	白色粒・雲母を含む	黒褐色	内面―磨 外面―指頭圧痕 完形
6	土師器	小型甕	10.3，12.0，5.6	赤色粒・砂粒を含む	赤茶褐色	内面―なで 外面―体部にヘラ削りの後、刷毛目あり　底部ヘラ削り　⅓残
7	土師器	甕	―　15.0，8.4	赤色粒を含む	白黄褐色	内面―なで 外面―口縁部横なで 体部ヘラ削りの後、横刷毛目 ¼残

＜B区16号住居址出土遺物＞　（第39図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	6.6，17.0，11.0	密 白色砂粒を含む	淡黄褐色	内・外面ともに回転なで 破片
2	須恵器	坏	5.1，14.0，7.2	白色砂粒を含む	黄灰色 灰茶色	内外面ともに回転なで 破片
3	須恵器	高坏	―，―，―	密 白色砂粒を含む	灰　色	脚部なで 破片
4	土師器	坏	5.7，14.0，4.2	緻密 赤白砂粒を含む	内　黒 茶褐色	内面―黒、回転なで 外面―体部下半ヘラ削り 底部ヘラ削り　⅓残
5	土師器	坏	5.7，15.6，10.2	緻密 赤色砂粒を少量含む	褐色	内面―波状の横みがき 外面―縦みがきの上を回転なで ⅕残

＜B区17号住居址出土遺物＞　（第39図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	3.9，12.0，4.5	密 赤・白色粒子を含む	橙褐色	内面―回転なで 外面―体部下半～底部にかけてヘラ削り　⅔残
2	土師器	皿	2.8，12.8，4.0	密 赤・白色粒子を含む	赤褐色	内面―なで 外面―体部下半～底部にかけてヘラ削り　口縁部一部欠損
3	土師器	皿		緻密 赤・白色砂粒を含む	赤黒褐色 橙茶褐色	内面―丁寧なみがき 外面―回転なで、底部回転糸切り　⅔残

＜B区18号住居址出土遺物＞　（第40図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	鉢	9.6，26.8，12.0	密 赤色粒子を含む	灰茶褐色 茶褐色	ロクロ水挽 外面―胴部下半～底部回転ヘラ削り　⅚欠損
2	土師器	坏	4.4，12.0，4.4	密 赤色粒子を含む	橙褐色	ロクロ水挽 外面―胴部下半、底部ヘラ削り　口縁部破片
3	土師器	坏	4.2，12.0，4.4	密 白・赤色粒子を含む	橙褐色 淡黄褐色	ロクロ水挽 外面―胴部下半、底部ヘラ削り　½欠損
4	土師器	甕	－，21.0，－	砂粒を含む	淡茶褐色	ロクロ水挽 外面―胴部カキ目 内面―横なで　口縁部破片
5	土師器	甕	－，32.0，－	やや粗い金雲母、砂粒を多量に含む	焦げ茶褐色 赤茶褐色 （一部黒変）	外面―縦刷毛整形 内面―横刷毛整形、指頭痕あり 口縁～胴部破片

＜B区20号住居址出土遺物＞　（第40図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.4，12.2，5.4	密 赤色粒子を含む	茶褐色 （一部黒変）	ロクロ水挽 外面―胴部下半、ヘラ削り 底部回転糸切り後ヘラ削り　⅕欠損
2	土師器	坏	4.25，12.0，4.2	密 赤色粒子を含む	茶褐色 （一部黒変）	ロクロ水挽 外面―胴部下半ヘラ削り 底部回転糸切痕　口縁一部欠損

＜B区21号住居址出土遺物＞　（第40・41図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	皿	2.8，14.2，7.8	密 白・黒色粒子を含む	灰色	ロクロ水挽 外面―底部静止糸切痕　口縁一部欠損

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
2	須恵器	高台付皿	－，　－，8.0	密 白色粒子を含む	暗黄灰色	ロクロ水挽 底部破片
3	須恵器	甕	頸部径　22.6cm	密 白・赤黒色微粒を含む	白茶褐色 淡黄褐色	外面―叩き目 内面―横なで 頸～胴部破片
4	須恵器	甕	－，　－，13.0	密 白・赤黒色粒子を含む	黄灰色	ロクロ水挽 外面－下部に叩き目 胴下部破片
5	土師器	坏	3.9，12.4，4.6	やや粗い 赤色粒子を含む	肌色	ロクロ水挽 外面―胴下部～底部ヘラ削り ⅓欠損
6	土師器	小型甕	－，13.0，－	やや粗い 白・赤黒色粒子を含む	肌　色 （一部うす茶）	ロクロ水挽 口縁部破片
7	土師器	甕	－，15.6，－	やや粗い 砂粒を含む	黄茶褐色 （一部茶褐色）	外面―縦ヘラ削り 内面―斜ヘラなで　口縁～胴部破片
8	土師器	甕	－，15.6，－	密 細い白・黒色粒子を含む	茶褐色 （一部焦げ茶）	外面―縦ヘラ削り 内面―斜横ヘラなで 口縁～胴部破片
9	土師器	甕	－，24.0，－	やや粗い 赤色粒子、砂粒を含む	褪茶褐色 褪橙褐色	ロクロ水挽 口縁～胴部破片
10	土師器	甕	－，24.0，－	密 金雲母、砂粒を含む	白褐色	ロクロ水挽 外面―縦なで、回転なで 内面―回転なで、指圧痕あり 口縁～胴部破片

＜B区22号住居址出土遺物＞　（第41図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.0，15.0，11.0	緻密 赤色微粒を含む	橙　色	ロクロ水挽 外面―胴下部～底部ヘラ削り後なで 底部に線刻あり 内面―底部に放射状暗文　½欠損
2	土師器	坏	－，15.0，－	やや粗い 砂粒を含む	白褐色	ロクロ水挽 口縁部破片
3	土師器	坏	3.9，15.0，10.0	精製	白橙褐色	ロクロ水挽 外面―胴下部～底部ヘラ削り後撫で 底部に線刻あり　底～胴部破片
4	土師器	坏	2.9，16.0，11.6	精製	褐　色 明褐色	ロクロ水挽 内外面体部横磨き みこみ部暗文？ 底部ヘラ削り　¾欠損
5	土師器	甕	－，22.0，－	やや粗い 砂粒を含む	暗褐色 褐　色	ロクロ水挽 外面―カキ目 内面―撫で　口縁～胴部破片

＜B区23号住居址出土遺物＞　（第41図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	5.6，13.4，－	密 白・赤・黒微粒を含む	淡橙褐色	ロクロ水挽 外面―胴下部～底部ヘラ削り 内面―すすけている No.2と同じ？　口縁～胴部破片

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
2	土師器	坏	－，　－，　5.8	密 白・赤・黒色微粒を含む	淡橙褐色	ロクロ水挽 外面―胴下部～底部ヘラ削り 内面―すすけている No.1と同じ？　底～胴部破片

＜B区25号住居址出土遺物＞　（第41図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.9，14.2，　5.6	密 赤色粒子を含む	褐　色 淡赤褐色	ロクロ水挽 外面―胴下半ヘラ削り、底部回転糸切り痕　1/5欠損
2	土師器	坏	5.4，13.2，　4.2	密 赤色粒子を含む	白褐色	ロクロ水挽 外面―胴下半～底部ヘラ削り　2/3欠損

＜B区26号住居址出土遺物＞　（第42図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	3.6，12.0，　6.0	密 白色砂粒を含む	灰　色	内面―撫で 外面―ロクロ水挽 底部回転糸切り　1/3残
2	須恵器	坏	4.0，11.0，　6.0	緻密 白色砂粒を含む	黒灰色	内・外面ともにロクロ水挽 底部回転糸切り　1/3残
3	須恵器	高台付坏	－，　－，　9.0	緻密 白色粒子を含む	暗灰色 灰茶色	内面―ロクロ水挽 外面―ロクロ水挽、底部回転糸切り付高台　底部破片
4	土師器	坏	4.4，10.6，　5.6	密 赤色粒子を含む	橙褐色	内面―ロクロ水挽 外面―ロクロ水挽 体部下半ヘラ削り　1/5残

＜B区27号住居址出土遺物＞　（第42図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.2，12.0，　4.8	密 白色粒子を含む	橙褐色	内面―回転なで 外面―体部下半ヘラ削り　1/4残
2	灰　釉 陶　器	皿？	－，14.6，　－	黒色砂粒を含む	黄灰色	内・外ともになで　破片
3	土師器	坏	3.0，15.0，10.0	密 白色粒子を含む	褐　色	内面―底に暗文 外面―体部回転なで 底部回転ヘラ削り　1/5残
4	土師器	甕	－，22.4，　－	赤・白色大粒子を含む	明黄褐色	内面―なで 外面―回転なで　破片
5	土師器	甕	－，　－，　9.0	赤・白色粒子を含む	淡褐色	内面―なで 外面―体部横カキ目、下部ヘラ削り　破片
6	土　製	紡錘車				

＜B区28号住居址出土遺物＞　（第42図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	3.4，13.2，8.2	白色砂粒を含む	灰　色	内・外―ロクロ水挽 底部ヘラ削り　⅔残
2	土師器	坏	3.1，15.6，11.0	緻密 赤色砂粒を含む	白褐色	内面―みこみ部みがき 外面―体部下半回転ヘラ削り 破片
3	土師器	坏	－，－，8.0	粗い、赤・白色粒、雲母を含む	淡褐色 黒褐色	内・外面―ロクロ水挽 底部―ヘラ削りの後刷毛調整　⅔残
4	土師器	坏	3.1，15.0，9.8	緻密 赤色砂粒を含む	白黄褐色 淡橙褐色	内面―横みがき みこみ部放射状肺文 外面―体部下半ヘラ削り　⅓残
5	土師器	小型甕	17.1，18.0，6.5	白色粒子を含む	橙灰褐色	内面―ヘラなで 外面―口縁部横刷毛目 体部ヘラ削り　⅙残
6	土師器	小壷	4.1，3.6，4.0	赤白砂粒を含む	赤橙褐色	内面―回転ヘラなで 外面―回転なで 底部ヘラ削り　完形

＜B区29号住居址出土遺物＞　（第43図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	3.6，13.6，8.0	やや粗い 白色粒子を多く含む	紫灰色 紫灰褐色	ロクロ水挽 外面―底部回転ヘラ削り　⅙欠損
2	須恵器	坏	2.8，12.8，8.8	やや粗い 白・黒色粒子を含む	白灰褐色	ロクロ水挽 外面―底部ヘラ削り 底部破片
3	須恵器	小型甕	－，－，6.4	密 白・黒色粒子を含む	白灰色 灰　色	ロクロ水挽 外面―胴下部回転ヘラ削り 底部ヘラ削り　底部破片
4	土師器	坏	6.5，17.6，11.0	精製	黄茶褐色	ロクロ水挽 外面―底部回転ヘラ削り後なで線刻 胴部ヘラ削り後回転なで磨き ⅓欠損
5	土師器	坏	6.3，16.0，8.2	精製	白橙色 （一部橙色）	ロクロ水挽 外面―底部回転ヘラ削り　⅙欠損
6	土師器	坏	－，11.6，－	やや粗い 赤・黒色粒子を含む	橙褐色 黄橙褐色	外面―ヘラ削り 内面―横なで 破片
7	土師器	坏	4.0　14.4，4.0	緻密 赤色粒子を含む	褪褐色	ロクロ水挽 外面―胴下部回転ヘラ削り、底部ヘラ削り　¾欠損
8	土師器	坏	－，－，8.0	緻密 赤色粒子を含む	褪褐色	ロクロ水挽 外面―ヘラ削り 内面―磨き　破片
9	土　製	紡錘車		やや粗い 白色粒子を多く含む	灰肌色 （一部黒変）	直径　4.8 cm 厚さ　2.7 cm 孔の直径　6 mm 前後　完形

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
10	手　捏 土　器		1.8，3.4，－	やや粗い	淡褐色	
11	手　捏 土　器		－，－，4.0	粗い 砂粒を含む	暗褐色	

＜B区30号住居址出土遺物＞　（第43図）　　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	須恵器	蓋	－，15.4，－	やや粗い 白色粒子を含む	暗灰色	ロクロ水挽 ½欠損
2	土師器	坏	3.8，11.6，5.0	緻密 赤色粒子を	赤褐色	ロクロ水挽 外面―胴下部ヘラ削り、底部回転糸切り痕　¾欠損
3	土師器	坏	3.9，11.6，4.2	緻密 赤色粒子を含む	茶褐色	ロクロ水挽 外面―胴下部ヘラ削り、底部回転糸切り痕 内面―すすけている　⅔欠損
4	土師器	坏	2.5，12.4，5.2	密 白・赤色粒子を含む	橙褐色	ロクロ水挽 外面―底部ヘラ削り 破片
5	土師器	坏	5.3，15.0，5.6	密 白・赤色微粒を含む	橙褐色	ロクロ水挽 外面―胴部下半～底部ヘラ削り ½欠損
6	土師器	甕	－，27.6，－	やや粗い 金母雲を多く含む	暗褐色	外面―斜縦ヘラなで 内面―横刷毛後なで 口縁～胴部破片
7	土師器	坏	－，－，－	密 赤色粒子を含む	肌　色 (一部黒変)	ロクロ水挽 内面―中央に小さな凹あり 破片

＜B区34号住居址出土遺物＞　（第43図）　　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.55，13.0，5.4	密 赤色粒子を含む	橙褐色	ロクロ水挽 外面―胴下半ヘラ削り、底部回転糸切り後ヘラ削り 内面―放射状暗文あり　½欠損
2	土師器	坏	4.1，12.2，4.4	緻密 赤色粒子を含む	橙褐色 (一部黒変) 黄橙褐色	ロクロ水挽 外面―胴下半ヘラ削り、底部回転糸切り痕 内面―花弁状暗文あり　⅓欠損
3	土師器	坏	3.55，10.8，4.5	密 赤色粒子を含む	赤褐色	ロクロ水挽 外面―胴下半ヘラ削り、底部回転糸切り後ヘラ削り 内面―花弁状暗文あり 口縁部に煤付着　完形
4	土師器	坏	5.8，15.6，6.8	密 赤色粒子を含む	橙褐色	ロクロ水挽 外面―胴下半～底部回転ヘラ削り 内面―放射状暗文あり　½欠損
5	土師器	坏	3.7，11.4，4.2	密 赤色粒子を含む	焦げ茶褐色	ロクロ水挽 外面―胴下半ヘラ削り、底部回転糸切り後ヘラ削り 内面―花弁状暗文あり　⅔欠損

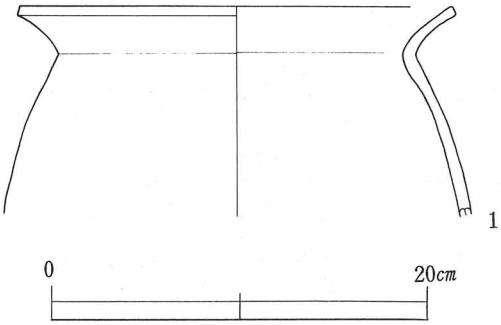
番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
6	土師器	高台付皿	2.85，13.2，6.4	密 細い砂粒を含む	白橙褐色	ロクロ水挽 外面―底部回転糸切り後高台を付け回転ヘラなで　底部破片
7	土師器	高台付皿	3.1，12.8，6.4	やや粗い 赤色粒子、砂粒を含む	白橙色	ロクロ水挽 外面―底部回転糸切り後高台を付け回転ヘラなで　⅙欠損
8	土師器	皿	2.55，12.2，4.0	密 赤色粒子を含む	橙褐色	ロクロ水挽 外面―胴下部～底部回転ヘラ削り 内面―渦巻状暗文あり　完形
9	土師器	皿	2.5，13.6，7.0	精　製	黄橙褐色 黄橙色	ロクロ水挽 外面―胴下部～底部回転ヘラ削り ¾欠損
10	土師器	小型甕	－，－，6.0	粗い 赤色粒子、砂粒を含む	赤褐色 焦げ茶褐色	ロクロ水挽 外面―胴下半ヘラ削り、底部回転糸 内面―回転なで 底～胴部破片

＜B区35号住居址出土遺物＞　（第44図）　（単位　cm）

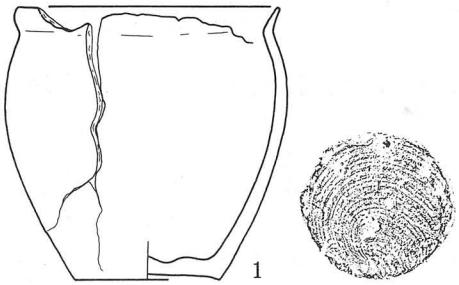
番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	3.0，13.8，10.4	緻密 赤色砂粒をを付む	黄橙褐色	底部ヘラ削り 破片
2	土師器	坏	3.5，14.6，10.8	緻密 赤色砂粒をを付む	黄橙褐色	底部ヘラ削り ⅙残
3	土師器	坏	3.6，14.2，9.8	緻密 赤色砂粒を含む	淡茶褐色	内面―螺旋状暗文 外面―底部ヘラ削り 破片
4	土師器	坏	5.2，16.2，12.0	緻密	橙褐色	内面・外面　回転なで、みがき 破片

＜A区井戸跡内出土遺物＞　（第44図）　（単位　cm）

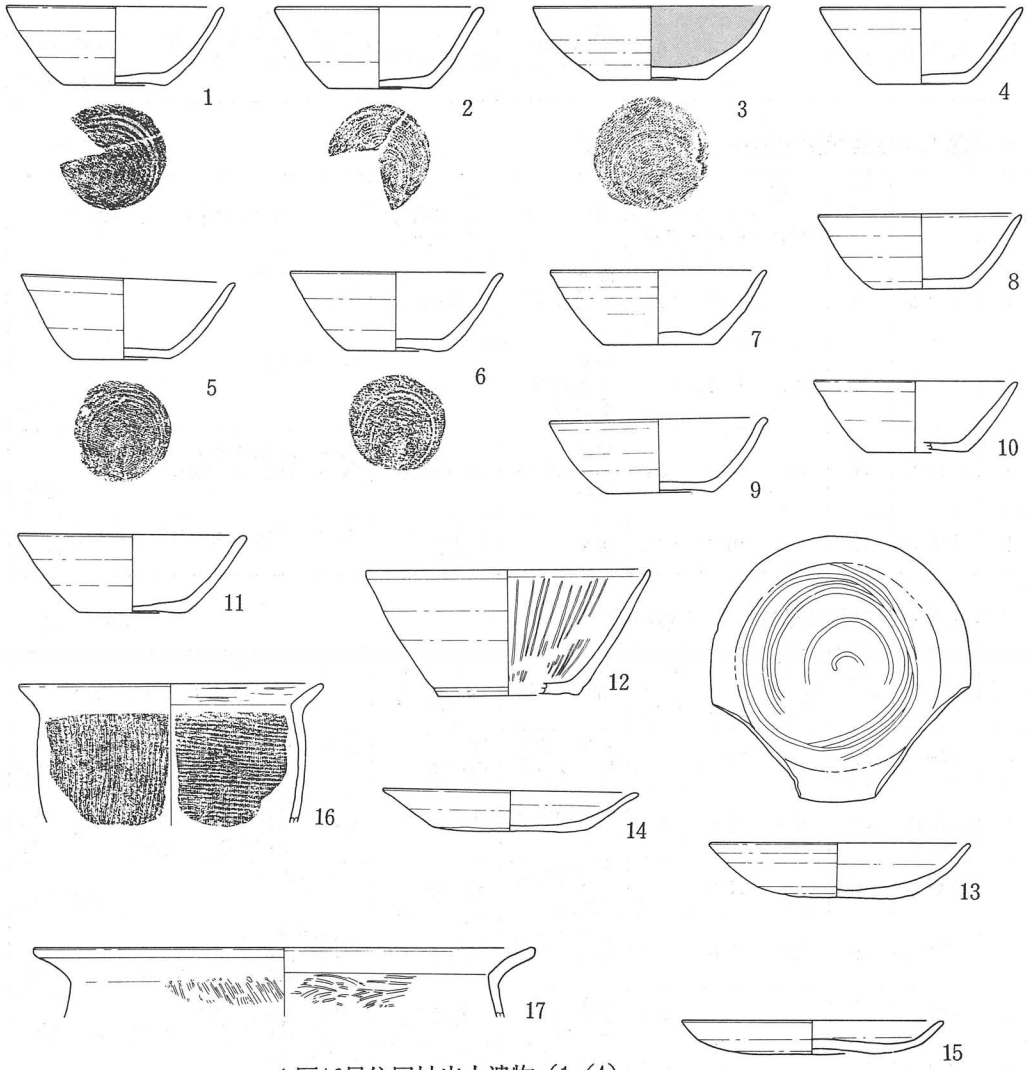
番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	－，16.0，－	砂粒、赤色粒子を含む	黒 白褐色	ロクロ水挽 破片
2	土師器	坏	4.3，11.0，4.3	赤色粒子を含む	褪赤褐色	内面―横なで 外面―体部下半ヘラ削り、底部回転糸切り後ヘラ削り　⅓残
3	須恵器	坏	－，11.8，－	白色砂粒を含む	黄灰色	ロクロ水挽 口縁部破片
4	土師器	坏	3.9，9.6，4.1	赤色粒子を含む	褪褐色	口縁部横なで 外面―体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り離し　⅓残
5	土師器	坏	－，－，4.4	赤色粒子をを含む	淡橙褐色	内面―放射状暗文 外面―体部下半ヘラ削り　底部破片
6	須恵器	坏	－，－，5.5	砂粒、茶色粒子を含む	白灰色	ロクロ水挽 底部回転糸切り離し　底部破片
7	土師器	皿	2.7，14.4，6.0	赤色粒子を含む	赤褐色	内面―うず巻状暗文 外面―体部下半～底部回転ヘラ削り ⅔残



A区２号住居址出土遺物（1／4）

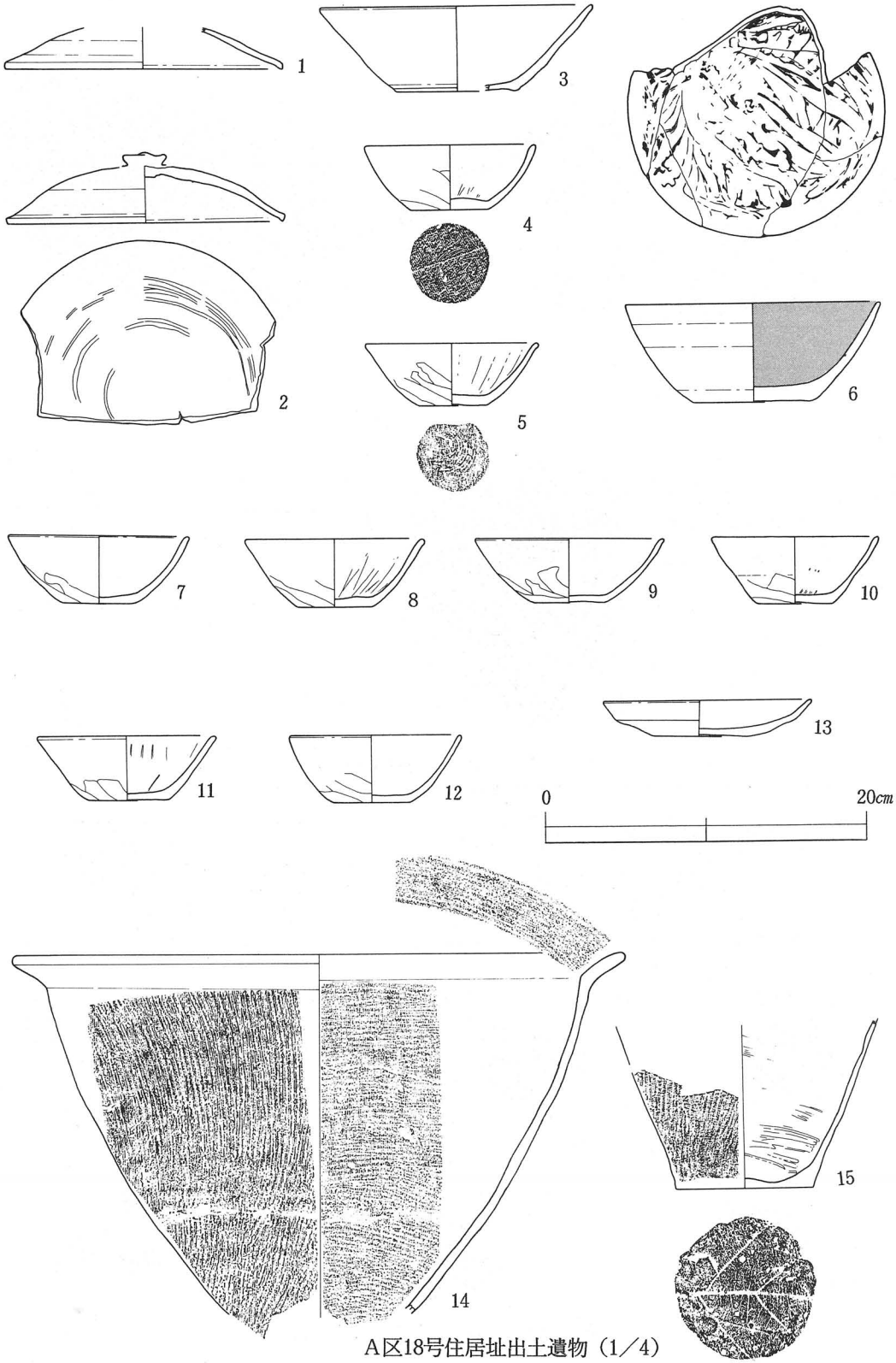


A区７号住居址出土遺物（1／4）



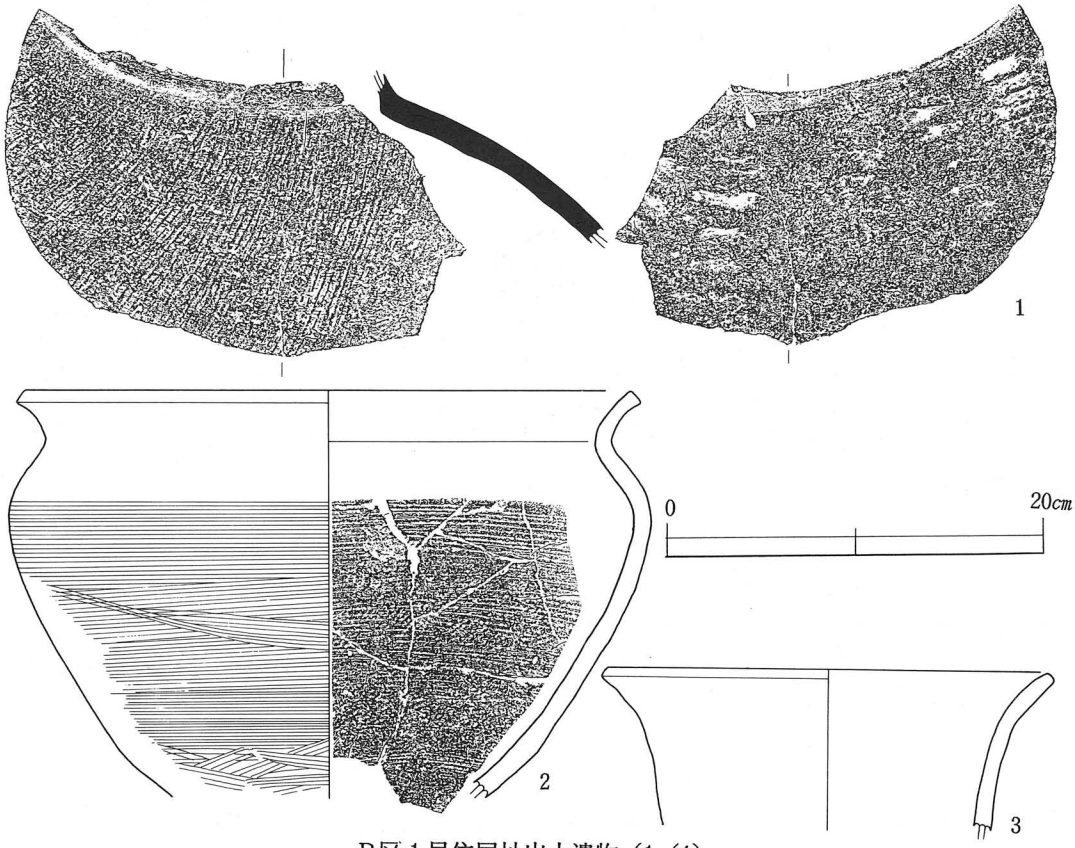
A区16号住居址出土遺物（1／4）

第32図　奈良・平安時代遺物

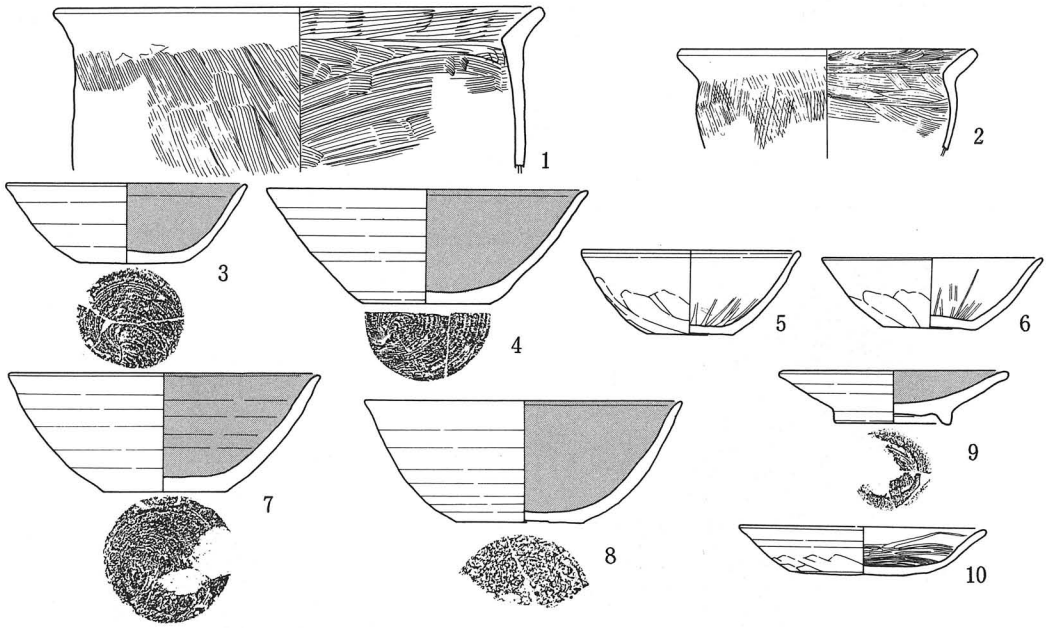


A区18号住居址出土遺物（1／4）

第33図　奈良・平安時代遺物

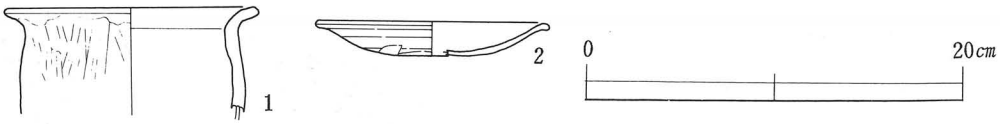


B区１号住居址出土遺物（1／4）

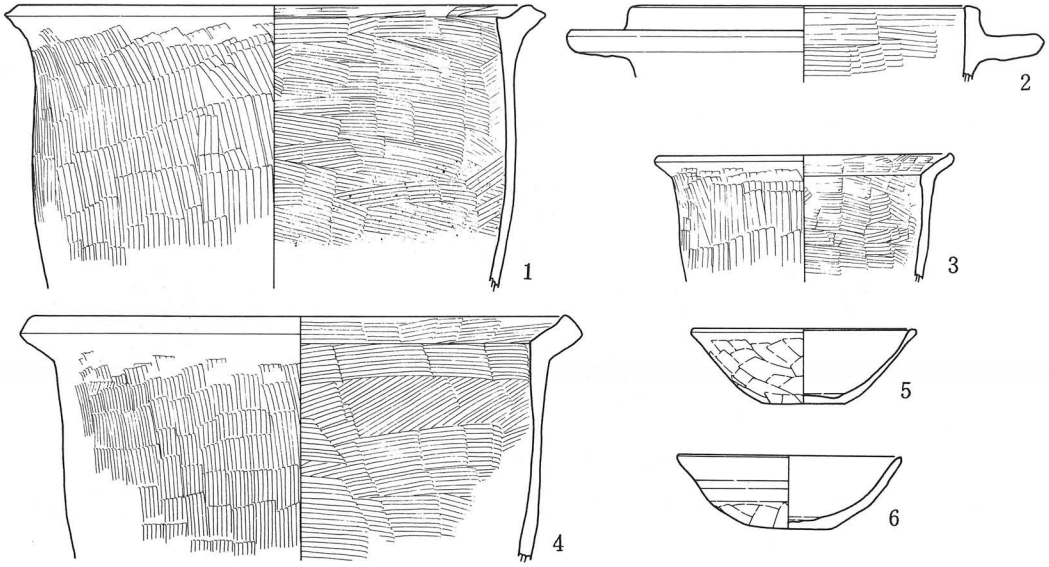


B区２号住居址出土遺物（1／4）

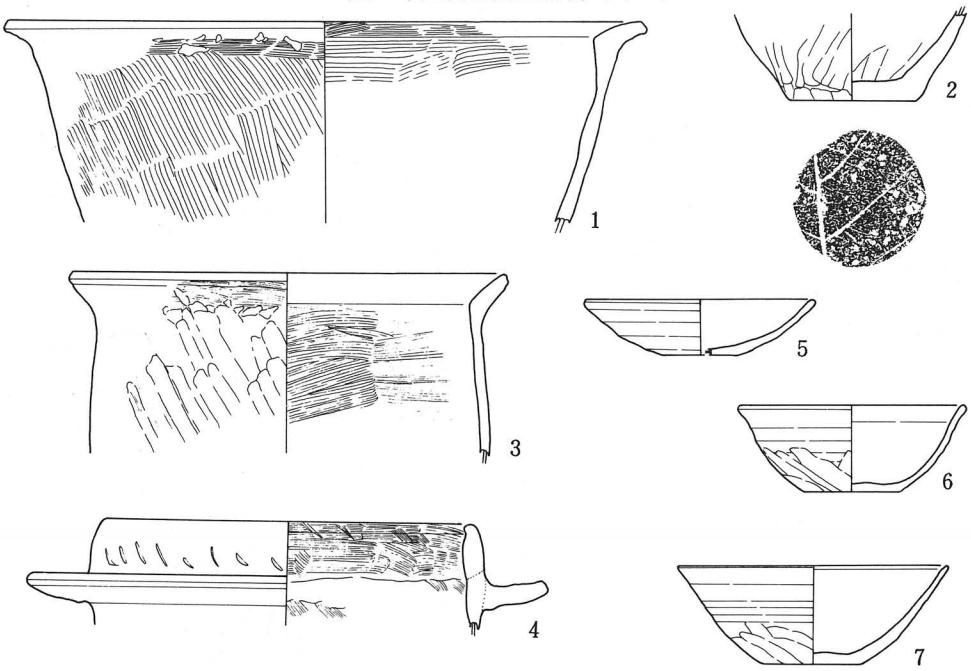
第34図　奈良・平安時代遺物



B区３号住居址出土遺物（1／4）

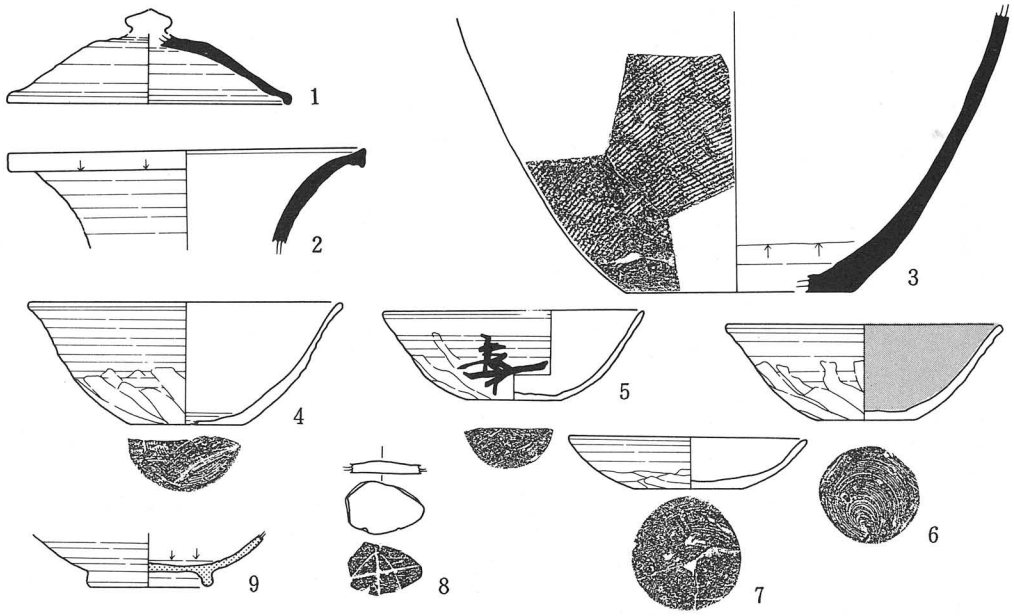


B区４号住居址出土遺物（1／4）

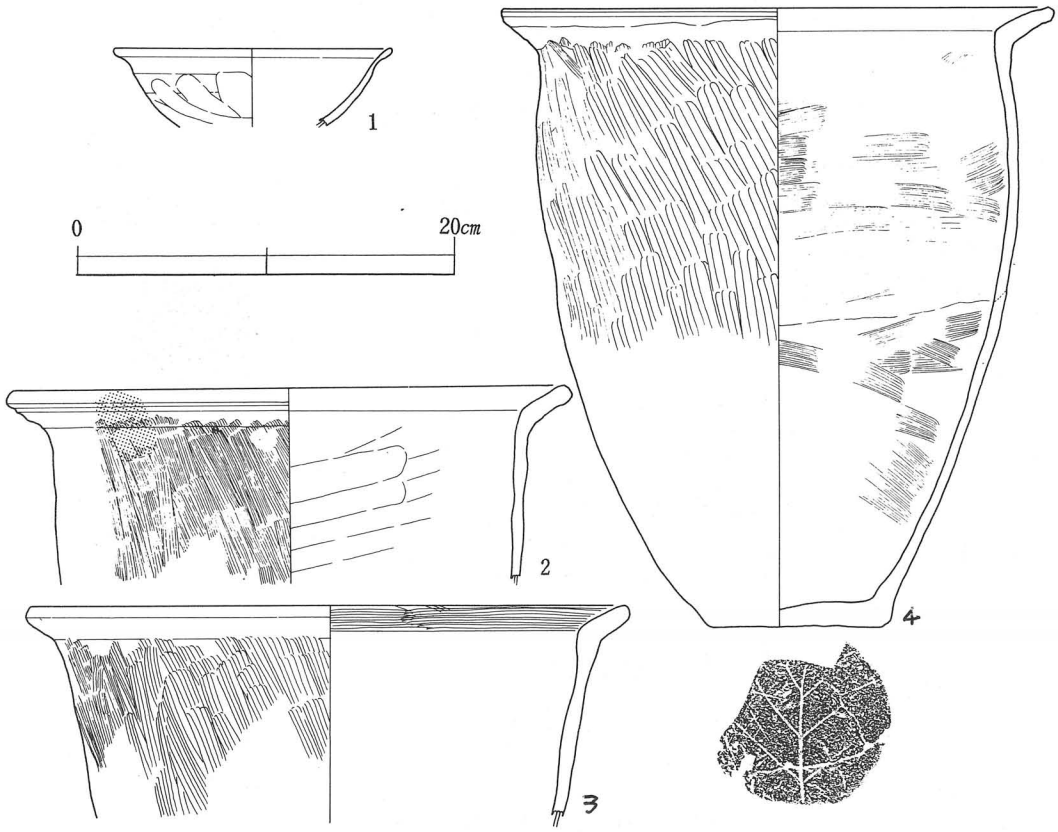


B区５号住居址出土遺物（1／4）

第35図　奈良・平安時代遺物

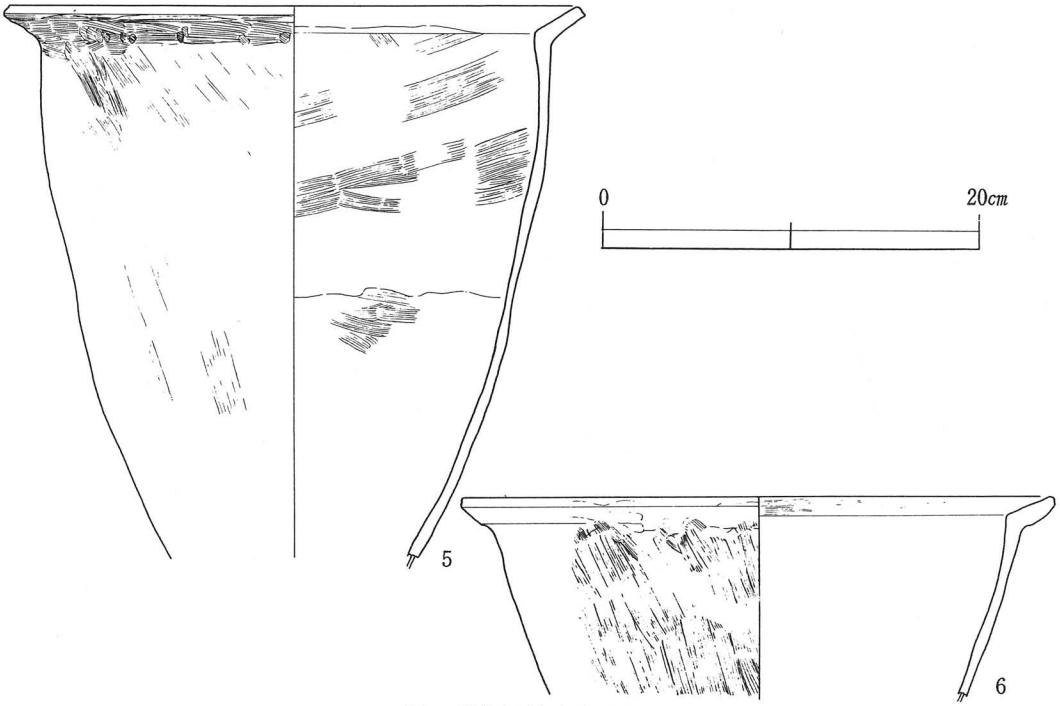


B区6号住居址出土遺物（1／4）

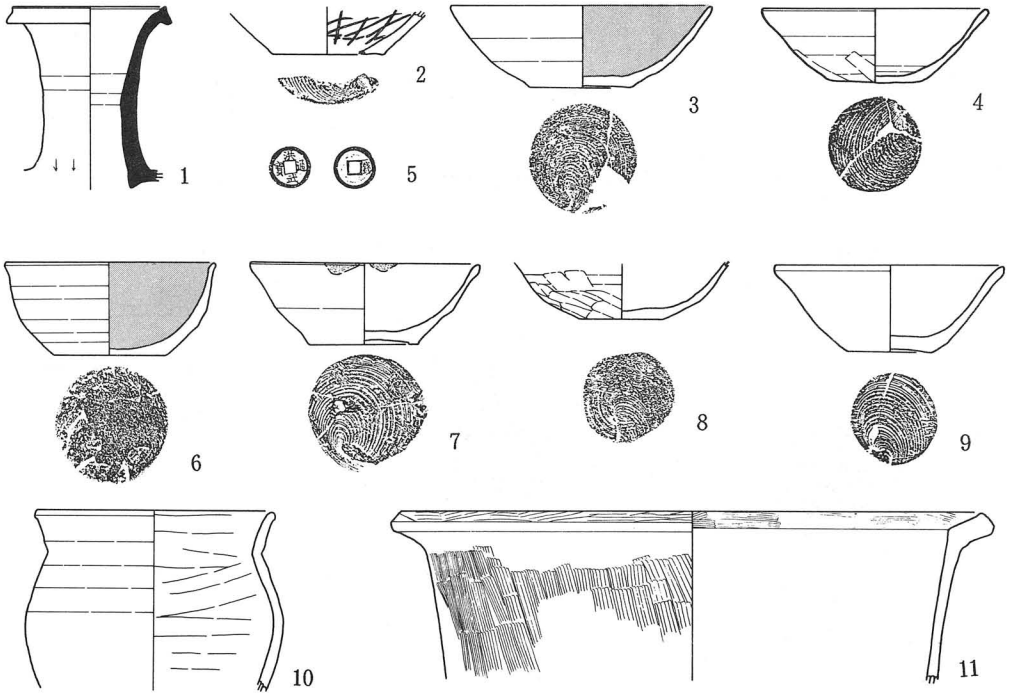


B区8号住居址出土遺物（1／4）

第36図　奈良・平安時代遺物

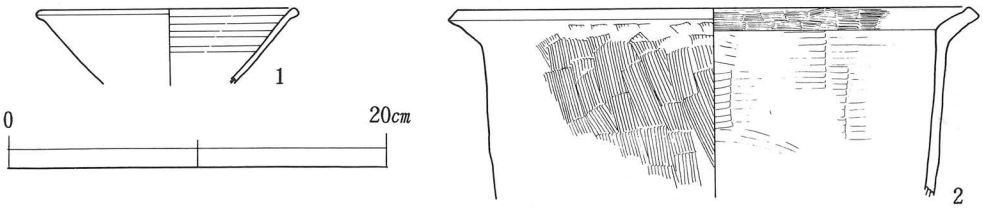


B区８号住居址出土遺物（1／4）

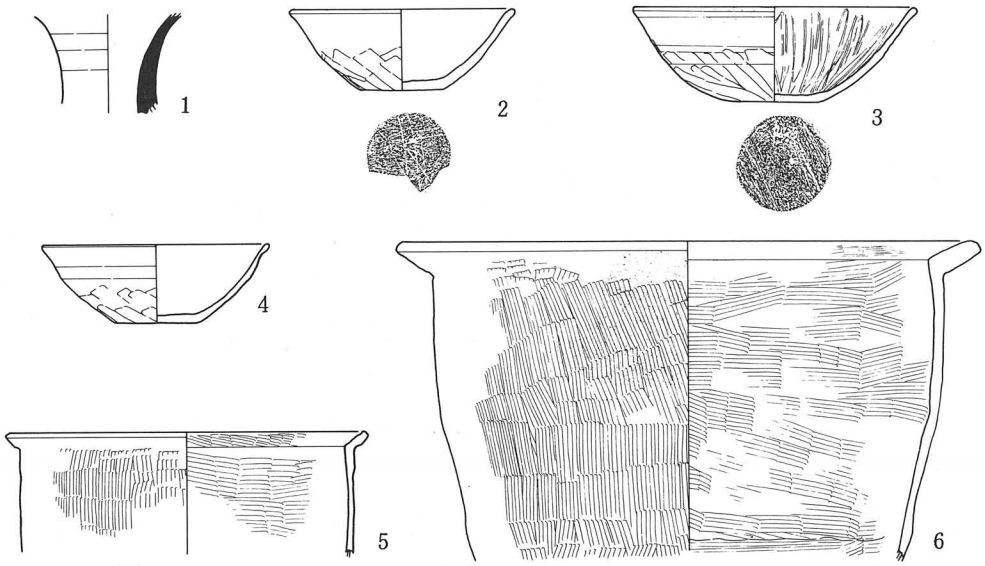


B区９号住居址出土遺物（1／4）

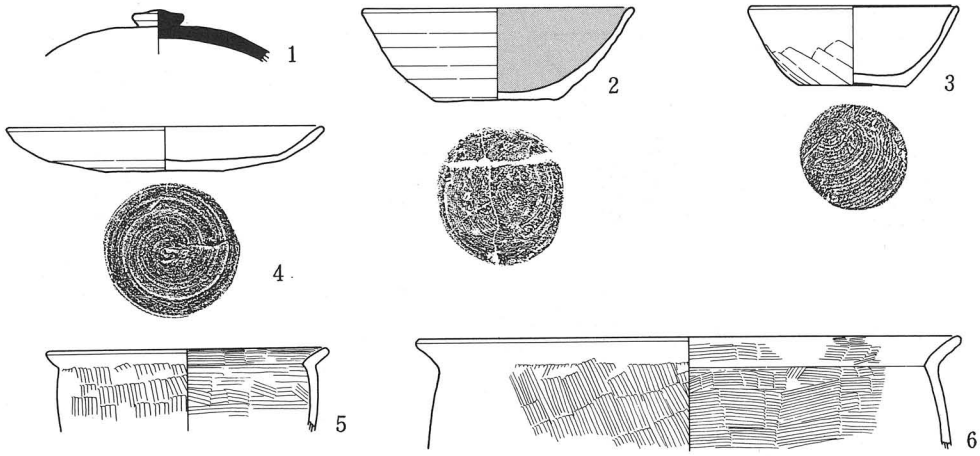
第37図　奈良・平安時代遺物



B区10号住居址出土遺物（1／4）

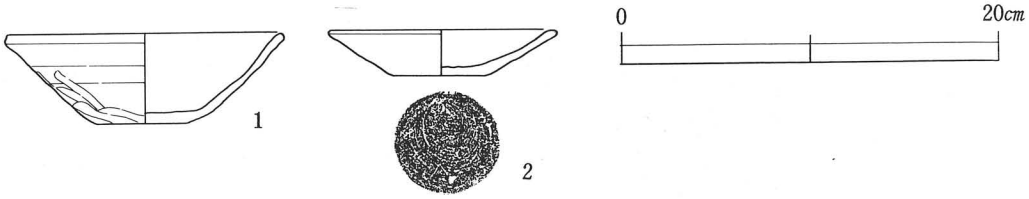


B区11号住居址出土遺物（1／4）

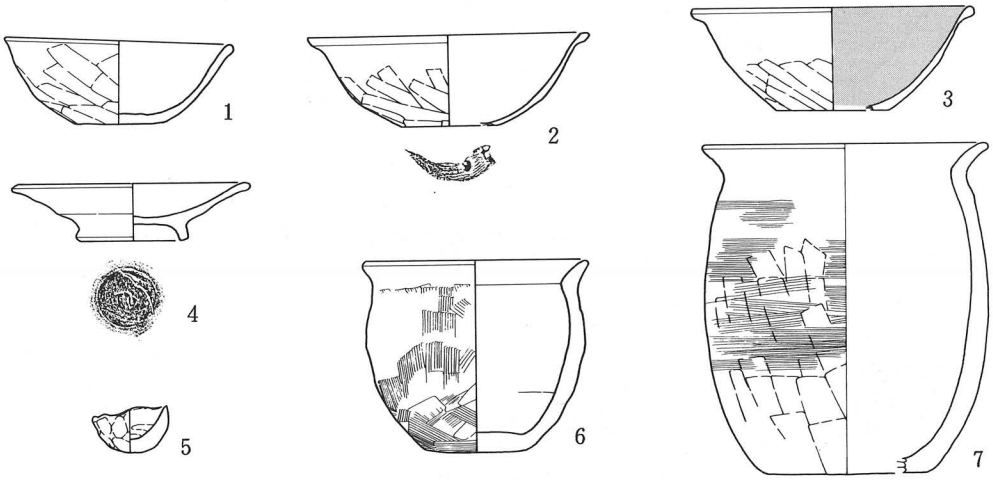


B区12号住居址出土遺物（1／4）

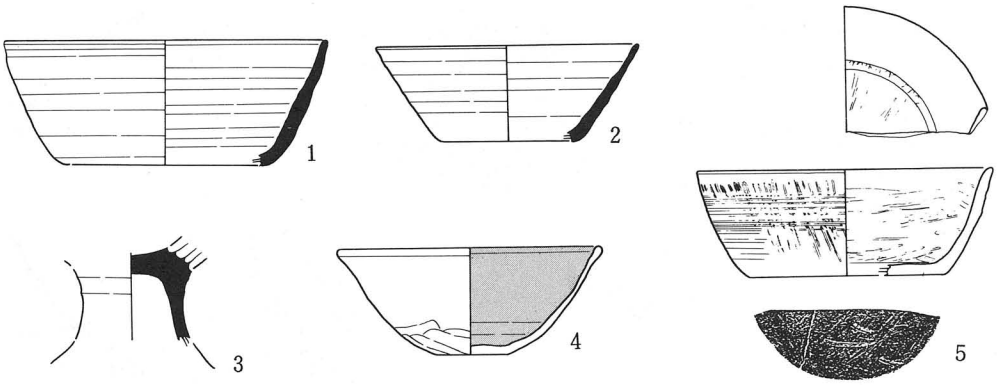
第38図　奈良・平安時代遺物



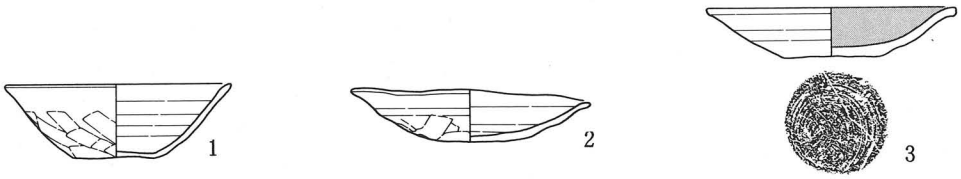
B区14号住居址出土遺物（1／4）



B区15号住居址出土遺物（1／4）

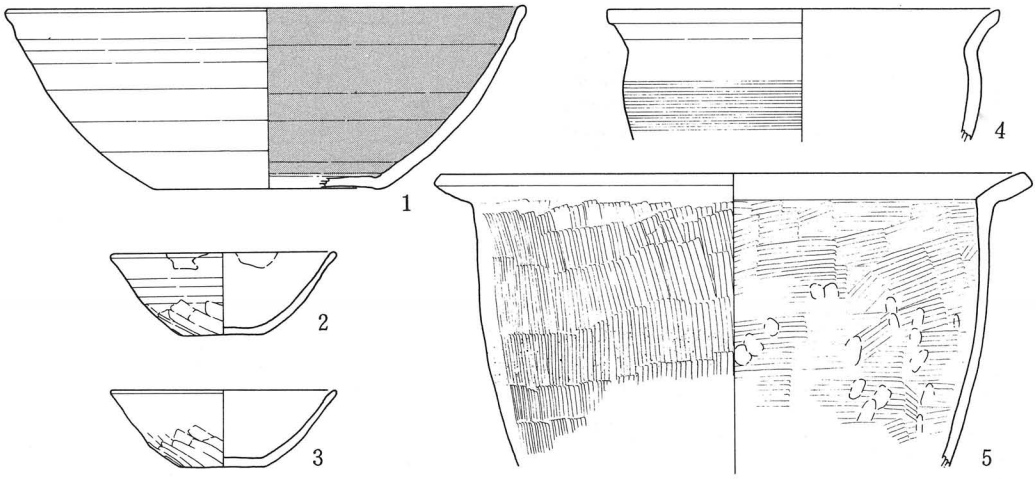


B区16号住居址出土遺物（1／4）

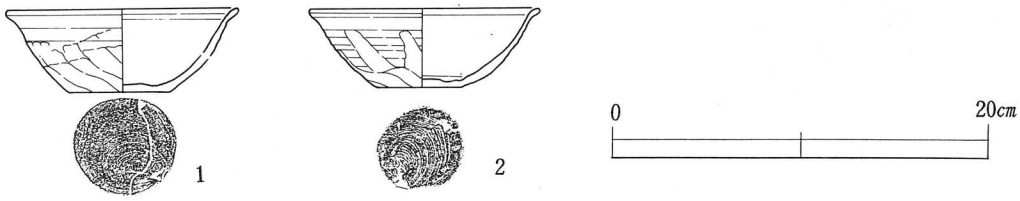


B区17号住居址出土遺物（1／4）

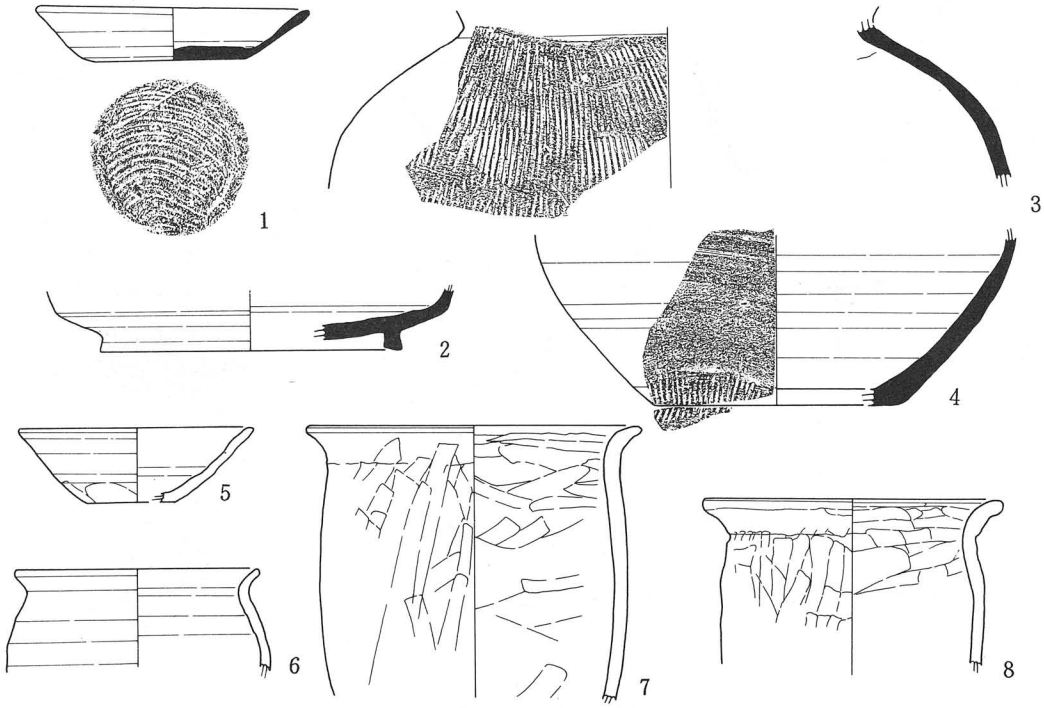
第39図　奈良・平安時代遺物



B区18号住居址出土遺物（1／4）

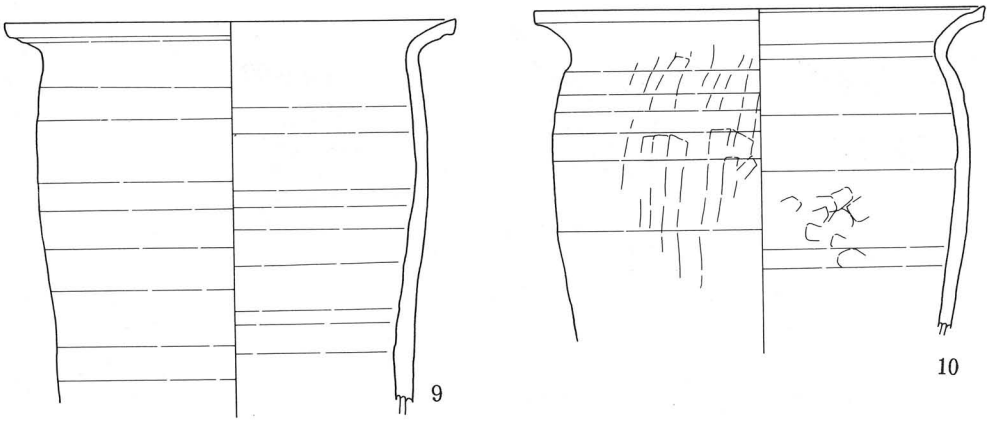


B区20号住居址出土遺物（1／4）

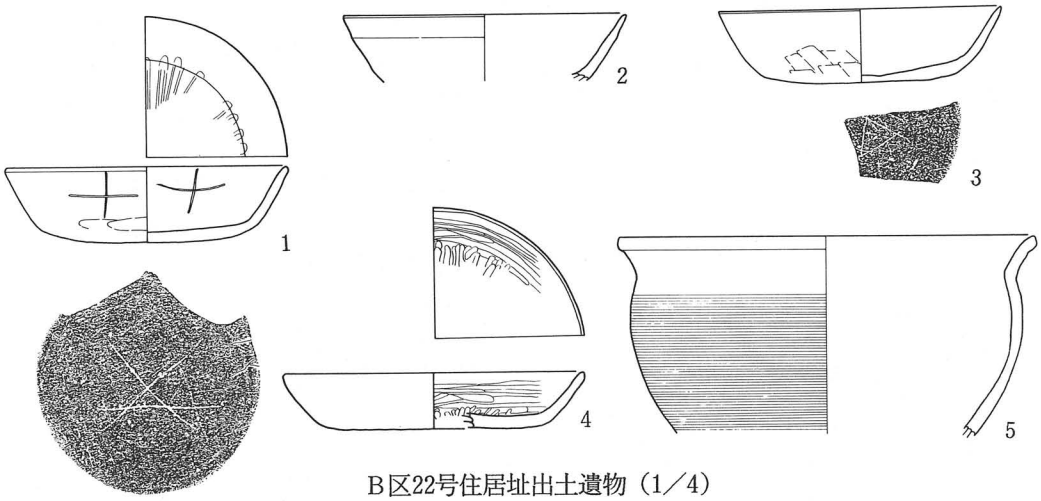


B区21号住居址出土遺物（1／4）

第40図　奈良・平安時代遺物

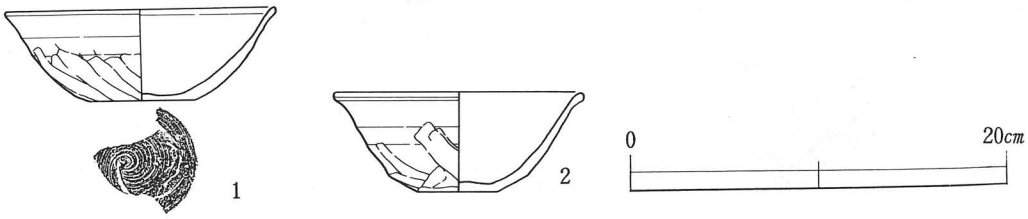


B区21号住居址出土遺物（1／4）



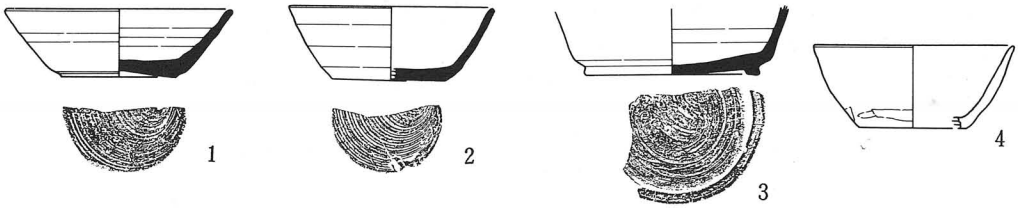
B区22号住居址出土遺物（1／4）

B区23号住居址出土遺物（1／4）

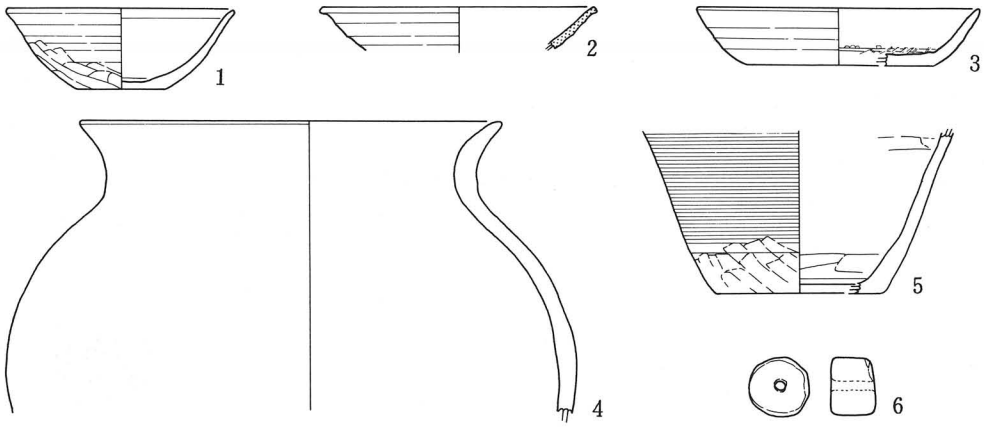


B区25号住居址出土遺物（1／4）

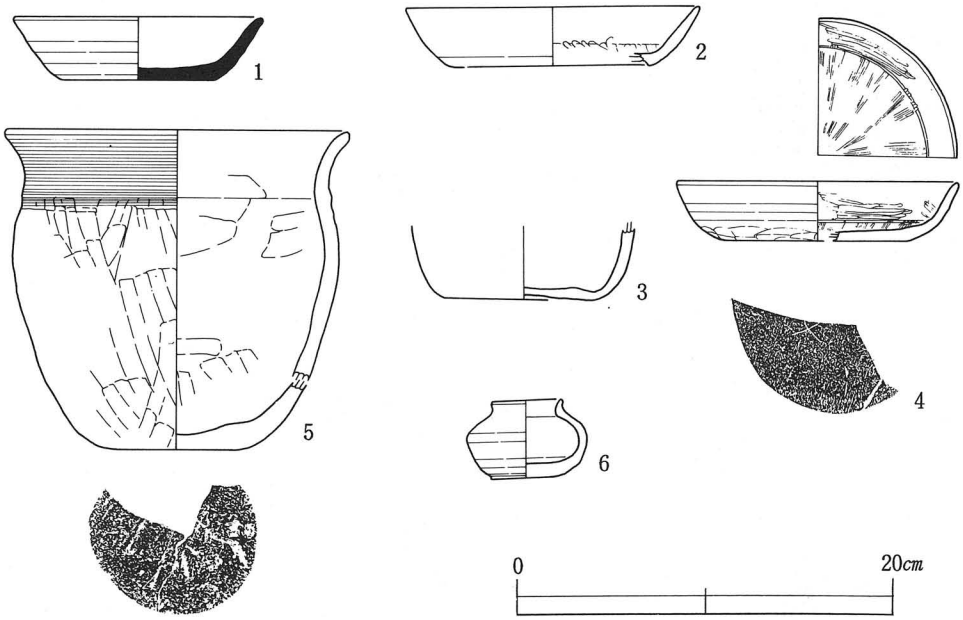
第41図　奈良・平安時代遺物



B区26号住居址出土遺物（1／4）

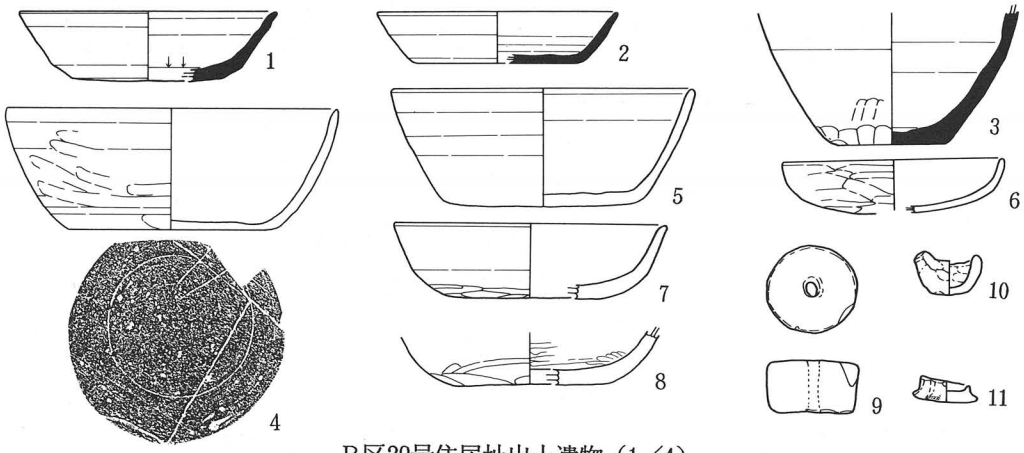


B区27号住居址出土遺物（1／4）

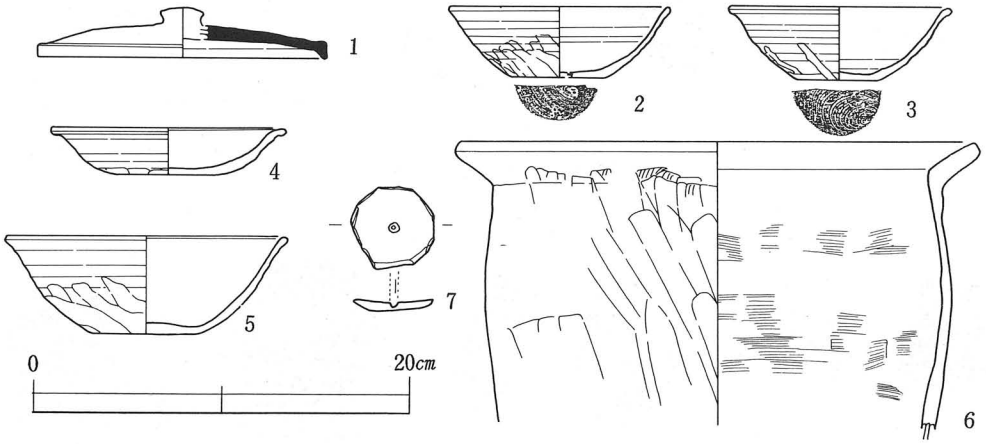


B区28号住居址出土遺物（1／4）

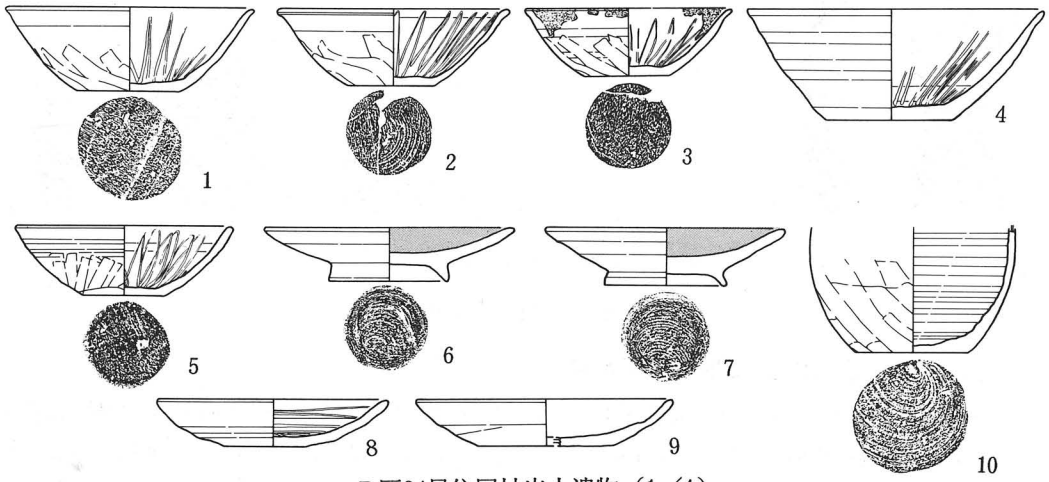
第42図　奈良・平安時代遺物



B区29号住居址出土遺物（1／4）

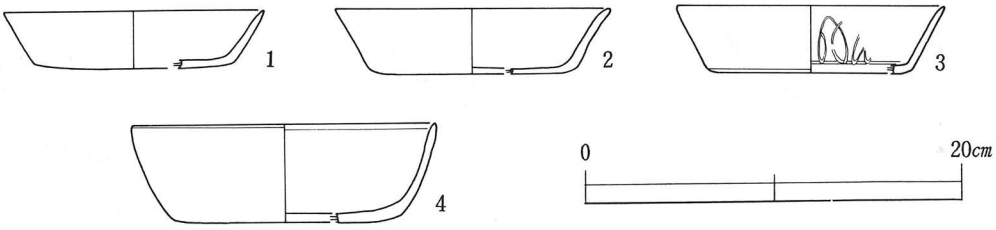


B区30号住居址出土遺物（1／4）

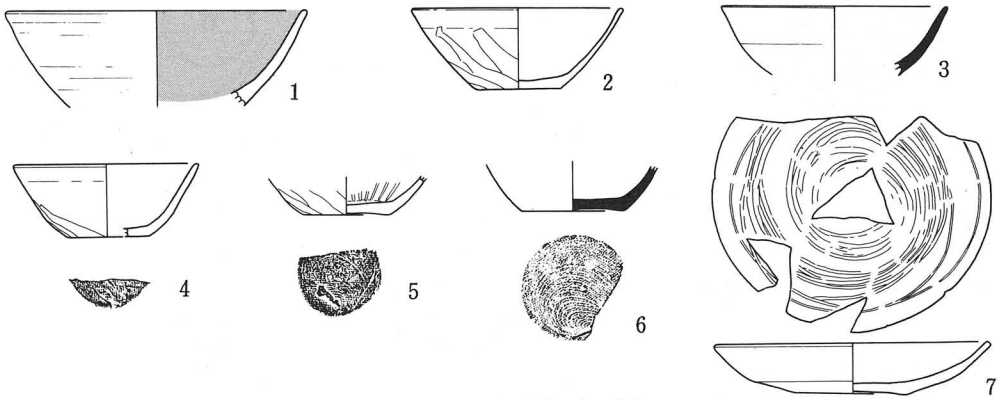


B区34号住居址出土遺物（1／4）

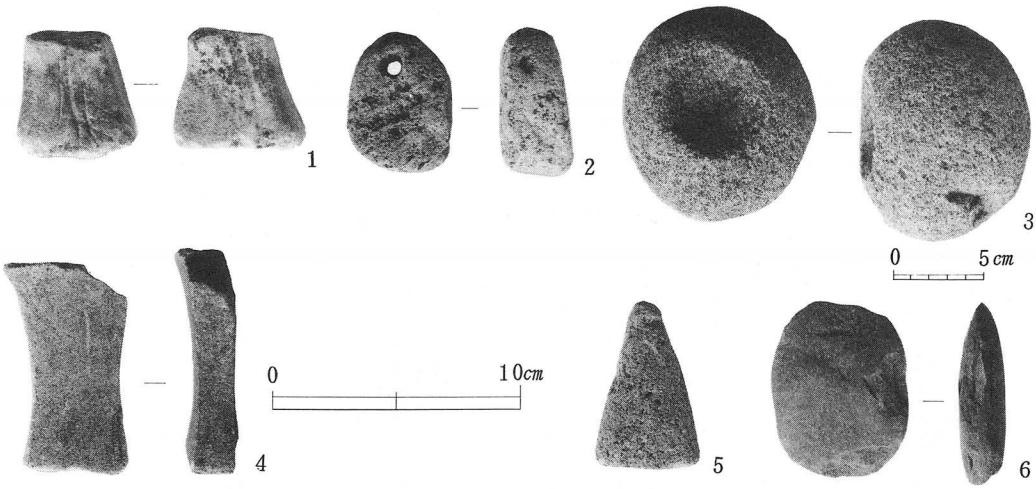
第43図　奈良・平安時代遺物



B区35号住居址出土遺物（1／4）



A区井戸跡内出土遺物（1／4）



B区竪穴住居址出土石器類（3以外はほぼ⅓）

第44図　奈良・平安時代遺物

＜B区竪穴住居址出土石器類＞　（第44図）

1は8号住居址出土の砥石4面に使用痕、その内2面には細い溝がみられる。2は16号住居址出土のもので軽石を加工し片側に孔があけてある。3は32号住居址出土の凹石。4は30号住居址出土の砥石、4面にわたり使用痕があれ。5は8号住居址出土の円錐形をした石器で、軽石でつくられ頂上付近はくびれている。6は35号住居址出土の石器で小判形を呈し、短辺側に抉りが僅かに認められるのでオモリのたぐいと思われる。

Ⅶ まとめ

今回の調査で発見された遺構は、竪穴住居址が主体で縄文時代と、奈良・平安時代とに分かれる。以下にまとめとして遺跡全体の概要を見てみよう。

1　縄文時代

竪穴住居址15軒・土坑１基が発見されている。竪穴住居址は時間的な幅はあるものの、時期的には中期後半に位置付けられるものである。竪穴住居址の形態はほぼ円形で、直径４m前後の規模をもっている。炉は石囲い炉で土器片を敷き詰めたもの、土器を埋めたものなどがみられる。埋甕は南端に発見される例が多い。柱穴は壁際に発見される。竪穴住居址はそのすべてが調査区域南西隅に集中しており、後田遺跡を合わせると、当該区域に比較的大規模な集落が存在していたことが窺える。また南西に流れる溝からは縄文時代の土器が出土している。

土坑はＢ区で発見された。Ｂ区は奈良・平安時代の遺構が主体を占めるが、土坑出土の土器は当地域では類例が少なく貴重な発見であるといえる。

2　奈良・平安時代

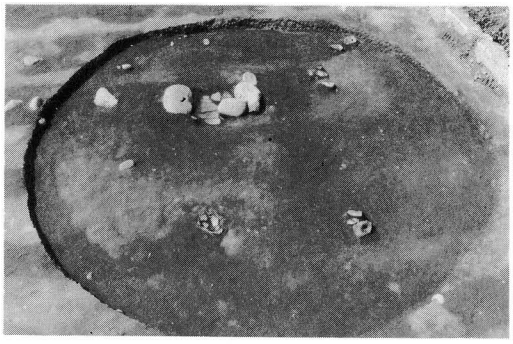
竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑・井戸跡その他溝などが発見されている。竪穴住居址の形態は隅円方形を呈し、平均一辺４m前後の規模をもっている。カマドは北側のものもあるが、東側壁にほとんどが石を用いて構築される。柱穴は無く、周溝があるものもある。掘立柱建物址は側柱形態で二間×二間の規模をもつ。柱穴の形態は方形の掘り方で、26㎝前後の柱痕跡が確認された。遺構の切り合いから住居址よりも古い時期に構築されたものであろうが、伴出遺物が無く年代決定が難しい。ただし方形の掘り方の形態は奈良時代に見られるようである。井戸跡の発見は珍しい例である。当時の生活を知るうえで貴重な資料となるであろう。溝は北から南に流れをもつもの、北東から南西に流れをもつもの、東西に横切るものなどが検出された。東西のものが一番新しく掘られ、北から南のものは奈良・平安時代の遺物が出土している。

竪穴住居址はＡ区では６軒と少なく、そのほとんどがＢ区に集まっている。前期のように本遺跡の北側は宮ノ前遺跡であり、両遺跡を合わせると450軒以上の奈良・平安時代の竪穴住居址が密集しており、一大集落が長い期間営まれていたことを窺い知ることができる。なお竪穴住居址の内本報告書で取り上げたのは53軒であるが、他のものは宮ノ前遺跡との境目に重複して検出されており、詳細は宮ノ前遺跡報告書に譲ることとしておきたい。

おわりに

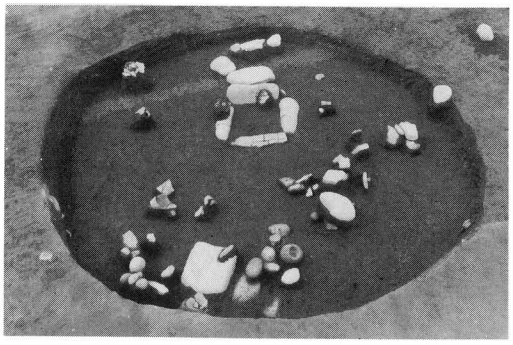
北後田遺跡の発掘調査で発見された遺構並びに遺物は、縄文時代、奈良・平安時代のものであり、質量ともに豊富である。これらの資料は当時の社会構造を解明する上で重要な意味をもつものと考えられる。しかし今回の報告は、限られた作業の中でなされたものであり、竪穴住居址とそれに伴う遺物を中心に資料を掲載・提示したにすぎない。調査の成果と資料の分析・検討が総体に行き届かず不十分な点は否めないが、本報告書が今後の調査・研究に活用されれば望外の喜びである。

写　真　図　版



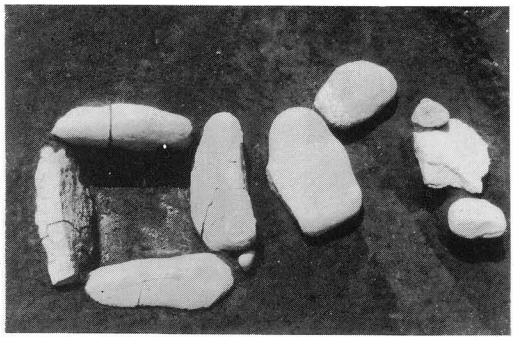
A区3号住居址

A区4号住居址

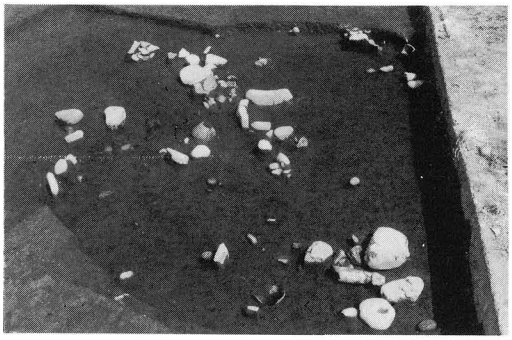


A区5号住居址遺物出土状態

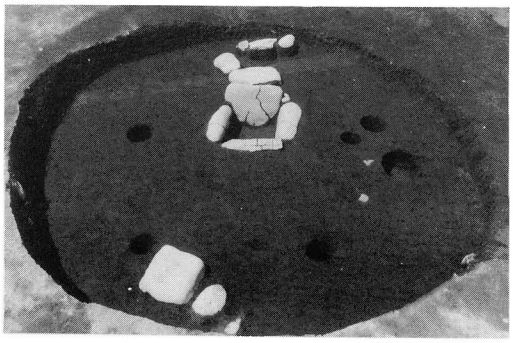
A区6号住居址



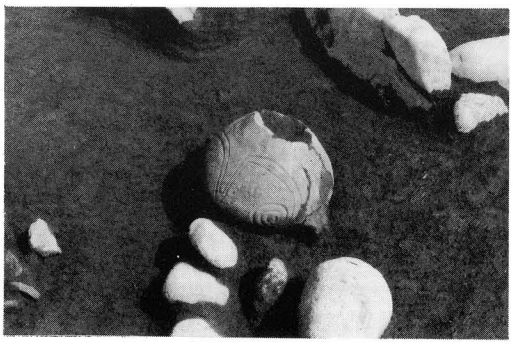
A区5号住居址炉



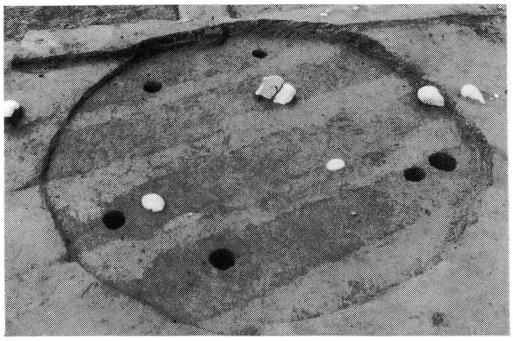
A区8号住居址遺物出土状態



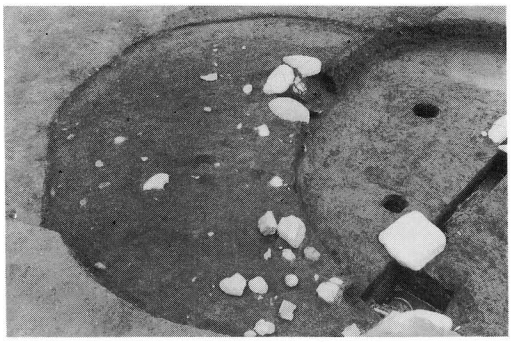
A区5号住居址



A区8号住居址土器出土状態

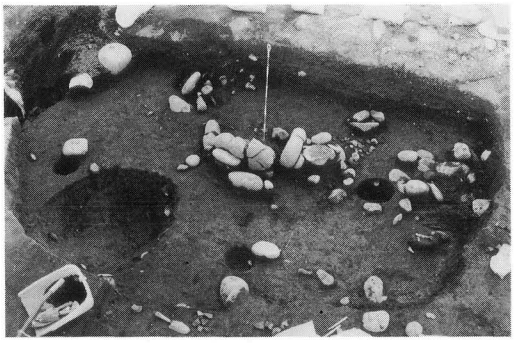


A区 9 号住居址

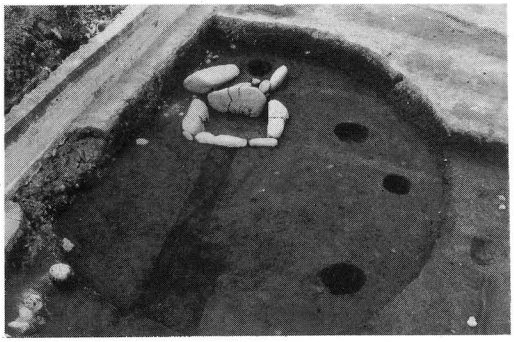


A区10号住居址

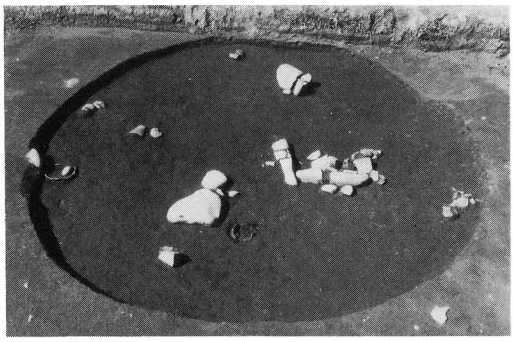
A区13号住居址



A区14号住居址



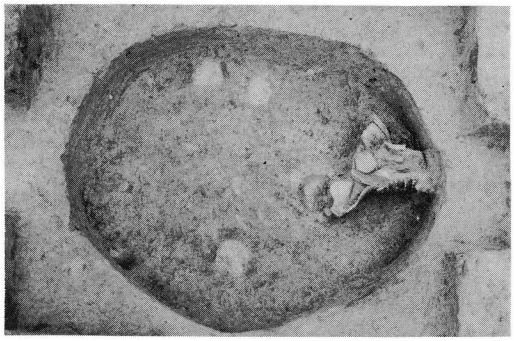
A区15号住居址



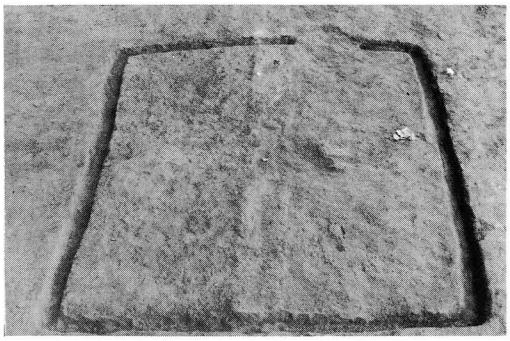
A区19号住居址

A区20号住居址

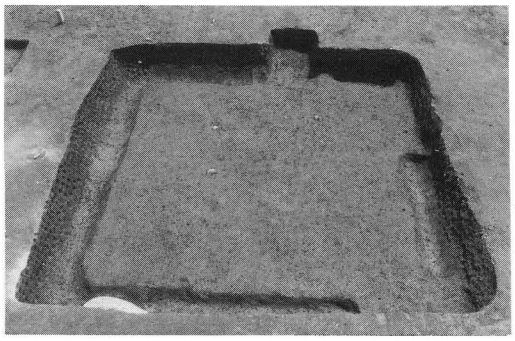
A区21号住居址



B区１号土坑

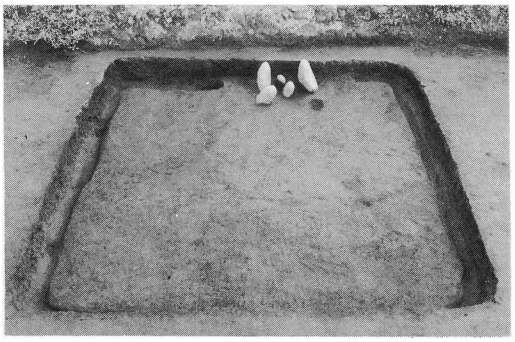


A区１号住居址

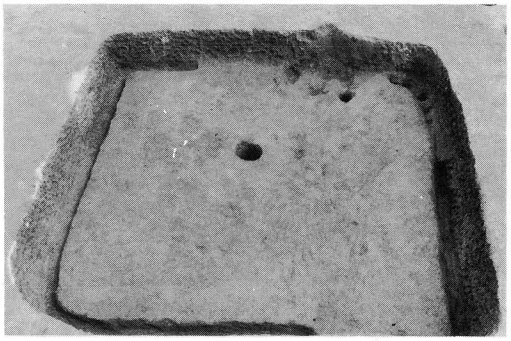


A区２号住居址

A区７号住居址



A区16号住居址

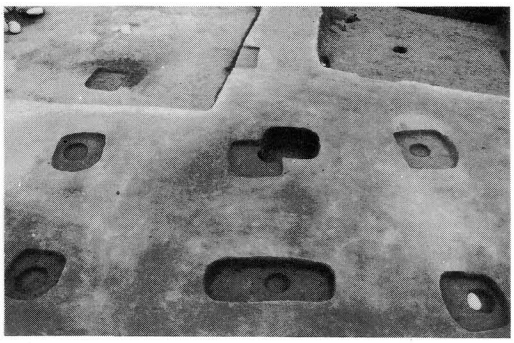


A区17号住居址

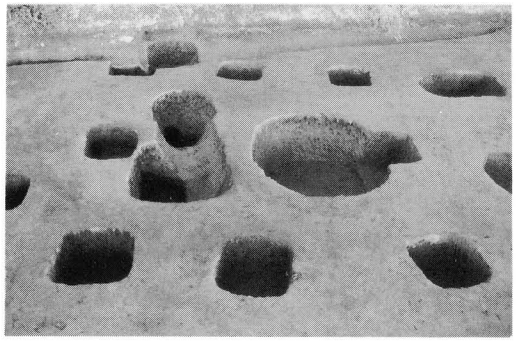
A区18号住居址

A区調査風景

A区1号掘立柱建物址

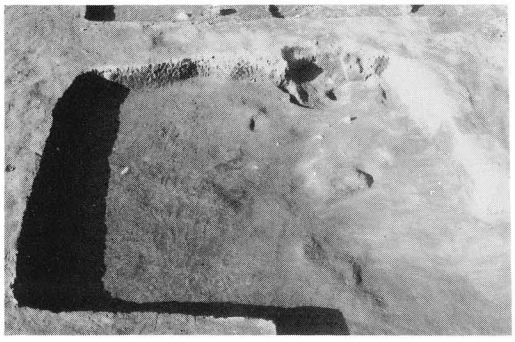


A区2号掘立柱建物址

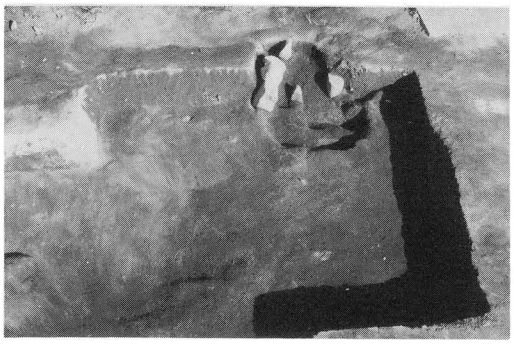


A区3号掘立柱建物址

A区4号掘立柱建物址

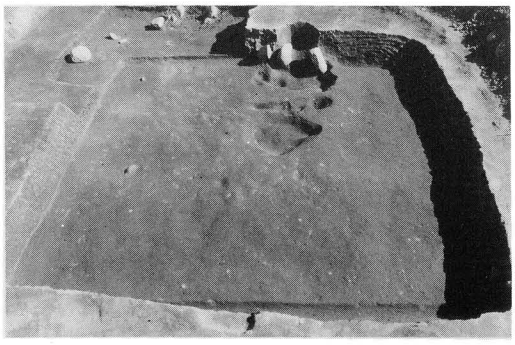


B区1号住居址



B区2号住居址

B区4号住居址



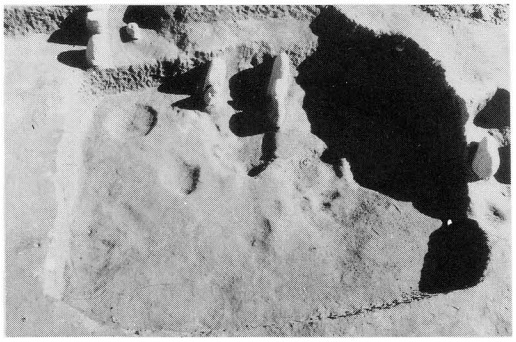
B区6号住居址

B区７号住居址

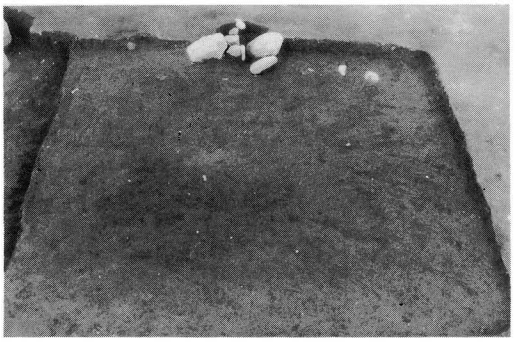
B区８号住居址

B区９号住居址

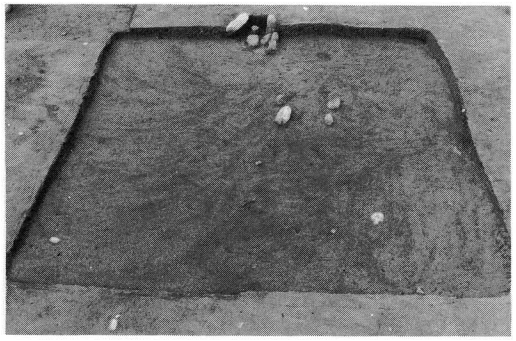
B区11号住居址



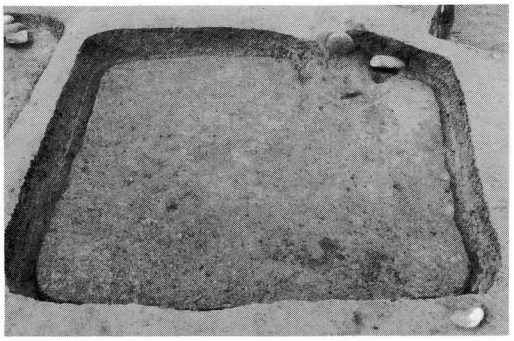
B区12号住居址



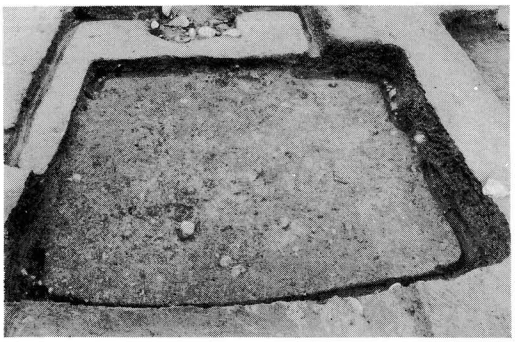
B区13号住居址



B区14号住居址



B区15号住居址



B区16号住居址

B区17号住居址

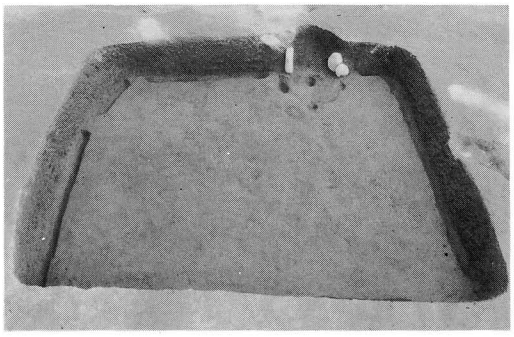
B区18号住居址

B区21・33号住居址

B区22号住居址

B区24号住居址

B区25号住居址



B区26住居址

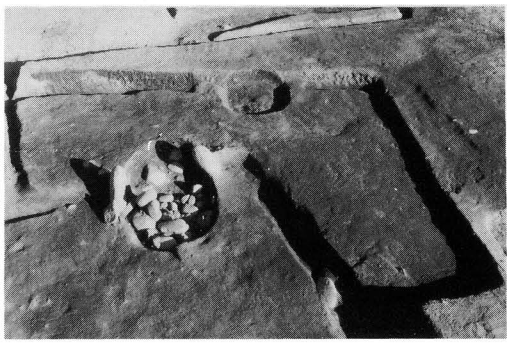
B区27号住居址

B区28号住居址

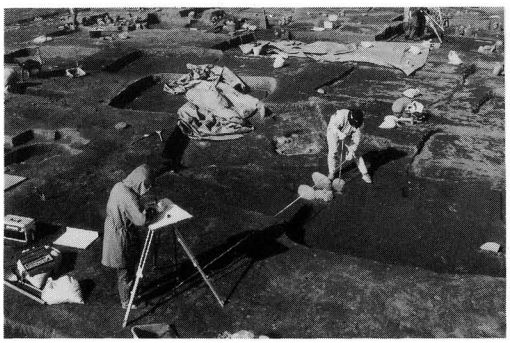
B区29号住居址

B区30・35号住居址

B区31号住居址

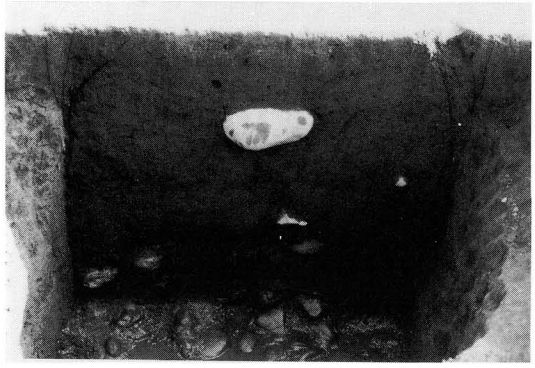


B区32号住居址



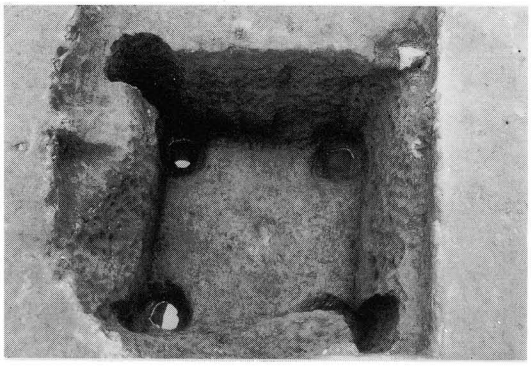
B区調査風景

遺跡近景

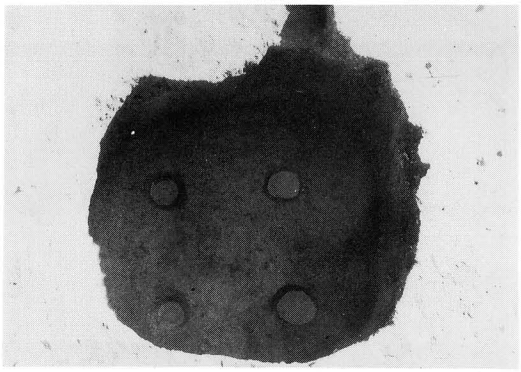


A区井戸跡断面図

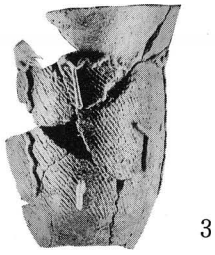
A区井戸跡内部



A区井戸跡

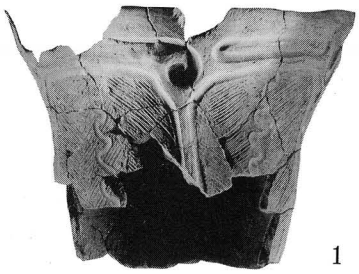


A区井戸跡完掘



3

A区3号住居址出土遺物



1

6

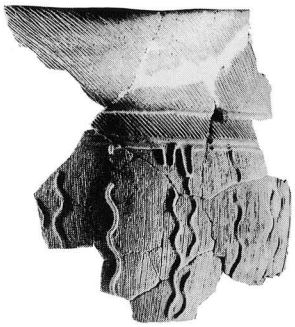
5

2

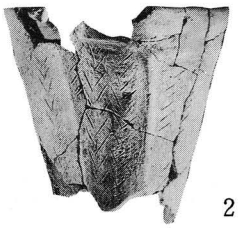
7

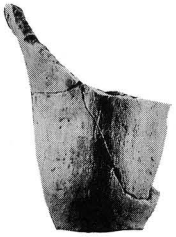
9

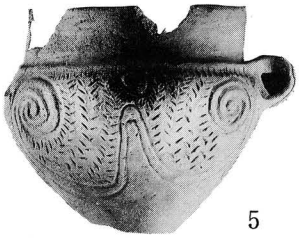
A区5号住居址出土遺物

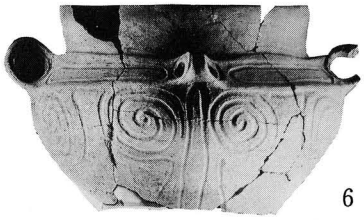


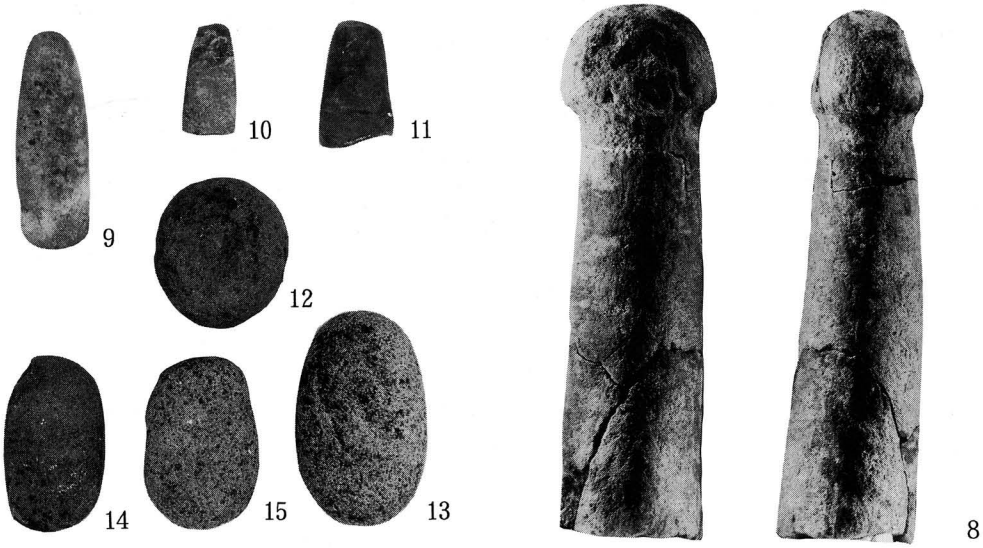
A区6号住居址出土遺物









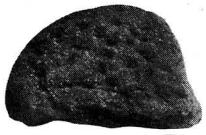


A区8号住居址出土遺物

2

A区 9 号住居址出土遺物

1



4

A区10号住居址出土遺物

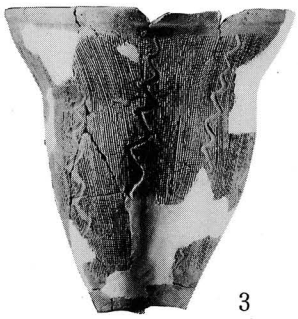
1

A区13号住居址出土遺物

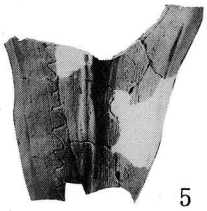
1

A区14号住居址出土遺物

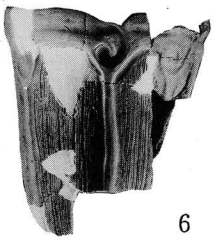
1



3



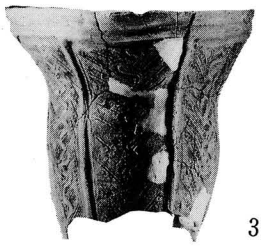
5



6

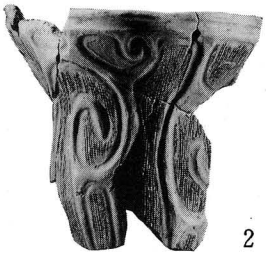
A区15号住居址出土遺物

1

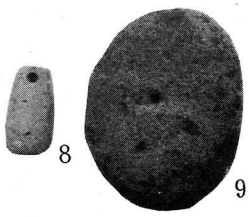

3

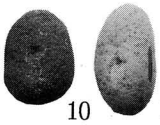
A区19号住居址出土遺物

1

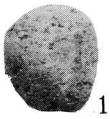

2

3


8 9

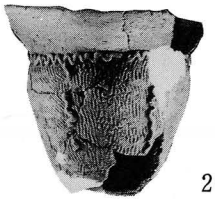

10 11

12


13

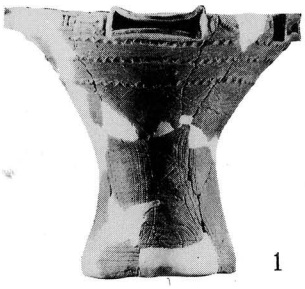
14

A区20号住居址出土遺物

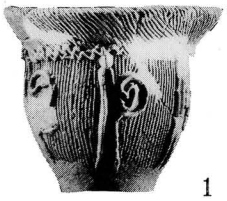

2

1

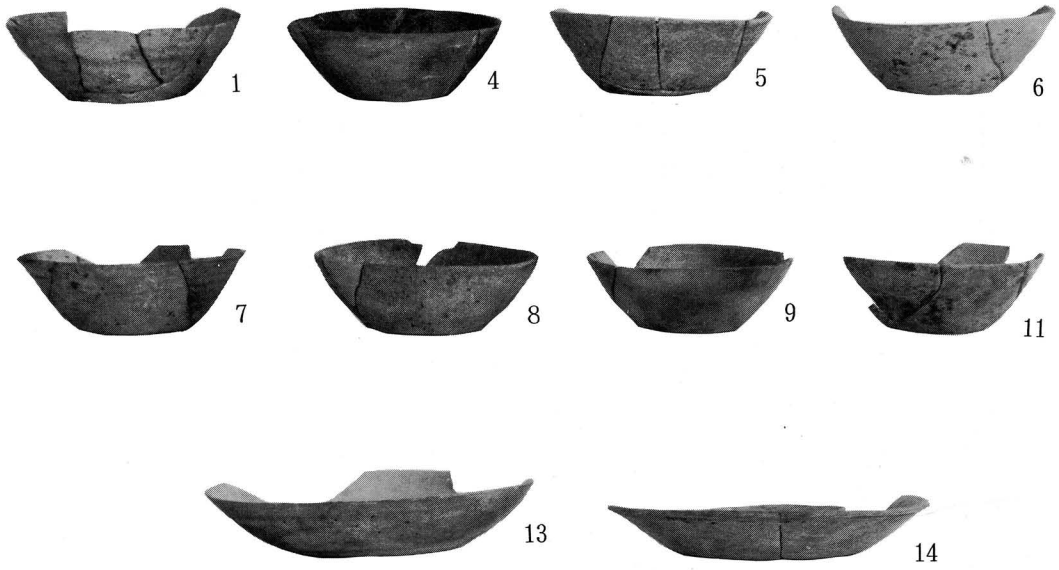
A区21号住居址出土遺物


1

B区１号土坑出土遺物

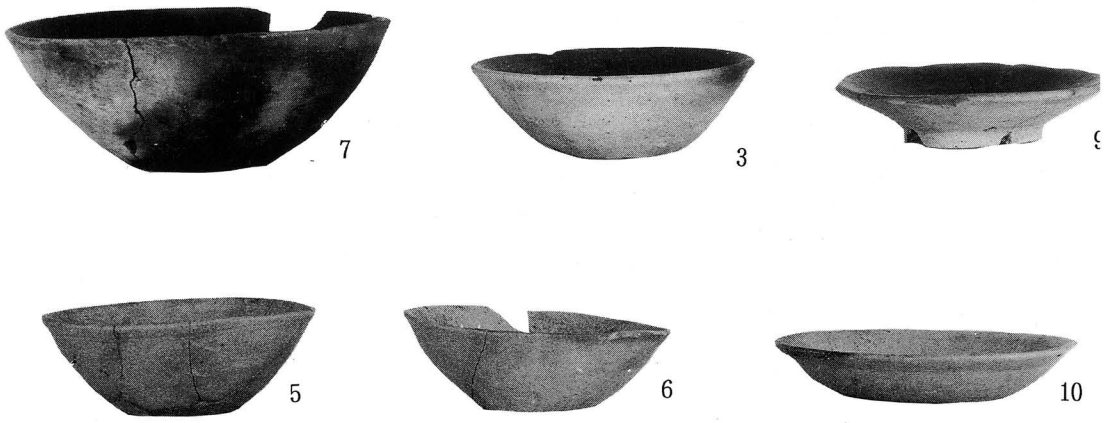

1

A区遺構外出土遺物



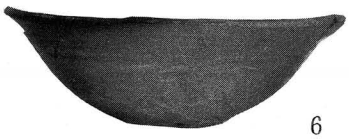
A区16号住居址出土遺物

A区18号住居址出土遺物



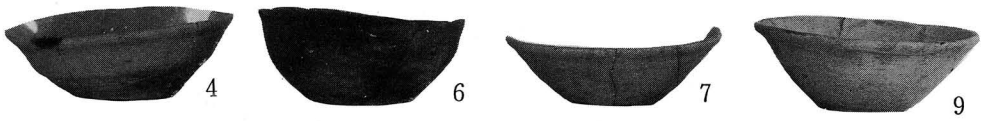
B区２号住居址出土遺物

B区 4 号住居址出土遺物



B区 6 号住居址出土遺物

B区 8 号住居址出土遺物

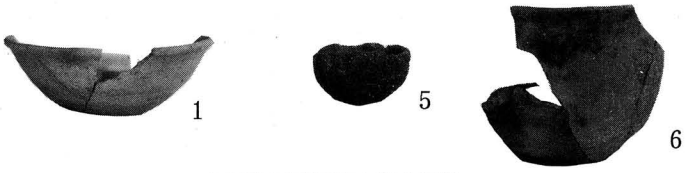


B区 9 号住居址出土遺物

B区11号住居址出土遺物

B区12号住居址出土遺物

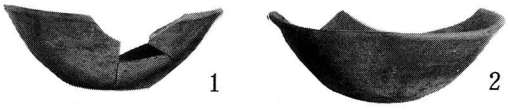
B区14号住居址出土遺物



B区15号住居址出土遺物

B区17号住居址出土遺物

B区18号住居址出土遺物

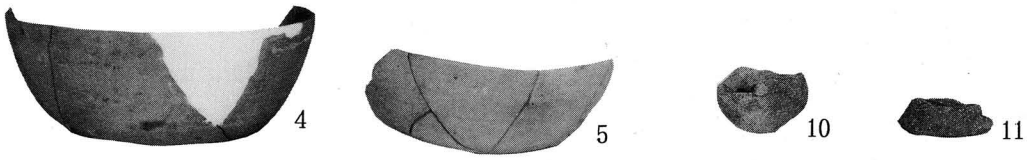


B区20号住居址出土遺物

B区21号住居址出土遺物

B区22号住居址出土遺物

B区28号住居址出土遺物



B区29号住居址出土遺物

B区34号住居址出土遺物

A区井戸跡出土遺物

北後田遺跡調査途中空中写真

北後田遺跡

発行日　平成2年3月31日
発　行　韮崎市教育委員会
〒407 山梨県韮崎市水神一丁目3番1号
TEL 0551－22－1111㈹
印　刷　アートプリント社